

徳島県立博物館年報

第22号（平成24年度）

Annual Report of the Tokushima Prefectural Museum
No. 22 (for the fiscal year of 2012)

目 次

徳島県立博物館の使命	2	5. 他機関との共同研究	39
I 展 示		6. 研究成果の公表	39
1. 常設展	3	VI 資料の収集・保存と活用	
2. 企画展	5	1. 採集資料	44
3. 特別陳列	10	2. 購入資料	44
4. 館外での展示	12	3. 寄贈資料	44
5. 常設展の更新及び活性化に向けての 取り組み	13	4. 寄託資料	46
6. 展示関係出版物	14	5. 資料の貸し出し	46
II 普及教育		6. 写真・映像の提供	47
1. 普及行事	15	7. 資料の提供	47
2. 学校教育支援事業	18	8. 資料の交換	48
3. 博物館友の会	22	9. 館蔵資料数	48
4. 県民参画活動の推進	23	10. 資料収集委員会	48
5. 普及教育関係出版物	23	11. 文献資料の収集	48
6. 徳島新聞「こども新聞」への協力	24	12. 資料の保存	49
III 情報の発信と公開		VII 管理運営・マネージメント	
1. 博物館の広報活動	25	1. 組織・職員	50
2. テレビ・ラジオへの出演等	26	2. 予算	50
3. インターネットによる情報提供	26	3. 観覧料減免の拡大	51
4. 外部ネットワークとの連携	27	4. 文化の森の連携事業	51
5. 情報システムの概要	27	5. 防災及び危機管理	51
IV シンクタンクとしての社会貢献		6. 博物館協議会	51
1. レファレンス業務	29	7. 各種研修会への参加	52
2. 各種委員会委員等の受諾	29	8. 視察等博物館関係来訪者	52
3. 講師の派遣	30	VIII 中期活動目標と自己評価	
4. 大学教育への寄与	31	1. 中期活動目標	53
5. 学会・研究会等の運営への寄与	33	2. 24年度実績と自己評価	59
6. 博物館ネットワーク	33	IX 観覧者統計	72
V 調査研究		X 施設の概要	
1. 課題調査	35	1. 沿革	75
2. 分野別（個別）調査研究	36	2. 施設の概要	75
3. 分野別（個別）調査研究等の館内 公表会（セミナー）の実施	38	3. 博物館各室面積	77
4. 科学研究費補助金等による研究	38	XI 例 規	79

徳島県立博物館の使命

徳島の自然・歴史・文化の宝箱

—県民とともに成長する博物館—

徳島県立博物館は、徳島の自然や歴史・文化についての資料・情報にもとづく学びの場として、県民のみなさんとともに成長していきます。

知

知と出会う博物館

博物館は、徳島の自然・歴史・文化について情報を発信し、県民のみなさんとともに楽しく学ぶ場を創ります。

探

地域の魅力を探る博物館

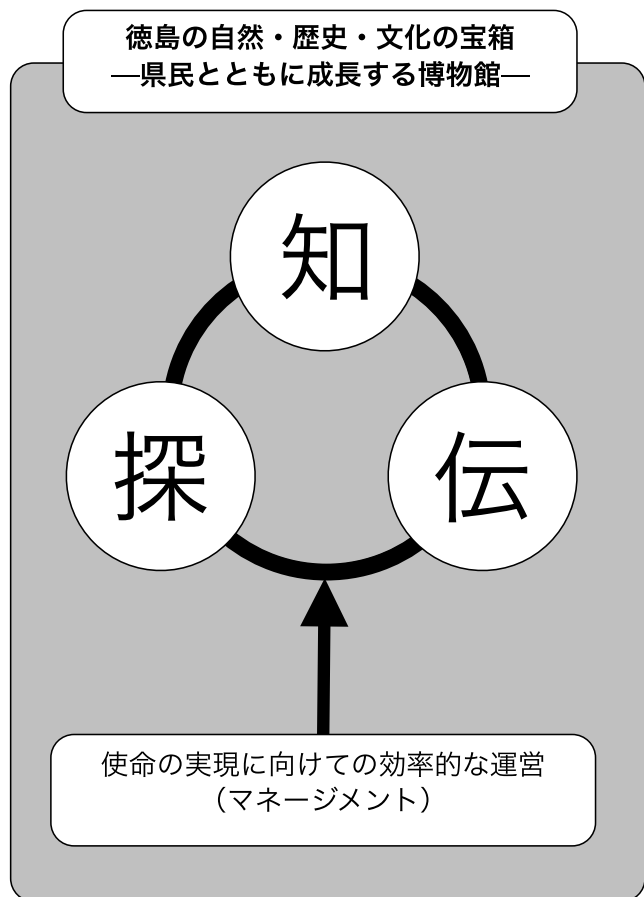
博物館は、徳島の自然・歴史・文化について県民のみなさんとともに調べ、地域の魅力を見つけます。

伝

未来にまもり伝える博物館

博物館は、徳島の自然・歴史・文化についての資料を県民のみなさんとともに集め、「みんなの宝」としてまもり、未来に伝えます。

博物館では、効率的な運営を心がけながら、以上の使命を実現するために努力していきます。



使命と事業の関係

- 1 知—知と出会う博物館
 - (1) 展示
 - (2) 普及教育
 - (3) 情報の発信と公開
 - (4) シンクタンクとしての社会貢献
- 2 探—地域の魅力を探る博物館
 - (1) 調査研究
- 3 伝—未来にまもり伝える博物館
 - (1) 資料の収集・保存と活用
- 4 使命の実現に向けての効率的な運営
 - (1) マネージメント（経営）

本文における事業の配列は、この構成にもとづいたものである。

I 展 示

博物館の展示は、常設展と企画展から成る。

常設展は、徳島の自然と歴史・文化、自然のしくみ等が概観でき、また、全国的・世界的なかかわりについても理解できるよう、様々なテーマを定めて展示している。部分的な展示替えや資料の入れ替えは随時行っているが、基本的な展示の構成は開館以来変わっていない。したがって、学問の進展によって展示内容が古くなった箇所が生じたり、開館以来の資料や情報の蓄積が顕著でかつ社会的な要請の高いテーマが展示できていなかったりするなど、常設展の更新（リニューアル）が大きな課題となっている。現在は予算を伴わない小規模な展示替えに取り組んでいる。

企画展は、専用の企画展示室を使って行うことにしている。従来は年3回行っていたが、平成23年度から予算削減等の理由から2回とし、削減した1回分をより低予算の「特別陳列」に変更した。各分野・分類群の館蔵コレクションの紹介、学芸員の研究成果に基づく地域自然誌や歴史・文化の紹介、全国的あるいは世界的な広がり資料の展示など様々なテーマをおりまぜ、2、3年先までのスケジュールをたてて計画的に取り組んでいる。しかしながら、年々企画展予算が削減され、規模の大きな企画展の開催は難しくなっている。

1. 常設展

(1) 常設展の構成

博物館の常設展示は、総合展示、部門展示およびプラタ記念ホールの展示の3つから構成されている。

●総合展示

「徳島の自然と歴史」を総合テーマとし、徳島の歴史と文化、現在の自然の姿が概観できるよう、次の7つの大テーマにそって展示が展開されている。

1. 日本列島と四国のおいたち
2. 狩人たちの足跡
3. ムラからクニへ
4. 古代・中世の阿波
5. 藩政のもとで
6. 近代の徳島
7. 徳島の自然とくらし

●部門展示

総合展示とはちがった角度から、分野ごとの個別的、分類的な展示を行っている。

人文：近世の焼き物／なつかしいモノたち／鳴門の塩業資料 など

自然：いろいろな岩石／鉱物／いろいろな動物／生物の生活と自然のしくみ など

●ラプラタ記念ホールの展示

アルゼンチン共和国のラプラタ大学から寄贈された南アメリカ特有の更新世哺乳動物化石を展示している。

主な展示資料：

- メガテリウム全身骨格（レプリカ）
- パノクツス全身骨格及び甲羅
- マクラウケニア全身骨格（レプリカ）
- トクソドン全身骨格（レプリカ）
- スミロドン全身骨格（レプリカ）
- ヒッピディオン全身骨格（レプリカ）
- ステゴマストドン頭骨（レプリカ）

(2) 部門展示の展示替え

部門展示（人文）では、テーマを決めて随時展示替えをしている。平成20年度から、多様な資料の公開をはかるため、自然史関係の展示も行っている。

●阿波の遠洋漁業

4月3日（火）～7月8日（日）

展示資料点数 66点（館蔵資料66点）

徳島県南部の沿海地域出身者らによる遠洋漁業は、



「阿波の遠洋漁業」の展示風景

4 展示

明治中期から昭和後期にかけて盛んに行われてきた。その代表例として、福岡県博多港、長崎県長崎港、山口県下関港などを根拠地として東シナ海などに出漁した、美波町や阿南市出身者らによる底曳網漁業、神奈川県三崎港を根拠地として南洋まで出漁した牟岐町、海陽町出身者らによる遠洋マグロ漁業をあげることができる。この展示では、館蔵の漁撈具、水産加工具、漁業記録、写真等さまざまな資料から、遠洋漁業について多角的に紹介した。

●兵士たちの戦争

7月10日（火）～10月8日（月・祝）

展示資料 65点（館蔵資料65点）

生身の人間が消費されるという戦争の残酷さを考えてもらうため、当館で収集してきた戦争関係資料のうち、戦場で用いられた各種の装備品や兵士の遺品などを、できるだけ実在した個々の「人」につながる形で展示した。

●ミニ鉱物展

12月4日（火）～2月3日（日）

展示資料 120点（館蔵資料93点、借用資料27点）

県内の個人コレクションや館蔵標本をもとに、世界各地から産出したみごとに色や形の標本、眉山や高越山など身近な地域から得られた標本、各種鉱物の標本などを展示し、鉱物がもっている多様さやおもしろさの一端を紹介した。

●簪と櫛

2月5日（火）～翌年度（4月7日（日））

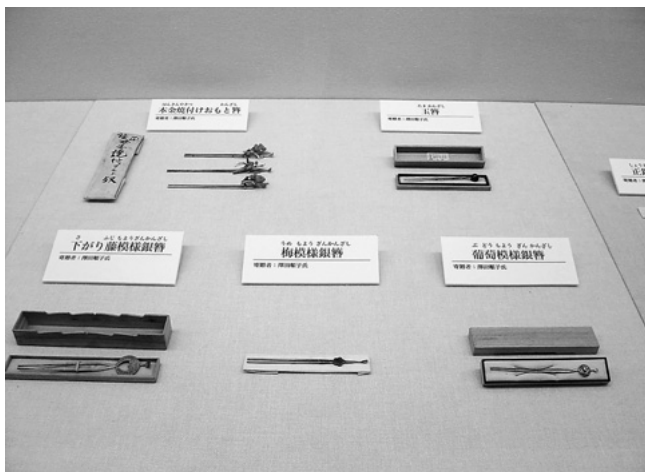
展示資料点数 65点（館蔵資料65点）

日本髪 of 装飾品、簪と櫛の色々を寄贈資料の展示によって紹介した。

●身近な草木で紙づくり

2月5日（火）～翌年度（4月7日（日））

展示資料点数 150点（館蔵資料150点）



「簪と櫛」の展示風景



「身近な草木で紙づくり」の展示風景

牛乳パックで紙漉きを経験した人は多いだろうが、身近に生えている草や木からも紙ができることはあまり知られていない。当館では、いろいろな草木から紙を簡単に作る方法を開発した。今回の展示では、その方法を紹介しながら、ツバキやススキなど身近に生えている草木や枝豆、ブドウ、パイナップルなどの野菜や果物など身近な草木約150種類でできた紙を展示した。

(3) 阿波の近世絵画の展示

「藩政のもとで」のコーナー内で展示替えを4回行い、以下の作品資料を展示した。

- ・盆踊図（鎬木清方筆）1幅、若衆図（大津絵）1幅、祝宴図（守住貫魚筆）1枚
- ・弱檜五疋猿図（松浦春拳筆）1幅
- ・津峰石門図（藤重春山筆）1幅、轟滝図（同前筆）1幅
- ・源氏物語明石図粉本（守住貫魚筆）1幅、源氏物語初音図粉本（同前筆）1幅、徳島城西丸御殿御十畳之間伺下絵（同前筆）1枚、柳水車図板戸伺下絵（同前筆）1枚、桐図板戸伺下絵（同前筆）1枚

(4) トピックコーナーでの小展示

平成24年度は、次の展示を行った。タイムリーな展示ができるよう努めている。

●アンモナイトは殻がパンクしても死なない？

6月15日（金）～7月27日（金）

展示資料点数 9点（館蔵資料9点）

国際古生物学協会誌（Lethaia誌）に掲載された現生オウムガイに関する研究成果と、その他の関連するアンモナイト化石を展示した。

●100均グッズで夏休みの自由研究・工作にチャレンジしよう



「絶滅!! ニホンカワウソ」の展示風景

7月28日(土)～9月17日(月・祝)

最近入手しやすくなった、100円均一ショップで販売している商品を使って、採集、観察、標本作り、工作の事例を紹介した。

●絶滅!! ニホンカワウソ

9月19日(水)～11月4日(日)

展示資料点数 20点(館蔵資料20点)

国の絶滅のおそれのある野生生物の第4次レッドリスト見直しに伴い(平成24年8月)、ニホンカワウソが絶滅危惧種から絶滅へと変更された。他にもハマグリがレッドリストに掲載されるなど多くの変更がなされたため、そのことを紹介するための速報的な展示を行った。

●ナンゴクヒメミソハギー知らぬ間に私たちの生活に入り込む外国の植物たちー

11月6日(火)～1月14日(月)

展示資料点数 6点(館蔵資料6点)

新たに熱帯域原産のナンゴクヒメミソハギが、徳島県に侵入していることが明らかとなったことにあわせ、他のいくつかの外来植物とあわせて展示を行い、本県の外来植物についての現状と課題を紹介した。

●新着林業資料紹介

1月16日(水)～3月31日(日)

展示資料点数 5点(館蔵資料5点)

平成24年6月に徳島県立農林水産総合技術支援センター(森林林業研究所)より寄贈された林業関係資料の概要紹介および一部資料の展示を行った。

2. 企画展

平成24年度は、次の2回の企画展を行った。

(1) 第1回企画展「ほねほねワールド」

骨は動物の体を形作るものである。体を支え、動かし、保護するという大切な働きをもっている。動物が生きていく上でなくてはならないものが骨である。ほ乳類や虫類、鳥類、魚類などの“脊椎動物”は、体の中に骨格をもち、頑丈な背骨によって体を芯で支えている。一方、昆虫やクモ、エビやカニ、貝類などの“無脊椎動物”では、外骨格とよばれる硬い殻を身にまとっている。いわば、体を覆う鎧のようなものである。このように、一口に骨といっても、種によって、あるいは同じ体の中でもパーツによってさまざまな形があり、それぞれが果たす役割がずいぶんと違う。しかし、そういった骨のふしぎは普段なかなか見られるものではない。

この企画展では、動物の骨格がもたらす多様さ、複雑さ、美しさといったさまざまな“ふしぎ”について紹介した。

ホネの不思議な世界へようこそ

平成24年度企画展

ほねほねワールド

The Mysterious World of Bones

2012
7.20(金)～9.2(日)

会場 徳島県立博物館 1階 企画展示室
開館時間 9:30～17:00
休館日 月曜日(8月13日は開館)

観覧料	一般 200円	高校・大学生 100円	小・中学生 50円
-----	---------	-------------	-----------

20名以上の団体(20名以上)は、平日、観覧料半額(小学生は無料)および学校教育での利用は無料。

文化の森総合公園
徳島県立博物館
〒770-5070 徳島県徳島市八万町向山
Tel. 089-658-3636 Fax 089-658-7197
http://www.museum.tokushima.ac.jp/

「ほねほねワールド」ちらし

(9)お絵かきコーナー

●展示資料点数 469点(館蔵資料413点、借用資料56点)

●観覧料

一般200円／高校・大学生100円
小・中学生50円

●観覧者数 17,458人

●企画展関連行事

①関連講演会

演題 福井の恐竜と発掘
講師 柴田正輝氏(福井県立恐竜博物館)
日時 7月22日(日) 14:00~15:30
会場 博物館講座室
参加者 38人

②展示解説

第1回: 7月22日(日) 13:00~13:30
参加者 78人
第2回: 8月12日(日) 14:30~15:00
参加者 76人

(2) 第2回企画展(第27回国民文化祭・とくしま2012 特別協賛事業)「日本のわざと美」展—重要無形文化財とそれを支える人々—

昭和29年度の第1次認定より平成24年度の新規認定にいたるまで、工芸技術における重要無形文化財保持者はのべ167人におよび、重要無形文化財保持団体は14団体をかぞえる。昭和50年から始まった選定保存技術の制度では、現在まで21件が選ばれている。これらのうち重要無形文化財保持者は、個人として認定を受けたいわゆる「人間国宝」である。選定保存技術は、文化財の保存に欠かすことのできない用具や材料をつくる技術である。徳島県では阿波藍製造が選ばれている。

この企画展は、すべての保持者と保持団体について作品を展示した。分野は陶芸、染織、漆芸、金工、木竹工、人形、手漉和紙、截金、撥鏤に分かれ、制作の工程見本も一部含まれる。選定保存技術は写真パネルなどで紹介した。工芸技術は、時代の変化をくぐり抜けて錬磨をかさね、つねに新しい方向を切り開いてきた。重要無形文化財にかかわる作品は、わたしたちの感性をより豊かにするものとして重要である。

●主催 文化庁、徳島県教育委員会、徳島県立博物館

●特別協力 東京国立近代美術館

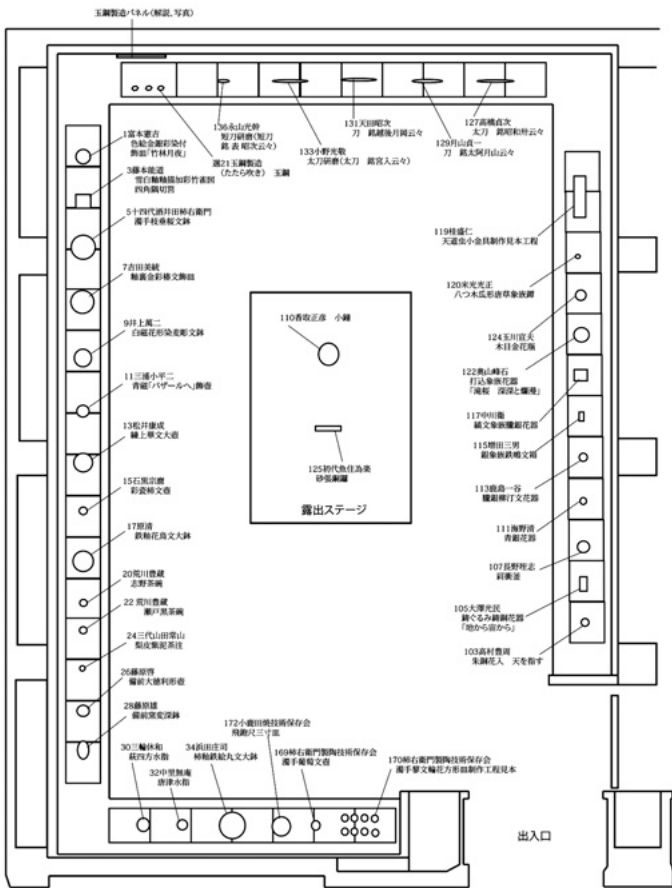
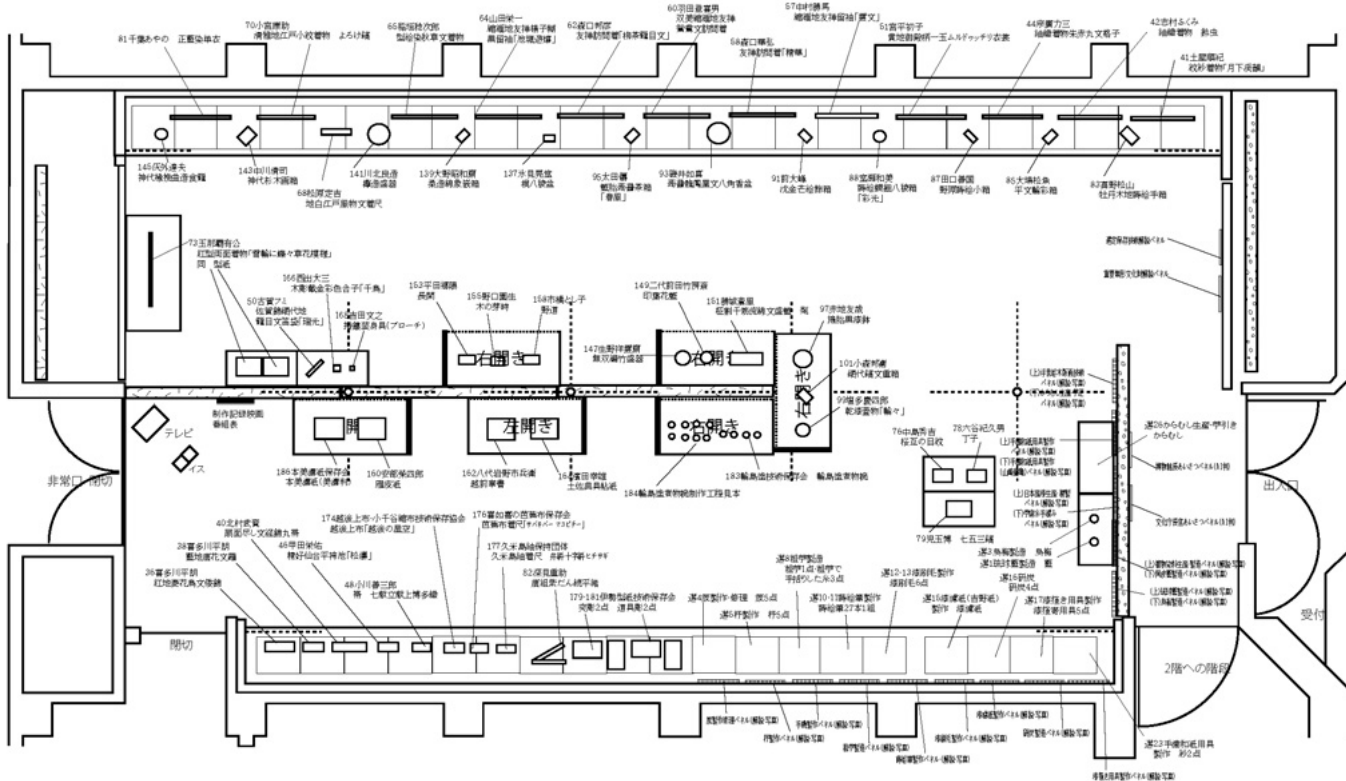
●会期 平成24年10月20日(土)~11月25日(日)
(開館日数32日間)

前期: 10月20日(土)~11月4日(日)

後期: 11月6日(火)~11月25日(日)



「日本のわざと美」ちらし(上:表、下:裏)



「日本のわざと美」(前期)の展示配置
(上:企画展示室、下:部門展示室)

●会場 博物館企画展示室・常設展示室内部門展示室
(人文)

●展示資料点数 214件 (すべて借用資料)

●観覧料 一般200円/高校・大学生100円
小・中学生50円

●観覧者数 4,989人

●企画展関連行事

①スペシャル・ギャラリートーク

講師 佐々木正直氏 (文化庁主任文化財調査官)

日時 10月20日 (土) 14:00~15:00

参加者 27人

②製作実演「伊勢型紙」

講師 伊勢型紙技術保存会 (4人)

日時 10月20日 (土)・21日 (日)

両日とも10:00~12:00、13:00~16:00

会場 2階常設展示受付前

参加者 20日169人、21日149人

③ワークショップ「伊勢型紙を体験しよう」

講師 伊勢型紙技術保存会

日時 10月21日 (日)

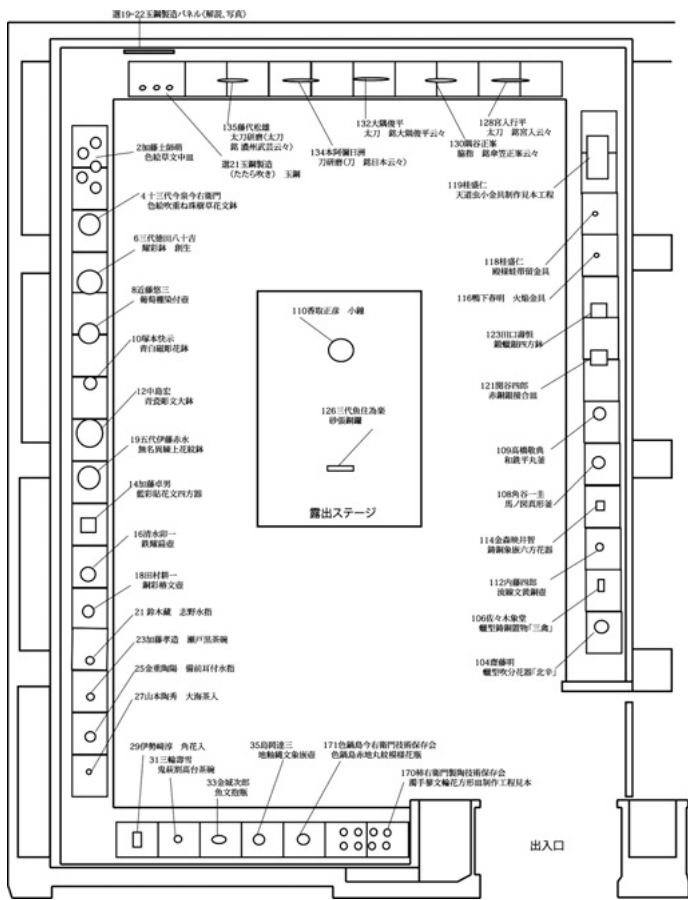
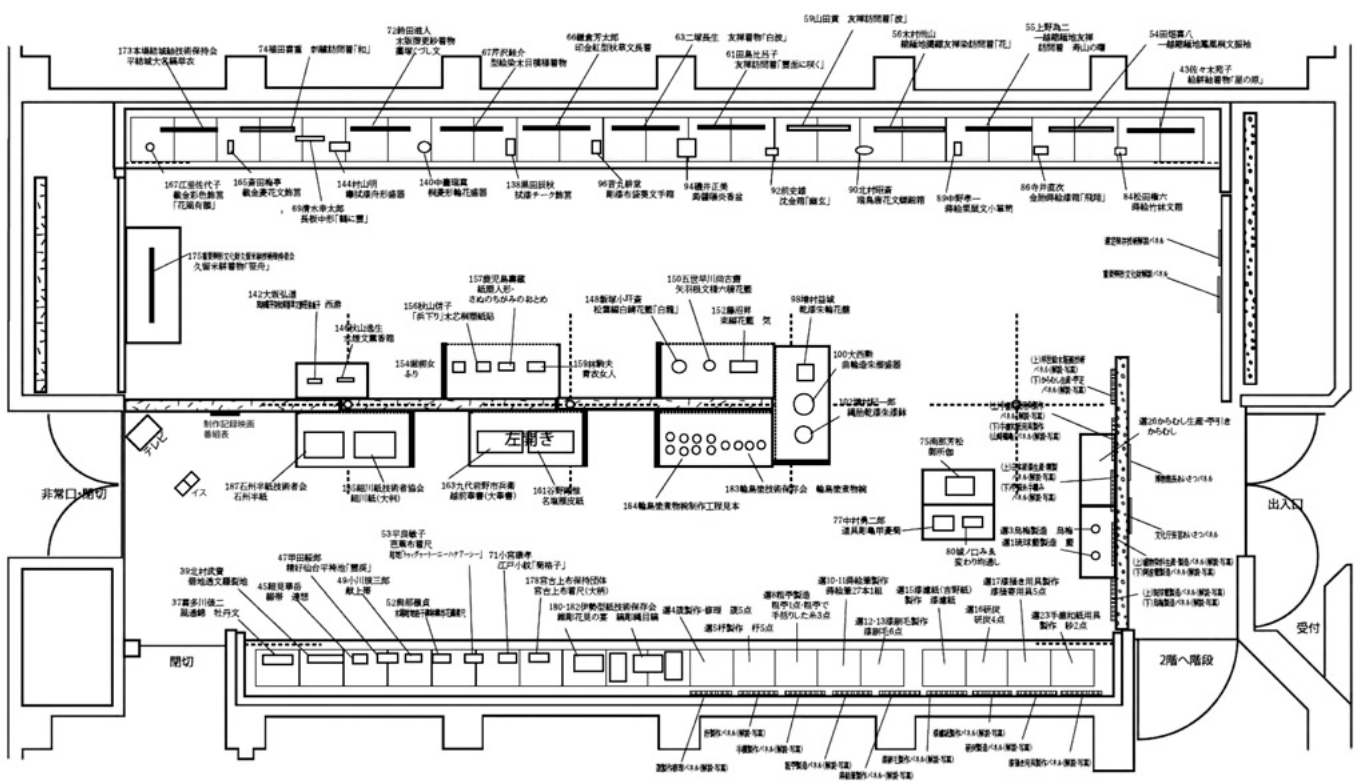
10:00~12:00、13:00~16:00

会場 2階常設展示受付前

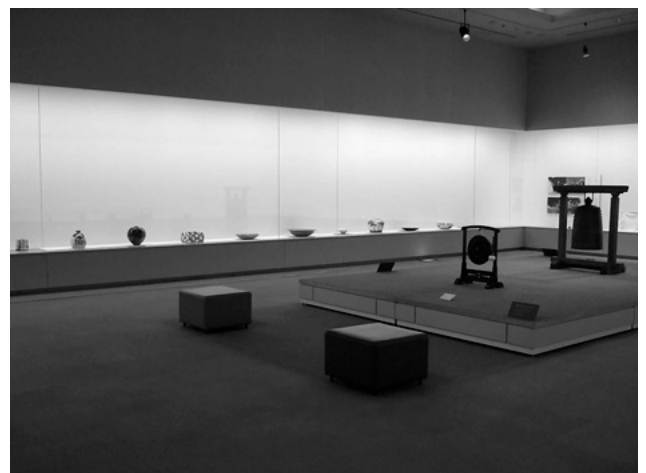
参加者 67人

④記念講演会

講師 室瀬和美氏 (重要無形文化財「蒔絵」保持者)



「日本のわびと美」(後期)の展示配置
(上：企画展示室、下：部門展示室)



「日本のわびと美」の展示風景
(上：企画展示室<前期>、下：部門展示室<後期>)

10 展示

日時 11月4日(日) 13:30~15:00

演題 「漆芸の世界-蒔絵の美-」

会場 文化の森イベントホール

参加者 71人

⑤製作実演「久留米緋」

講師 重要無形文化財久留米緋技術保持者会(2人)

日時 11月17日(土)・18日(日)

両日とも10:00~12:00、13:00~16:00

会場 2階常設展示受付前

参加者 17日179人、18日181人

●協力 海の観察会、船の科学館・海と船の博物館ネットワーク

●会期 平成24年4月27日(金)~6月10日(日)
(開館日数39日)

●会場 徳島県立博物館企画展示室

●展示構成

(1)漂着物とは?

(2)実物漂着物図鑑

(3)漂着物であそぼう!

(4)徳島のビーチコーマーたち

●展示資料点数 2,038点(館蔵資料137点)

●観覧料 無料

●観覧者数 12,642人

3. 特別陳列

(1) 海からどんぶらこー浜辺の漂着物ー

平成24年度海と船の企画展支援対象事業に採択されて、海の観察会、船の科学館・海と船の博物館ネットワークの協力により開催した。

館蔵の県内外の漂着物資料の他、徳島県在住の漂着物研究家の資料を展示することで、県内の漂着物学およびビーチコーミングの現状を紹介した。

●主催 徳島県立博物館

(2) 鳥居龍蔵とアイヌ

平成24年度文化庁文化芸術振興費補助金(文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業:ミュージアム活性化支援事業)を得て、鳥居龍蔵記念博物館パワー



「海からどんぶらこ」ちらし



「海からどんぶらこ」の展示作業風景(協力者とともに)



「海からどんぶらこ」の展示風景



「四国の三番叟まわし・えびすまわし」会場の様子

平成二十四年度文化庁 文化芸術振興費補助金（文化遺産を活かして観光振興・地域活性化事業）
「阿波木偶箱廻し」調査・伝承推進事業報告書

香川県東かがわ市に残されている「えびすまわし」の木偶

徳島県東瀬町の「ムギウラジ」での三番叟の奉納（2012年5月12日）

平成25年3月17日(日)

会場 徳島県立博物館企画展示室（1階）
 日程 ・午前9時30分～午後5時 「三番叟まわし」「えびすまわし」門付け用具と修繕・復元木偶の展示公開
 ・午後1時～3時20分 調査結果の発表と講演
 ・午後3時30分～4時 「阿波木偶箱廻し」の実演

参加料 無料
 主催 徳島県立博物館／「阿波木偶箱廻し」調査・伝承推進実行委員会

講演／午後2時～午後3時
 「三番叟まわし・えびすまわしを迎えた民間信仰の諸相」（八幡浜部落史研究会 水本正人氏）

徳島県立博物館 〒770-8070 徳島市八万町向寺山 文化の森総合公園
 TEL.088-668-3636 FAX.088-668-7197 http://www.museum.tokushima-ec.jp/

「四国の三番叟まわし・えびすまわし」ちらし

で、(1)「三番叟まわし」「えびすまわし」の門付け用具と修繕・復元木偶の展示公開、(2)調査結果発表と講演、(3)「阿波木偶箱廻し」の実演を行った。

- 主催 徳島県立博物館、「阿波木偶箱廻し」調査・伝承推進実行委員会
- 開催日 平成25年3月17日(日)
- 展示資料点数 40点（すべて借用資料）

●入場者数 187人

(5) 2012年度文化の森人権問題啓発展

文化の森6館と徳島県教育委員会人権教育課との共催で、人権問題啓発展（識字学級生の作品を中心とする展示）を行った。

- 主催 文化の森6館・徳島県教育委員会人権教育課
- 期間 平成24年12月4日(火)～12月9日(日)
- 会場 近代美術館ギャラリー（展示）、ミニシアター（ビデオ上映）
- 入場者数 356人

4. 館外での展示

■移動展

収蔵資料の活用を促進するため、当館が主体となって展示を企画・構成する移動展にも重点的に取り組むことにしている。24年度は、次のような実績があった。

- パネル展示「徳島県立博物館の活動一たんぽポ調査・西日本2010を例にー」（第4回生物多样性協働フォーラムの一環）

主催 生物多样性とくしま会議、徳島県、徳島大学環境防災研究センター、生物多样性協働フォーラム事務局（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社、兵庫県立人と自然の博物館、特定非営利活動法人西日本自然史系博物館ネットワーク）

会期 平成24年8月26日(日)

会場 徳島県教育会館

入場者数 300人

展示資料 パネル2枚（すべて館蔵）

- 移動展「阿波の遠洋漁業」



「阿波の遠洋漁業」の展示風景

主催 美波町日和佐図書・資料館、徳島県立博物館
 会期 平成24年9月6日(木)～9月30日(日)
 会場 美波町日和佐図書・資料館2階 ギャラリー
 入場者 439人
 展示資料 パネル36枚(すべて館蔵)

●移動展「生物多様性博覧会」

主催 生物多様性とくしま会議、徳島県、徳島大学
 環境防災研究センター

会期 平成25年1月26日(土)～27日(日)

会場 あわぎんホール(徳島県境土文化会館)

展示内容 「県立博物館でみる生物多様性」：徳島
 県の外来植物、絶滅!!ニホンカワウソ-
 環境省第4次レッドリスト改訂で注目さ
 れた動物たち、四国に漂着したオウムガ
 イとトグロコウイカ、四国で発見された
 東アジア初のオウムガイ化石、徳島県の
 昆虫

展示資料点数 681点(すべて館蔵資料)

入場者数 1,385人

●パネル展示「中央構造線の活断層-池田断層の地形」

(震災に強い徳島づくりフォーラムの一環)

主催 徳島県、とくしま地震防災県民会議

会期 平成25年2月2日(土)

会場 アスティ徳島

入場者 850人

展示資料 パネル3枚(すべて館蔵)

5. 常設展の更新及び活性化に向けての取り組み

(1) 常設展更新に向けての取り組み

当館では、開館10周年をめどに常設展の全面更新を実現したいと考え、開館5年目にあたる平成7年度から9年度にかけて館内での検討を行ってきたが、事業化は実現しなかった(年報7号参照)。その後、開館15年目に当たる17年度にリニューアル・オープンする計画で、事業規模を縮小した基本計画案の見直しを行い、予算積算などを行ったが、事業化は認められなかった。

厳しい財政状況のもと常設展更新の実現可能性は乏しいものの、学問の進展によって展示内容が古くなった箇所が生じたり、開館以来の資料や情報の蓄積が顕著でかつ社会的な要請の高いテーマが展示できていなかったりするなど、展示更新を行っていないことによる不具合も生じてきた。そこで、19年度には、現段階で有効かつ現実的と考えられる常設展更新の方向性を

議論し、新たな基本計画案をまとめた(年報17号参照)。21年度当初は、この計画案に沿いながら、22年度に可能な範囲での改善を集中的に行う「リフレッシュ事業」を実施する計画を立てたが、当初の予定を繰り上げて、21年度末に一部の中項目や小項目の変更を含む中規模な展示更新を行った(年報19号参照)。その後も、予算的措置を必要としない小規模な展示更新を継続して行っている。

また、最近開館した博物館などに対する調査も継続してきており、24年度には次の調査を行った。

・リニューアルされた常設展の視察

国立民族学博物館、愛媛県総合科学博物館、海陽町立博物館、あわぎんホール(徳島県郷土文化会館)常設展示場阿波木偶資料館

(2) 常設展の活性化に向けての取り組み

常設展の全面更新が困難な状況にあることから、現行常設展の手直しなどを進め、より利用しやすく、また、より変化の見えるかたちへと変えていくよう取り組みを進めている。

さらに、展示室を利用したイベントの開催や、キッズ・チャレンジコーナーの更新などを行い、展示により親しめることができるよう努めている。

平成24年度の取り組みは、次のようなものである。

①部門展示(人文)における多様な展示の展開

人文、自然のテーマを織り交ぜて5回の展示を行った(詳細はp.3～4参照)。

②阿波の近世絵画の展示替えを4回行った(詳細はp.4参照)。

③チャレンジコーナーの更新

20年度に「チャレンジコーナー」と名付けた体験コーナーを設置したが、24年度は、より低年齢の子供



「キッズチャレンジコーナー」の風景

14 展示

も利用しやすいよう、「キッズ・チャレンジコーナー」として更新し、畳と背の低いテーブルを設置した。内容も土器パズル、塗り絵に加え、魚釣りゲーム、ボランティアと共同で作成した人形浄瑠璃をモチーフにした福笑い、お手玉などを加えた。

④トピックコーナーの更新

24年度はトピックコーナーの更新を5回行った（詳細はp. 4～5参照）。

⑤展示解説等の促進

- ・部門展示「阿波の遠洋漁業」「兵士たちの戦争」「ミニ鉱物展」「身近な草木で紙作り」「簪と櫛」で展示解説を実施した。
- ・20年度から引き続き、常設展示室内数箇所、手作りのセルフガイドを設置・配布した。また、21年度より当館が紙面作成に協力している徳島新聞金曜夕刊の「みんなの知りたい なんでもQ&A」も常設展示室入口にコーナーを設けて、観覧者が自由に持ち帰ることができるようにしている（年報19号参照）。

6. 展示関係出版物

■企画展図録・解説書

●第1回企画展図録「ほねほねワールド」

2012年7月19日発行、A4判16ページ、700部
友の会増刷200部

●第2回企画展図録「日本のわざと美」

2012年10月20日発行、A4変形判184ページ、700部、
友の会増刷100部

●第1回特別陳列展示解説書「徳島ビーチコーミング ハンドブックー渚歩きが10倍楽しくなる本ー」

2012年4月27日発行、A5判28ページ、5,950部

●第1回特別陳列展示解説書副読本「小松通信1号～ 30号」

2012年4月27日発行、A4判83ページ、600部

Ⅱ 普及教育

普及教育事業、とくに普及行事は「開かれた博物館」をめざし、館員が県民と直接交流できるよい機会であり、力点をおいて取り組んでいる。

平成24年度は、年間80回（雨天中止3回）の普及行事を実施した（他にクイズラリーを24回行った）。

普及行事は県民のあいだにかなり定着してきているが、参加者は徳島市内とその近郊在住者に片寄っている。そのため、「歴史散歩」「野外自然かんさつ」「移動講座」等において、郡部での開催を増やすなどの工夫を行っている。

1. 普及行事

■歴史体験

昔の人々の生活に関係のある体験を通じて、ものの性質や当時の人々の生活の知恵を学ぶシリーズ。

7月1日（日）	ところてんをつくろう②	27人
10月21日（日）	土器づくり	16人
2月17日（日）	小中学生のための昔の道具調べ講座	12人
3月4日（日）	やじりをつくろう	17人

■歴史散歩

県内の主な遺跡、町並み、建造物などを見学してまわるシリーズ。

5月13日（日）	伊島を歩こう	23人
----------	--------	-----

5月27日（日）	古墳見学（香川）	46人
6月10日（日）	ところてんをつくろう①（出羽島を歩こう）	33人
11月11日（日）	古墳見学（洪野）	中止
11月18日（日）	徳島城とその周辺を歩こう	27人
12月2日（日）	一宮城を歩こう	22人
3月24日（日）	縄文の谷ハイキング（三加茂）	20人

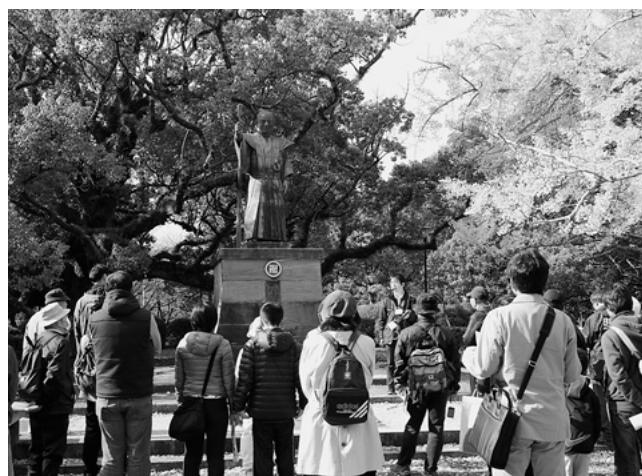
■野外自然かんさつ

野外に出かけて行う、季節に応じた動植物の観察や地質の見学会。

5月6日（日）	春の昆虫と植物	27人
5月20日（日）	磯の生きもの	60人
6月3日（日）	白垂紀の地層見学（まんのう町）	21人
7月28日（土）	川魚かんさつ	43人
7月28日（土）	セミの羽化かんさつ	24人
7月29日（日）	漂着物を探そう！	37人
7月29日（日）	水生昆虫のかんさつ	36人
8月25日（土）	夏の昆虫と植物	25人
9月30日（日）	河口の生きもの	中止
10月8日（月）	宍喰浦と竹ヶ島の地質見学	14人
10月14日（日）	那賀川上流の地質見学	7人
10月21日（日）	秋の昆虫と植物	30人
11月11日（日）	花咲き乱れる秋の那賀川を歩こう（相生）	中止
11月25日（日）	土柱周辺の地質見学	19人



歴史体験「土器づくり」



歴史散歩「徳島城とその周辺を歩こう」



室内実習「化石のレプリカをつくろう」

2月24日（日）冬の昆虫と植物 20人

■室内実習

主に実習室で行う各種の観察会、講習会。内容に応じて実体顕微鏡、電子顕微鏡等の機器も併用して観察を行っている。

「標本の名前を調べる会」は、毎年8月下旬に行う恒例の行事で、学芸員のほか5名の外部講師の応援を得て実施した。単に名前を教えるだけにならないで、いっしょに調べる姿勢で取り組むよう留意している。

- 4月29日（日）貝化石標本をつくろう 20人
- 7月15日（日）化石のレプリカをつくろう 32人
- 7月16日（月）藍の葉っぱで遊ぼう 45人
- 8月12日（日）スンプでかんたん顕微鏡かんさつ 21人
- 8月26日（日）標本の名前を調べる会 54人
- 9月9日（日）ミクロの世界－電子顕微鏡で植物を見よう！① 16人
- 10月7日（日）顕微鏡で野草かんさつ 5人
- 11月18日（日）ミクロの世界－電子顕微鏡で植物を見よう！② 16人
- 12月2日（日）木の葉化石の発掘体験 27人
- 3月3日（日）アンモナイト標本をつくろう 22人
- 3月17日（日）落ち葉の中の生きものたち 19人

■みどりの工作隊

自然の材料を使い、遊びの要素を取り入れた実習。

- 7月29日（日）草や木を使った環境にやさしい紙作り 23人
- 8月5日（日）押し葉カルタと葉っぱのスタンプで遊ぼう 12人
- 10月28日（日）どんぐりごまとウツギの笛を作ろう 36人



みどりの工作隊
「押し葉カルタと葉っぱのスタンプで遊ぼう」

12月9日（日）リースをつくろう 21人

■ミュージアムトーク

学芸員が各自の研究テーマや身近な話題について話をするシリーズ。申し込み不要が原則だが、24年度は、新たに5回セットで受講者を固定する古文書講座を実施したところ、受講者の要望があり、さらに5回を追加開催した。

- 5月19日（土）ゼロからはじめる古文書講座① 22人
- 6月16日（土）ゼロからはじめる古文書講座② 22人
- 7月21日（土）ゼロからはじめる古文書講座③ 19人
- 9月15日（土）ゼロからはじめる古文書講座④ 16人
- 10月20日（土）ゼロからはじめる古文書講座⑤ 16人
- 11月17日（土）ゼロからはじめる古文書講座⑥ 12人
- 11月18日（日）鳴門海峡海底のナウマンゾウ化石 9人
- 12月15日（土）ゼロからはじめる古文書講座⑦ 12人
- 1月19日（土）ゼロからはじめる古文書講座⑧ 11人
- 1月20日（日）徳島県の屋根瓦 21人
- 1月27日（日）谷田忠兵衛の謎 10人
- 2月16日（土）ゼロからはじめる古文書講座⑨ 12人
- 3月16日（土）ゼロからはじめる古文書講座⑩ 14人

■歴史文化講座（移動講座）

学芸員が講師を務め、館外の社会教育施設と共催で行う講座。24年度も引き続き海南文化館で実施し、第4回は海陽町立博物館学芸員が担当した。

5月27日（日）阿波の漆芸－観松斎と谷田－	27人
6月24日（日）海部のマチ	43人
7月22日（日）徳島藩と益田豊後事件	44人
12月1日（土）震災史を遡る ～郷土史の一つとして～	25人

■企画展・特別陳列等関連行事

企画展や特別陳列等の開催中に、展示解説等を行った。

●企画展「ほねほねワールド」関連行事

7月22日（日）企画展「ほねほねワールド」 展示解説	78人
7月22日（日）企画展記念講演会 「福井の恐竜と発掘」	38人
8月12日（日）企画展「ほねほねワールド」 展示解説	76人

●企画展「日本のわざと美」関連行事

10月20日（土）スペシャル・ギャラリートーク	27人
10月20日（土）製作実演「伊勢型紙」	169人
10月21日（日）製作実演「伊勢型紙」	149人
10月21日（日）製作実演「伊勢型紙を体験しよう」	67人
11月4日（日）企画展記念講演会 「漆芸の世界－蒔絵の美－」	71人
11月17日（土）製作実演「久留米緋」	179人
11月18日（日）製作実演「久留米緋」	181人

●特別陳列 「海からどんぶらこ－海辺の漂着物－」 関連行事

5月4日（金）特別陳列「海からどんぶらこ－海辺の漂着物－」展示解説	20人
5月20日（日）ビーチコーミング体験～浜辺で漂着物をさがしてみよう！	76人
5月20日（日）ビーチクラフト体験～漂着物で工作をしよう！	39人

●部門展示関連行事

4月29日（日）部門展示「阿波の遠洋漁業」 展示解説	17人
8月12日（日）部門展示「兵士たちの戦争」 展示解説	65人
1月14日（月）部門展示「ミニ鉱物展」 展示解説	30人
3月24日（日）部門展示「身近な草木で紙づくり・	

簪と櫛」展示解説

3人

■クイズラリー

毎月第2・第4土曜日に、小・中・高校生を対象にクイズラリーを実施している。この行事は、常設展の活用と入館者の獲得を目的に行っているもので、参加者が展示資料に関する簡単な問題を解きながら観覧することで、新しい発見につながることを期待している。参加者全員に記念品を贈呈している。

4月14日	74人（小 68・中 6・高 0）
4月28日	83人（小 79・中 4・高 0）
5月12日	72人（小 68・中 4・高 0）
5月26日	71人（小 69・中 2・高 0）
6月9日	78人（小 73・中 5・高 0）
6月23日	94人（小 93・中 1・高 0）
7月14日	51人（小 50・中 1・高 0）
7月28日	129人（小 127・中 2・高 0）
8月11日	176人（小 167・中 7・高 2）
8月25日	202人（小 197・中 5・高 0）
9月8日	86人（小 86・中 0・高 0）
9月22日	70人（小 69・中 1・高 0）
10月13日	103人（小 100・中 3・高 0）
10月27日	83人（小 76・中 3・高 4）
11月10日	102人（小 101・中 1・高 0）
11月24日	93人（小 87・中 3・高 3）
12月8日	88人（小 80・中 6・高 2）
12月22日	47人（小 45・中 2・高 0）
1月12日	66人（小 65・中 1・高 0）
1月26日	95人（小 84・中 7・高 4）
2月9日	82人（小 79・中 2・高 1）
2月23日	88人（小 82・中 3・高 3）
3月9日	74人（小 70・中 4・高 0）
3月23日	71人（小 69・中 2・高 0）
参加者合計	2,178人（小2084・中 75・高19）

■その他の普及行事

●博物館こどもの日フェスティバル 5月5日（土）

幼児から小・中学生、高校生を対象にクイズラリーを実施した。また、体験コーナーとして、「化石クリーニング実演」「ミクロの博物館－デジタル顕微鏡で虫や植物を見てみよう－」「魚釣りゲーム」「恐竜パーククラフト（友の会と共同）」「手作りカメラ体験」「藍の押し花ではがきを作ろう」「すごろく広場－りゅうぞう君のアジア大旅行すごろく－」を行った。

参加者：1,927人

●夜の博物館 ドキドキ体験ツアー 8月4日（土）

夜間の常設展、企画展、地学収蔵庫を解説付きで見

学した。希望者が多く、2班に分かれて実施した。

参加者：77人

●文化の森サマーフェスティバル 8月19日(日)
文化の森6館による夏期の共同イベント。幼児から高校生までを対象に、普段は見るできない収蔵庫や研究施設など、博物館の裏側を見学する「博物館わくわくツアー」を行ったほか、2階常設展示室において「化石や考古遺物のミニチュアをつくろう」「博プレにチャレンジ」、鳥居龍蔵記念博物館において「馬頭琴の音色を聞こう」「読み聞かせ&展示解説」を行った。

参加者：1,290人

●文化の森 大秋祭り!! 11月3日(土)
24年度も文化の森6館による共同イベントを開催した。博物館では、幼児から高校生を対象として「博物館フェスティバル」と題し、2階常設展示室において「藍の押し葉でハガキ作り」「ビック福笑い」「どんぐり工作にチャレンジ(友の会と共同)」「恐竜の骨格組み立て」「はく製類タッチング」「ミクロの博物館」を、鳥居龍蔵記念博物館において「ザ・すごろくとぬり絵にチャレンジ!!」をそれぞれ行った。

参加者1,050人

●博物館Vキング 2月11日(月)
ボランティアスタッフの協力により開発した学習プログラムを中心にしたイベント。「つくって遊ぼう! ブンブンごま」「テントでカメラ2013!」「手作りカメラを楽しもう!」「ポップアップカードをつくろう!」「ヒントはどこだ!! 博物館クイズアドベンチャー」を実施した。

参加者 1,719人



文化の森大秋祭り!! 「恐竜の骨格組み立て」

●平成24年度文化庁文化芸術振興費補助金(文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業)「阿波木偶箱廻し」調査・伝承推進事業報告会「四国の三番叟まわし・えびすまわし」 3月17日(日)
展示、研究成果の発表と意見交換会、「阿波木偶箱廻し」の実演。

参加者 187人

2. 学校教育支援事業

博物館は本来、実物資料に基づく体験的な学習ができる場であり、学校教育にとっては遠足での博物館見学以外にも様々な活用ができる場であるはずである。また、教育改革に伴う学校完全週5日制や「総合的な学習の時間」とも関連し、博物館等の社会教育機関に対して積極的な学校教育への支援が要請されるようになった。

当館でも、平成12~13年度に「博物館と学校との連携に関する研究会」を組織し、博物館と学校との連携のあり方等について模索した。それを踏まえ、14年度から学校教育支援事業として、学校の授業での博物館利用への支援、学校の授業への講師派遣(出前授業)、学校への博物館資料の貸し出し、職場体験の受け入れ等を積極的に行っている。

学校へ案内パンフレットなどを配布することにより、博物館の学校教育支援事業が周知されつつあり、利用が増えてきている。

(1) 学校の授業での博物館利用への支援

理科や社会科の授業、「総合的な学習の時間」での活動と関連して、クラスやグループ単位で博物館を利用する例が増えている。受け入れに当たっては、展示資料だけでなく、必要に応じて収蔵資料を見てもらったり、学芸員が助言したりするなどの支援を行った。

①内町小学校(徳島市) 5月2日(水)

5年生 33人

「阿波の遠洋漁業」展示解説(講師:磯本)

②藍住東小学校(板野郡) 5月18日(金)

5年生 58人

メダカの種類と減少した理由(講師:佐藤)

③堀江南小学校(鳴門市) 5月22日(火)

3・4・5年生 37人

メダカの種類と減少した理由(講師:佐藤)

④坂野小・中学校の学習会(小松島市) 7月29日(日)

小・中学生 25人

「兵士たちの戦争」展示解説(講師:長谷川)



学校の授業での博物館利用への支援
「メダカの種類と減少した理由」

- (2) 学校の授業への講師派遣（出前授業）
- 依頼に応じて、講師として学芸員を学校へ派遣した。授業では教員と協同し、持参した博物館資料を活用するなどして、児童・生徒の理解を助けるよう工夫した。
- ①平谷小学校（那賀郡） 5月8日（火）
5・6年生 12人
大昔の暮らし（講師：高島）
- ②一宮小学校（徳島市） 5月22日（火）
1～6年生 65人
水生生物調査・鮎喰川の水質（講師：山田）
- ③西井川小学校（三好市） 6月20日（水）
5年生 7人
水中の小さな生物・顕微鏡の使い方（講師：山田）
- ④広野小学校（名西郡） 6月21日（木）
4～6年生 34人
水生生物調査（講師：山田）
- ⑤牟岐小学校（海部郡） 6月27日（水）
3年生 22人
「こん虫」についてのお話（講師：山田）
- ⑥高原小学校（名西郡） 7月5日（木）
6年生 44人
大地のつくりと変化（講師：中尾・辻野）
- ⑦鳴門東小学校（鳴門市） 7月5日（木）
5年生 16人
見つめ直そう鳴門東・竜宮の磯（講師：佐藤）
- ⑧横見小学校（阿南市） 7月6日（金）
3年生 25人
昆虫の体のつくりとはたらき（講師：山田）
- ⑨川内北小学校（徳島市） 7月28日（土）
1～6年生 59人
化石のレプリカ・恐竜折り紙づくり（講師：辻野）
- ⑩津田小学校（徳島市） 9月26日（水）
3年生 118人
昆虫のつくりと育ち（講師：山田）
- ⑪相生中学校（那賀郡） 10月5日（金）
1年生 22人
野外観察授業・地質ボーリング資料観察
（講師：中尾）
- ⑫箸蔵小学校（三好市） 10月28日（日）
1・2年生 22人
種のふしぎ（講師：茨木）
- ⑬箸蔵小学校（三好市） 10月28日（日）
3・4年生 18人
手作りカメラ体験（講師：長谷川）
- ⑭箸蔵小学校（三好市） 10月28日（日）
5・6年生 22人
化石について（講師：辻野）
- ⑤内町小学校（徳島市） 11月2日（金）
3年生 36人
昔の道具の説明（講師：庄武）
- ⑥高志小学校（板野郡） 11月16日（金）
6年生 25人
水平社宣言（講師：長谷川）
- ⑦不動小学校（徳島市） 11月29日（木）
3年生 20人
昔の道具の説明（講師：庄武）
- ⑧方上小学校（徳島市） 12月6日（木）
6年生 27人
化石と地層（講師：中尾）
- ⑨八万南小学校（徳島市） 12月11日（火）
3年生 91人
昆虫の話・博物館裏側見学（講師：山田・中尾・辻野）
- ⑩宮井小学校（徳島市） 12月13日（木）
6年生 21人
大地のつくりと変化（講師：辻野）
- ⑪内町小学校（徳島市） 12月19日（水）
6年生 31人
大地のつくりと変化（講師：辻野）
- ⑫城南高等学校（徳島市） 1月23日（水）
1年生 45人
鉱物について（講師：中尾）
- ⑬小松島高等学校の部活動（小松島市） 1月29日（火）
2年生 4人
ミニ鉱物展の展示解説と常設展の鉱物について
（講師：中尾）
- ⑭八万南小学校（徳島市） 2月1日（金）
3年生 90人
昔のくらしと道具（講師：庄武）

- ⑮御所小学校（阿波市） 11月13日（火） 3年生 18人
4年生 37人
人の体のつくりと運動（講師：佐藤）
- ⑯協町小学校（美馬市） 11月21日（水） 3年生 47人
6年生 46人
昔のくらしと道具（講師：庄武）
- ⑰論田小学校（徳島市） 11月27日（火） 3年生 118人
6年生 60人
昔のくらしと道具（講師：庄武）
- ⑱王地小学校（三好市） 11月30日（金） 3年生46人
6年生 11人
昔のくらしと道具（講師：磯本）
- ⑲南部中学校（徳島市） 12月18日（火） 3年生 129人
1年生 211人
大地のつくりと変化（講師：中尾・辻野）
- ⑳堀江南小学校（鳴門市） 12月18日（火） 3年生 16人
6年生 12人
昔のくらしと道具（講師：磯本）
- ㉑鳴島小学校（吉野川市） 1月11日（金） 3年生 17人
3年生 67人
大地のつくりと変化（講師：中尾）
大好きな新町－環境・理科学習として－
（講師：佐藤）
- ㉒伊座利小学校（海部郡） 1月11日（金） 3年生 66人
5・6年生 5人
昔のくらしと道具（講師：磯本）
- ㉓大俣小学校（阿波市） 1月16日（水） 3年生 27人
3年生 28人
昔のくらしと道具（講師：磯本）
- ㉔昭和小学校（徳島市） 1月17日（木） 3年生 28人
3年生 77人
昔のくらしと道具（講師：庄武）
- ㉕知恵島小学校（吉野川市） 1月23日（水） 3年生 110人
3年生 110人
昔のくらしと道具（講師：磯本）



出前授業「手作りカメラ体験」(簗蔵小学校)

(3) 通信システムを利用した遠隔授業

テレビ会議システムを用い、博物館と学校の教室を結んで授業を行った。

- ①見能林小学校（阿南市） 10月31日（水） 4年生 26人
動物の体のつくりと運動（講師：佐藤）
- ②見能林小学校（阿南市） 11月16日（金） 4年生 26人
人の体のつくり（講師：佐藤）

(4) 博物館資料の学校への貸出し

小・中学校および高校の授業等で活用してもらうため、平成10年度から博物館資料の学校への貸出しを行っている。学校貸出用資料リストを配布して利用を呼びかけているが、利用は多くない。

貸出用資料の一層の利用促進を図るため、平成15年度末に学校貸出用資料解説シートを印刷し、小・中学校および高校に配布した。また、来館した教職員には、必要に応じて解説シートを配布し利用を勧めた。

- ①川島小学校（吉野川市） 5月1日～5月13日
貸出資料：火おこし道具（マイキリ）12組
使用目的：社会
- ②城西中学校（徳島市） 7月1日～7月20日
貸出資料：焼夷弾模型、焼夷弾部品、徳島大空襲被災遺物、パネル 計18点
使用目的：平和教育の一環としての展示
- ③高原小学校（石井町） 7月5日～7月13日
貸出資料：火砕流堆積物、地層写真 計41点
使用目的：理科
- ④国府中学校（徳島市） 9月4日～9月15日
貸出資料：徳島大空襲被災遺物、焼夷弾部品、関係パネル 計26点
使用目的：文化祭の展示
- ⑤富岡小学校（阿南市） 10月9日～10月23日
貸出資料：火おこし道具（マイキリ）10組
使用目的：社会
- ⑥福島小学校（徳島市） 10月25日～11月22日
貸出資料：化石（三葉虫、アンモナイト、ナウマンゾウの歯、プテロトリゴニア、シダ、サメの歯）計33点
使用目的：理科
- ⑦池田中学校（三好市） 12月5日～12月21日
貸出資料：ヒラ、コノシロ、ワカサギ、マアジの骨格透明標本各1点 計4点
使用目的：理科
- ⑧八万小学校（徳島市） 2月20日～2月27日
貸出資料：箱膳、羽釜、竿秤、ひのし、藁草履、炭化アイロン、たらい、ひしゃく、各1点 計8点
使用目的：社会

(5) 職場体験の受け入れ

中学校・高校での職場体験事業の受け入れを行い、生徒に博物館業務を体験してもらうことによって、博物館に対する認識を高めることができた。

- ①八万中学校（徳島市） 7月4日～6日
3年生5人



職場体験（南部中学校2年生）

- ②南部中学校（徳島市） 10月31日～11月2日
2年生4人
- ③徳島科学技術高等学校（徳島市） 11月14日～15日
2年生5人
- ④鳴門教育大学附属中学校（徳島市） 1月22日～24日
2年生2人
- ⑤加茂名中学校（徳島市） 2月6日～2月8日
2年生3人

(6) 教員のための研修

徳島県教育委員会等からの依頼により、館内外における教員対象の研修会で職員が指導に当たった。

- ①徳島市立高等学校教職員人権教育研修会
5月22日（火） 参加者50人
・部落史学習の課題をめぐって（講師：長谷川）
- ②徳島県内私立学校教職員研修
7月24日（火） 参加者90人
・博物館の特色および利用方法について（講師：高島）
・レプリカ作製実習（講師：辻野 実習補助：長谷川・小川）
- ③平成24年度教職員10年経験者研修
7月24日（火） 参加者4人
・地域の昔探訪フィールドワーク（講師：磯本）
・地域史の学習と博物館（講師：松永）
- ④阿南市小中学校理科合同研修会
8月7日（火） 参加者25人
・阿南市淡島海岸などで拾える貝殻の種類・生態、桑野川地下の完新世貝化石（講師：中尾）
- ⑤平成24年度初任者研修
8月8日（水） 参加者22人
・押し葉カルタ作り（講師：小川）

- ・魚類の採集・観察（講師：佐藤）
- ⑥小松島市中学校理科研修会
8月10日（金） 参加者10人
・徳島県立博物館の展示物化石を見学（講師：辻野）
- ⑦徳島市・佐那河内村中学校理科教育研究会研修会
11月2日（金） 参加者25人
・スンプ法による顕微鏡観察について
（講師：佐藤・茨木）
- ⑧三好郡・三好市中学校理科部会研修会
12月14日（金） 参加者18人
・博物館の活動と学校や授業での利用方法について
（講師：三好）
- ⑨徳島県中学校理科教育研究会
12月25日（火） 参加者25人
・博物館の活動と学校や授業での利用方法について
（講師：三好）

(7) その他

博物館での授業、講師派遣、資料の貸出しに限らず、学校の授業やクラブ活動等で自然観察、生活体験、歴史学習等をしようとする場合、どんなことをしたらおもしろいか、どんな資料が活用できるかということなどについて、学芸員が博物館での普及行事等の経験を踏まえて教員の相談に応じることにしている。

3. 博物館友の会

- 会員（平成24年度末）

個人会員（年会費2,000円）	80人
（半年会費1,000円）	1人
家族会員（年会費3,000円）	46組 167人
（半年会費1,500円）	1組 5人

- 役員（平成24年度）

会長：鳥居 喬
 副会長：大杉洋子、行成正昭、高島芳弘（博物館長）
 幹事：多田精介、澤祥二朗、徳野壽治、松家京子、伊勢ひとみ、徳山豊
 監査：石尾和仁、南部洋子

●事業

- ①博物館出版物の増刷・頒布
24年度博物館企画展の図録等（「ほねほねワールド」「日本のわざと美」「地図に見る鳥居龍蔵の足跡」）の増刷・頒布を行った。
- ②広報活動
○24年度会員に対し、博物館ニュース、企画展チラシ、月催し物案内、年間催し物案内などを送付し

た。

- 友の会会報「アワーミュージアム」No. 49～51を発行し、会員に送付した。

- No. 49（2012年6月25日発行）
 - 日和佐浦の平家伝説とヘイケヅカ（平家塚）
 - 友の会行事報告 トコロテンづくり
 - 友の会行事報告 万年山を歩こう
 - 平成24年度総会の報告
 - 新スタッフ紹介

- No. 50（2012年10月29日発行）
 - お城の近代史
 - 友の会行事報告 チリモンをさがそう
 - 友の会行事報告 牛乳パックではがき作り
 - 友の会行事報告 川田川の水生昆虫観察
 - 友の会行事報告 キャンプで自然体験

- No. 51（2013年2月28日発行）
 - 新種を発表するには？
 - 友の会行事報告 義経伝説の道ウォークⅢ
 - 友の会行事報告 うどん・ういろう作り

③野外活動等

- 会員を対象とした行事を8回実施した。
 - 万年山を歩こう 4月29日（日） 18人
場所：徳島市佐古
 - 部門展示「阿波の遠洋漁業」展示解説 4月15日（日） 11人
場所：文化の森・博物館部門展示室
 - チリモンをさがそう 6月24日（日） 27人
場所：博物館実習室
 - 牛乳パックではがき作り 7月22日（日） 15人
場所：博物館実習室
 - キャンプで自然体験 7月18日（土）～19日（日） 21人
場所：佐那河内村・いきものふれあいの里キャンプ場
 - 義経の道ウォークⅢ 11月23日（金） 37人
場所：香川県東かがわ市～高松市
 - ういろう・うどん作り 1月13日（日） 26人
場所：博物館実習室
 - 藍染め体験 3月11日（日） 14人
場所：藍住町・藍の館

④イベントでの協力

- 以下のイベントにボランティアとして協力した。
 - こどもの日フェスティバル 「恐竜のペーパークラフト」 5月5日（土） 1,927人
場所：文化の森・博物館常設展示室
 - 文化の森大秋祭り「どんぐり工作」 11月3日（土） 1,050人
場所：文化の森・博物館常設展示室



友の会行事「藍染め体験」



博物館Vキング「つくって遊ぼう！ブンブンごま」

4. 県民参画活動の推進

(1) ボランティア企画型行事の実施

平成17年度から行っている公募ボランティアと職員が共同で企画・実施するイベント（博物館Vキング）を、24年度も継続した。ボランティア約15人のメンバーが中心となって1年間の活動を行った。なお、Vキング当日のボランティアとして、阿南工業高等専門学校の学生1人の協力を得た。

活動の結果は次のとおりである。

①科学体験フェスティバル in 徳島出張

博物館ボランティアメンバーが中心となって、徳島大学で開催された第16回科学体験フェスティバル in 徳島（8月4日（土）～5日（日））に「博物館資料のミニチュアを作ろう！」というテーマで出展し、アンモナイトなどのミニチュアの型どりを行ってもらった。人気アンケート（児童対象）で42ブース中の10位になり高い評価を受けた。

参加者1,772人（4日860人、5日912人）

②博物館Vキング 2月11日（月・祝）

次のイベントを開催した。「つくって遊ぼう！ブンブンごま」「ポップアップカードをつくろう！」「ヒントはどこだ!! 博物館クイズアドベンチャー」「テントでカメラ2013!」「手作りカメラを楽しもう!」

参加者 1,719人

5. 普及教育関係出版物

(1) 博物館ニュース

館の広報紙で、内容は、学芸員の研究の一端を紹介する“Culture Club”、館蔵品紹介、野外博物館、企

画展案内、情報ボックス、レファレンスQ&A、普及行事の案内と記録などから構成されている。A4判・8ページ（全ページカラー）で9,000部を印刷している。

平成24年度には次の4号を発行した。また、当館ホームページでも公開している。

●No. 87（2012年6月25日発行）

表紙 いろいろな骨格標本

Culture Club 駿河湾の深海魚採集

企画展「ほねほねワールド」

情報ボックス 印籠拝見記

－長岡市立科学博物館へ－

館蔵資料 遠洋漁業船の航海日誌

Q&A 化石がとれる場所を教えてください

●No. 88（2012年9月15日発行）

表紙 北村昭斎 瑞鳥唐花文螺鈿箱

Culture Club 答礼人形「ミス徳島」と米国ノースウェスト芸術文化博物館

－徳島平和ミュージアムプロジェクト余録－

企画展 「日本のわざと美」展

－重要無形文化財とそれを支える人々－

情報ボックス 身のまわりの植物で簡単紙漉き

野外博物館 天海山の二枚貝化石モノチス

Q&A 「大阪」と「大坂」は同じ意味ですか？

●No. 89（2012年12月1日発行）

表紙 園瀬川ではじめての発見：絶滅危惧種「カジカ」

Culture Club 徳島県の外来植物

速報 鳴門市千鳥ヶ浜に漂着したイチョウハクジラの解剖調査

情報ボックス 絶滅危惧種ハマグリとその近縁種

情報ボックス 正月の門松いろいろ

Q&A 文化の森に古墳があると聞きましたが、どこにあるのですか？

●No. 90 (2013年3月25日発行)

表紙 豊臣期大坂図屏風

Culture Club 瓦は何を語るのか？

企画展 天下の台所大坂と徳島
－江戸時代の交流史－

情報ボックス 仏の正月

館蔵品紹介 博物館に保管されているタイプ標本

Q&A 徳島県で恐竜化石が発見されてるって、本当ですか？

(2) その他

●年間催し物案内

1年間の普及行事予定を掲載したA4判ちらし。8万部印刷し、県内の小・中・高校生及び教職員全員に配布した。また、博物館ニュースとともに発送するほか、展示室入り口に置いて来館者に自由にとってもらったり、普及行事の参加者に配布したりしている。

●月間催し物案内

各月の普及行事の実施要領、申し込み方法等の案内を印刷したA3判またはA4判のビラ。報道関係機関等に配布するほか、来館者にも提供している。

●博物館引率の手引き

学校の遠足などの利用に役立つよう、博物館の入館案内、見学に当たっての留意点、観覧料減免申請手続きなどについて説明した印刷物。

●博物館の学校支援事業案内

博物館が行っている学校への支援事業を、内容別に紹介したパンフレット。

6. 徳島新聞「こども新聞」への協力

徳島新聞社では平成20年4月から毎週金曜日の夕刊に「こども新聞」の掲載を開始した。博物館ではこのコーナーの執筆協力や編集協力（話題提供、校閲）を行っている。今年度、博物館の協力により掲載された記事は25本である（p. 39～43を参照）。

Ⅲ 情報の発信と公開

博物館を有効に活用する利用者が増えるよう、博物館活動に関する様々な情報を発信していくことは博物館にとって非常に重要な活動である。最近ではインターネットによる情報発信も重要な手段になっている。

博物館の事業の広報に留まらず、様々なメディアを通じて積極的に情報を発信するよう努めている。

1. 博物館の広報活動

博物館ニュース、企画展ポスター、年間催し物案内リーフレット、月間催し物案内等の定期的発行と配布、県庁だよりへの掲載、県庁記者クラブを通じての資料提供、催し物案内の電子メールサービス等により、博物館の事業の広報活動を行っている。

●博物館ニュース、ポスター等の主な県内定期発送先

小学校	193ヶ所
中学校	90
高等学校・その他学校	63
学会・研究所・同好会等	100
県および県教育委員会各課・機関	57
市町村教育委員会	28
公民館・隣保館	224
市町村および大学図書館	38
博物館施設等	53
宿泊施設等	46
報道関係機関等	79

●催し物案内の電子メールサービス

登録者（平成25年3月末現在の登録者320人）

●報道機関への資料提供

24年度は次のような資料提供を行った（各月の催し物あない以外）。

- 4月11日（水）「キッズチャレンジコーナー」のオープンについて
- 4月13日（金）「博物館こどもの日フェスティバル」の開催について
- 6月8日（金）トピックコーナー「アンモナイトは殻がパンクしても死なない？」の展示について
- 6月21日（木）部門展示「兵士たちの戦争」の開催について

6月29日（金）企画展「ほねほねワールド」の開催について

8月2日（木）園瀬川における希少淡水魚「カジカ」の確認について

8月30日（木）移動展「阿波の遠洋漁業」の開催について

9月12日（水）トピックコーナー「絶滅!! ニホンカワウソ-環境省第4次レッドデータリスト改訂で注目された動物たち」

9月14日（金）「特別公開 吉成葎亭筆 阿波盆踊 図屏風」について

9月26日（水）企画展「『日本のわざと美』展-重要無形文化財とそれを支える人々-」の開催について

10月31日（水）トピックコーナー「ナンゴクヒメミソハギ-知らぬ間に私たちの生活に入り込む外国の植物たち-」

11月22日（木）部門展示「ミニ鉱物展」の開催について

12月26日（金）トピックコーナー「新着林業資料紹介」の開催について

1月22日（火）「博物館Vキング」の開催について

1月25日（金）部門展示「身近な草木で紙づくり」 「簪と櫛」の展示について

2月27日（水）平成24年度文化庁芸術振興費補助金（文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業）「阿波木偶箱廻し」調査・伝承推進事業報告会開催について

3月13日（水）部門展示「徳島の湿地-そこに生きる植物たちの知られざる姿-」の開催について

3月22日（金）トピックコーナー「フランスの化石」の展示について

3月27日（水）平成25（2013）年度 徳島県立博物館の普及行事について

3月29日（金）平成25年度企画展「天下の台所大坂と徳島-江戸時代の交流史-」の開催について

●文化の森橋への横断幕の設置

企画展・特別陳列の広報として、県に都市公園占用許可申請をして、企画展・特別陳列の期間中、文化の

森橋に横断幕を設置した。

2. テレビ・ラジオへの出演等

博物館事業のPR等のためのテレビ・ラジオへの出演等を、月日・出演者・内容の順に記す。

- 4月19日 磯本宏紀 NHK徳島放送局（部門展示「阿波の遠洋漁業」について）
- 5月17日 茨木 靖 藍住町ケーブルテレビ（エアテレビ）（特別陳列「海からどんぶらこ－浜辺の漂着物－」について）
- 5月20日 茨木 靖 NHK徳島放送局（特別陳列「海からどんぶらこ－浜辺の漂着物－」について）
- 5月21日 茨木 靖 NHK松山放送局（特別陳列「海からどんぶらこ－浜辺の漂着物－」について）
- 6月18日 磯本宏紀 BS-TBS（「謎解き江戸のススメ」の番組中のテグスの伝播と普及による技術変化についてのコメント、博物館資料（荒テグス・磨テグス・テグス抜き等）の撮影）
- 7月20日 山田量崇 NHK徳島放送局（企画展「ほねほねワールド」について）
- 8月2日 佐藤陽一 四国放送テレビ（園瀬川で確認されたカジカについて）
- 9月7日 佐藤陽一 NHK徳島放送局（鳴門市に漂着したイチョウハクジラについて）
- 10月4日 辻野泰之 NHK徳島放送局（島田島での地層見学について）
- 10月8日 山田量崇 四国放送テレビ（眉山でのスズメバチ刺傷事故を受けて）
- 10月9日 山田量崇 NHK徳島放送局（眉山でのスズメバチ刺傷事故を受けて）
- 12月5日 中尾賢一 NHK徳島放送局（部門展示「ミニ鉱物展」について）
- 12月26日 中尾賢一 ケーブルテレビ徳島（部門展示「ミニ鉱物展」について）
- 2月13日 小川 誠 ケーブルテレビ徳島（部門展示「身近な草木で紙づくり」について）
- 3月15日 庄武憲子 四国放送ラジオ（四国の三番叟まわし・えびすまわしについての告知）

3. インターネットによる情報提供

(1) 電子メール

希望者には電子メール（以下メール）による催し物案内を毎月行っている（平成25年3月末現在の登録者320人）。

また、ホームページ等を見た人からの質問もメールで寄せられており、各担当より回答を行っている。24年度には2件の問い合わせが寄せられている。

(2) ホームページ

A. 概要

インターネット利用者の増加に伴い、博物館でもその技術を活用した情報提供の可能性を探ってきた。11年7月よりホームページ<http://www.museum.comet.go.jp/>を開設した。18年3月からは、ネットワーク回線が徳島県教育情報ネットワークに移管されたため、ホームページは<http://www.museum.tokushima-ed.jp/>に変更された。

ホームページの内容は下記のとおりである。

- ・博物館の紹介（開館日・交通案内など）
- ・展示案内（企画展、常設展）
- ・催し物、普及行事の案内
- ・調査研究活動の紹介
- ・収集保存活動（データベース）
- ・学校等への利用案内
- ・出版物（展示解説、研究報告、博物館ニュースなどの案内）
- ・関連活動紹介（友の会、博物館協議会など）
- ・学芸員関連のページ
- ・特別メニュー（子ども向けメニュー、映像コーナーなど）

ホームページには内容の全文検索やサイトマップを設置し、閲覧者が目的の内容にたどり着きやすくしている。

データベースによる検索では、資料データベースでは人文、動物、植物、地学の分野ごとに収集資料を検索でき、資料の写真や動植物の分布図などが表示できる。また、当館に収蔵している図書についても、図書データベースを公開している。情報提供する項目のテキストデータおよび画像情報を専用フォルダーに入れておけば、夜のうちに自動的に情報提供用のデータベースに取り込まれる仕組みになっている。

ホームページの更新や追加は毎月の催し物案内のように定期的に行うもののほか、各担当により随時行っている。24年度の主な追加内容については下記のとおりである。

- ・常設展示室内に新たに設置したキッズチャレンジコーナーの利用案内のための情報等を掲載した。
- ・「平成24年度のボランティアの活動」のページにおいて、イベントボランティアの活動記録を掲載した。
- ・新規採用学芸員のホームページを「学芸員の部屋」に開設した。

B. アクセスについて

24年度1年間でトップページに約36,500件のアクセスがあった。昨年の58,500件、一昨年の40,000件と比べると大幅な減少となった。

●月別のホームページへの総アクセス数と訪問者数

	総アクセス数	総訪問者数
2012年4月	14,918	450,388
2012年5月	17,345	529,458
2012年6月	16,690	556,053
2012年7月	18,794	569,783
2012年8月	22,625	699,181
2012年9月	16,407	519,927
2012年10月	38,312	668,294
2012年11月	19,129	571,460
2012年12月	14,960	446,172
2013年1月	16,198	500,486
2013年2月	13,519	452,449
2013年3月	13,805	438,380
合計	222,702	6,402,031

4. 外部ネットワークとの連携

当館では、文部省の補助事業の一つとして、平成12年度および13年度に環瀬戸内自然史系博物館ネットワーク推進事業に参加し、博物館の横断検索やいきものマップなどの外部とのネットワーク連携事業を行ってきた。

さらに、18年度からは、国立科学博物館が行っている自然系博物館における収蔵品データ整備事業に参加し、さらなる連携を深めている。事業の内容は全国の科学系博物館のホームページの内容の横断検索で、サイエンスミュージアムネット (<http://science-net.kahaku.go.jp/>) で160館以上のホームページを一度に

検索することができる。収蔵品データの検索も準備されており、当館からは徳島県産維管束植物のデータを整備し提供した。日本語の検索および GBIF (Global Biodiversity Information Facility: 地球規模生物多様性情報機構) のデータとしても横断検索できるようになった。

5. 情報システムの概要

平成23年度に文化の森のシステム更新(第5期システム更新)が行われ、24年度はその運用開始2年目であった。24年度中に行われた主な改善内容は次の2点である。

- ・総合教育センターおよび全庁LAN回線増速工事による回線の増速
- ・文化の森と徳島県立総合教育センター間のバックアップシステムの構築。両施設が運用中の「各種アプリケーションならびにデータ等」を、定期的に相互バックアップしておくことにより、大規模災害等で被災した際にも早急に原状回復ができることを目的として構築した。

なお、博物館のコンピュータシステムは、職員が日常的に使う業務用、来館者や館外者が利用する情報提供用の2つに大別できる。次のような構成で第5期システムの運用にあたっている。

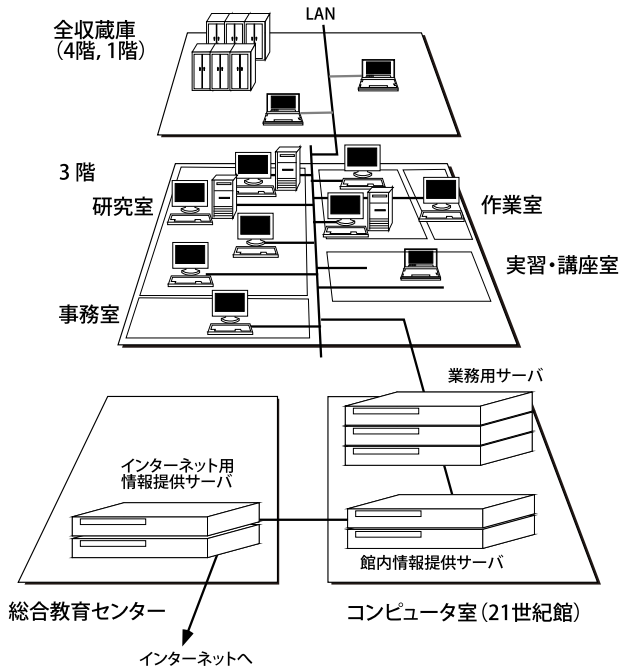
①業務用システム

業務用システムでは、コンピュータ室・研究室・作業室・収蔵庫・事務室等をイーサネット(1000BaseT)のLANでつないである。ファイルサーバ(Windowsサーバ 2008 R2)とデータ連携サーバ(Linux)の2台のサーバを設置してある。サーバのデータは、二十一世紀館に常駐するSE(システムエンジニア)によって毎日バックアップがとられている。職員1人に1台の端末を配置し、データベースやファイルを共有している。これらの端末は、作業の内容に応じた仕様となっており、たとえば収蔵庫では常設の端末ではなく、ノート型パソコンを活用している。

②情報提供用システム

情報提供用としては、Linuxサーバを用いて、WWWサーバと資料データベースを構築している。また、文化の森で共通で使用する全文検索用サーバを1台設置した。さらに、柔軟なデータベース公開ができるようにMySQLサーバによるWebデータベースを構築し、博物館資料データベース、図書データベース及び新聞記事データベースを、WWWサーバで公開している。インターネットの回線が徳島県立総合教育セ

ンターに集約されているため、これらの情報提供用サーバを2組用意し、館内用は文化の森のコンピュータ室に、外部（インターネット）用は教育総合センターに設置し、館内用サーバから自動的にデータが更新される仕組みを構築している。



徳島県立博物館の情報システムの構成

IV シンクタンクとしての社会貢献

博物館は、博物館活動を通じて様々な資源（資料、情報、学芸員の知識・経験）を蓄積している一種のシンクタンクである。これらの資源を活用して地域社会に貢献し、また、県政の課題解決に寄与することも、博物館の重要な役割であると考え、積極的に取り組んで行くことにしている。

1. レファレンス業務

一般の県民や児童・生徒・学生、教職員、行政職員、マスコミ、企業などから寄せられた質問や問い合わせに対応する業務を当館ではレファレンス業務と呼んでいる。問い合わせ方法としては、来館、電話、Eメール、文書によるものなどがある。当館ではこれらの問い合わせを、対応の記録や博物館に対するニーズを把握する目的でデータベース化している。

平成24年度に行ったレファレンス件数は797件で、分野別内訳は下表のとおり。この記録は博物館レファレンス記録データベースに記録されたデータに基づいている。ただし、同様の問い合わせが集中したときなど、すべてを記録できているわけではないので、実際の件数はこれより2～3割程度多いと考えられる。

職業別の割合を見ると、一般（不明を含む）からの問い合わせが53%でもっとも多く、次いでマスコミ・

出版関係が25%、博物館・図書館・官公庁等が9%、高校生以下の児童・生徒及び教員が7%、大学（院）生・研究者が4%、その他が2%であった。

2. 各種委員会委員等の受託

平成24年度に博物館職員が委嘱を受けた各種委員会委員、学会役員等は次のとおり。

高島芳弘

日本博物館協会評議員

（平成24. 4. 1～1年間）

徳島県博物館協議会会長

（平成24. 1～1年間）

徳島市立考古資料館協議会委員

（平成23. 7. 1～25. 6. 30）

史跡渋野丸山古墳調査整備検討委員会委員

（平成25. 2. ～）

佐藤陽一

徳島県ビオトープアドバイザー

（平成14. 4. 11～26. 3. 31）

阿波しらさぎ大橋環境アドバイザー（旧称：東環状大橋建設にかかる環境モニタリング調査アドバイザー）

（平成16. 8. 16～27. 3. 31）

徳島県土木工事環境配慮アドバイザー

（平成19. 4. 1～26. 3. 31）

徳島県希少野生生物保護検討委員会委員

（平成21. 12. 1～26. 3. 31）

徳島県版レッドリスト改訂のための汽水・淡水魚類作業部会長

（平成21. 12. 1～25. 3. 31）

環境省希少野生動植物種保存推進員

（平成9. 7. 1～27. 6. 30）

国土交通省四国地方整備局「河川・溪流環境アドバイザー（吉野川・那賀川）」

（平成19. 4. 26～25. 3. 31）

国土交通省那賀川河川事務所「那賀川左岸堤防地震・津波対策事業環境保全検討委員会」委員

（平成24. 12. 11～26. 3. 31）

●分野別レファレンス件数（平成25年3月31日現在）

分野	件数
動物（脊椎）	109
（無脊椎）	48
（昆虫）	138
植物	85
地学	129
考古	18
歴史	119
民俗	60
美術工芸	18
保存科学	0
その他	73
合計	797

日本魚類学会標準和名検討委員会副委員長
(平成15. 4. 1～)

小川 誠
徳島県土木工事環境配慮アドバイザー
(平成19. 4. 1～26. 3.31)

NPO法人西日本自然史系博物館ネットワーク理事
(平成21. 4. 1～26. 3.31)

環境省希少野生動植物種保存推進員
(平成24. 7. 1～27. 6.30)

中尾賢一
海陽町教育委員会「竹ヶ島地質遺産調査委員会委員」
(平成23.12.16～)

茨木 靖
東環状大橋建設にかかる環境モニタリング調査アドバイザー
(平成16. 8.16～)

徳島県希少野生生物保護検討委員会委員
(平成21.12. 1～25. 3.31)

辻野泰之
独立行政法人産業技術総合研究所「協力研究員」
(平成24. 4. 1～25. 3.31)

海陽町教育委員会「竹ヶ島地質遺産調査委員会委員」
(平成23.12.16～)

山田量崇
徳島県田園環境検討委員会委員
(平成24. 1.15～26. 1.14)

国土交通省四国地方整備局「河川・溪流環境アドバイザー」
(平成23. 5.25～25. 3.31)

国土交通省四国地方整備局那賀川河川事務所「長安
口ダム環境モニタリング委員会」委員
(平成24. 4. 2～26. 3.31)

徳島県希少野生生物保護検討委員会委員
(平成21.12. 1～25. 3.31)

環境省希少野生動植物種保存推進員
(平成24. 7. 1～27. 6.30)

長谷川賢二
徳島県人権教育啓発推進委員会専門委員
(平成19. 5. 1～)

阿波遍路道・札所寺院保存検討委員会
(平成24. 6. 8～25. 3.31)

日本山岳修験学会理事
(平成23.11～25.11)

大橋俊雄
松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館協議
会委員
(平成23. 4. 1～25. 3.31)

庄武憲子
地域伝統文化総合活性化事業「海部の古い町並み調
査事業」調査指導委員
(平成23. 1. 4～25. 3.31)

地域伝統文化活性化事業「徳島県祭り・行事調査」
調査委員
(平成24. 7. 1～26. 3.31)

「阿波木偶箱廻し」調査・伝承推進事業実行委員会
委員
(平成24. 4. 1～26. 3.31)

財団法人徳島県文化振興財団民俗資料委員会委員
(平成23. 4. 1～25. 3.31)

平成23年度「阿波木偶資料館展示替え検討会議」委
員
(平成23. 8. 1～25.10.31)

平成24年度国際交流基金「日本研究フェロー」アド
バイザー
(平成25. 2. 1～25. 8.31)

四国民俗学会理事
(平成24. 4. 1～平成26. 3.31)

磯本宏紀
新鳥取県史編さん調査委員
(平成24. 4. 1～25. 3.31)

地域伝統文化総合活性化事業「海部の民俗芸能調査
事業」調査指導委員
(平成24. 1. 4～25. 3.31)

「阿波木偶箱廻し」調査・伝承推進事業調査員
(平成24. 4. 1～25. 3.31)

3. 講師の派遣

館外からの依頼を受けて行った講師派遣等を、月
日・担当者・依頼者・内容・場所の順に記す(内容に
依頼者・場所が表現されている場合は依頼者・場所を
省略)。なお、小・中・高校からの依頼による出前授
業については、「Ⅱ普及教育」の「2.学校教育支援事
業」に記載している(p.18～22)。

4月10日 長谷川賢二
徳島県自治研修センター「平成24年度新規採用職員
研修 人権問題Ⅱ・Ⅲ(歴史／行政)」で講演「部
落史と私たちの課題」

4月15日 松永友和
門真市立歴史資料館特別展「大塩平八郎と門人たち」
の歴史講座で講演「大塩平八郎と坂本鉦之助」

5月27日 中尾賢一

- (社)徳島建築士会地域防災研究会「室戸～浅川で地震と津波の痕跡や石碑を見る研修ツアー」講師（高知県室戸岬～海陽町鞆浦・浅川）
- 5月30日 長谷川賢二
平成24年度文化の森新任及び転任職員人権研修会で講演「部落史と私たちの課題」（徳島県立二十一世紀館）
- 6月10日 長谷川賢二
平成24年度オンリーワンとくしま学講座で講演「四国遍路の歴史」（徳島県立総合教育センター）
- 6月13日 長谷川賢二
徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「中世の社会と信仰」（徳島県立総合福祉センター）
- 7月21日 長谷川賢二
NHK文化講座「平清盛」で講演「平清盛とその時代Ⅱ 転換期の社会と聖」（NHK徳島放送局）
- 7月22日 佐藤陽一
「交流体験 IN 吉野川（下流編）」講師（徳島市入田町、鮎喰川）
- 8月2日 庄武憲子
小松島のふるさと講座で講演「盆棚について」（小松島市立図書館）
- 8月7日 茨木 靖
神道青年四国地区協議会第18回研修会で講演「鎮守の杜の植物とその保護について」（当館講座室）
- 8月24日 佐藤陽一
阿南市中野島公民館「岡川の生きもの調査（魚類）」講師（阿南市柳島町、岡川）
- 8月26日 磯本宏紀
鳥取県史民俗調査中間報告会で講演「漁業とウミの信仰」（米子市役所）
- 9月8日 山田量崇
医療法人成悠会昆虫観察会講師（阿波史跡公園）
- 10月10日 長谷川賢二
徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「四国遍路の歴史」（徳島県立総合福祉センター）
- 10月10日 松永友和
徳島大学公開講座・大学開放実践センターで講演「徳島と大坂の交流の歴史～江戸時代を中心に～」
- 10月13日 長谷川賢二
NHK文化講座「平清盛」で講演「平家物語と『源平合戦』」（NHK徳島放送局）
- 10月24日 茨木 靖
徳島大学大学開放実践センター公開講座で講演「徳島県の漂着物一海岸に流れ着く種子、浮子、生き物を調べる一」
- 10月31日 庄武憲子
徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「民俗学①」「民俗学②」（徳島県立総合福祉センター）
- 11月7日 長谷川賢二
徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「戦国軍記における歴史意識」（徳島県立総合福祉センター）
- 11月10日 松永友和
徳島県立文書館古文書講座（中級）で講演「大塩の乱檄文を読む」
- 12月8日 庄武憲子
三好郷土史研究会で講演「婚礼・葬送儀礼、および盆行事について」（三好市中央公民館）
- 12月16日 辻野泰之
福井県立恐竜博物館博物館セミナーで講演「連携博物館講座：徳島周辺の中生代化石」
- 12月22日 小川 誠
平成24年度オンリーワンとくしま学講座で講演「那賀川流域の植物」（徳島県立総合教育センター）
- 1月16日 大橋俊雄
徳島県文化財巡視員研修会で講演「書蹟・絵画等の取り扱いについて」（徳島県立博物館）
- 2月7日 長谷川賢二
徳島大学大学開放実践センター公開講座「空海と歩く～四国阿波遍路2013」で講演「四国遍路の歴史学」
- 2月22日 茨木 靖
海部郡読書振興大会で講演「海からどんぶらこー徳島県の海岸で拾えるもの一」（海南文化館）
- 2月22日 長谷川賢二
平成24年度アーキビスト専門職問題セミナーで講演「博物館学芸員養成の現状と課題」（全国歴史資料保存利用機関連絡協議会調査・研究委員会）
- 3月1日 佐藤陽一
生物多様性とくしま会議「徳島県南の“守るべき川・海・汽水域”を見に行こうツアー」講師（宍喰町ほか）

4. 大学教育への寄与

(1) 大学非常勤講師の受諾

平成24年度に博物館職員が委嘱を受けた大学非常勤講師は次のとおり。

長谷川賢二

鳴門教育大学嘱託講師（博物館特論）

（平成24.4.9～25.3.31）

24年度 博物館実習カリキュラム

		A 班 (10名)		B 班 (9名)	
		実習名(場所)	担当者	実習名(場所)	担当者
8/21(火)	午前	館長あいさつ(実習室) ガイダンス・館内施設見学(館内)	高島 庄武	同左 同左	同左 同左
	午後	昆虫採集と標本作り(野外・分析室) 収蔵庫見学と標本整理(雨天時・収蔵庫)	山田	展示見学とクイズラリー問題づくり (常設展示室・実習室)	庄武
8/22(水)	午前	地学資料写真撮影(地学収蔵庫)	辻野	歴史資料の整理(歴史民俗収蔵庫)	長谷川・松永
	午後	歴史資料の整理(歴史民俗収蔵庫)	長谷川・松永	図書整理(書庫)	辻野・大橋
8/23(木)	午前	美術品の取り扱い方(講座室)	大橋	民俗資料の整理(考古収蔵庫・実習室)	庄武
	午後	脊椎動物標本整理(実習室)	佐藤	民俗資料の整理(考古収蔵庫・実習室)	庄武
8/24(金)	午前	展示室見学とクイズラリー問題づくり (常設展示室・実習室)	庄武	草木で紙づくり(実習室)	小川
	午後	普及業務・展示解説(実習室・展示室)	三好・松岡	普及業務・展示解説(実習室・展示室)	三好・松岡
8/25(土)	午前	草木で紙づくり(実習室)	小川	民俗資料の整理(一時保管庫)	磯本
	午後	地学資料の整理(実習室)	中尾	夏休み向け行事について 標本の名前を調べる会準備(実習室)	茨木

午前(9:30~12:00)、午後(13:00~16:00) および、実習ノート記入、提出(16:00~17:00)

山田量崇

四国大学非常勤講師(博物館実習Ⅰ)
(平成24.4.1~24.9.30)

松永友和

四国大学非常勤講師(博物館実習Ⅰ)
(平成24.4.1~24.9.30)

(2) 博物館実習生の受け入れ

博物館実習は、博物館法施行規則第1条において学芸員となる資格を取得するために「大学において修得すべき博物館に関する科目」と規定されているもののひとつで、登録博物館または博物館相当施設における実習で修得することになっている。

当館では、大学からの依頼により、原則として県出身の学生を受け入れることにし、夏休み期間中に実習を行っている。4月1日~5月15日が受付期間で、希望者が多い場合は調整を行い、20数人をめどに受け入れることにしている。

平成24年度は、8月21日(火)~25日(土)に実習生の受け入れを行った。実習生は16人で、大学別の内訳は次のとおりである。

- 東京造形大学 1人 広島大学 1人
- 京都教育大学 1人 三重大学 1人
- 岡山大学 1人 神戸大学 1人
- 鳴門教育大学 3人 徳島大学 3人
- 四国大学 4人

なお、同時期に県立総合学校本部の依頼により、徳

島県インターンシップ実習学生を受け入れた。インターンシップ実習学生は3人で、学校別の内訳は次のとおりである。

- 徳島大学 2人 京都産業大学 1人
- カリキュラムは別表のとおりである。実習生をA・Bの2班に分けて、学芸員等職員が指導にあたり、資料の整理や調査などについての実習を行った。

(3) 学生・院生の指導

平成24年度に研究課題のために受け入れた学生・院生は次のとおり。所属、学年、人数及び研究テーマを記す。

- ・徳島大学工学部4年 1人 四国における魚類相区



博物館実習(実習生による展示解説)

分と生物多様性

・徳島大学大学院先端技術科学教育部博士前期課程2年 1人 同上

(4) 学芸員養成科目開講への協力

平成21年に博物館法施行規則が改正されたことにより、24年度から大学における学芸員養成のための「博物館に関する科目」が、8科目12単位から9科目19単位に増加した。それらのうち、現場実務の内容を相当盛り込む必要がある「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」(各2単位)について、県内で学芸員養成を行っている徳島大学、鳴門教育大学、四国大学の要請があり、文化の森(博物館、近代美術館、文書館)で協力・開講する方向で検討を行ってきた。それを踏まえて24年8月28日、徳島県と当該大学との間で「学芸員養成科目の開講に関する協定」が締結され、3科目の開講が正式決定した。

大学により配当学年が異なることもあり、24年度は四国大学1年生28人を対象に「博物館資料保存論」だけを開講した。講義は、当館学芸員を中心に、大学教員、近代美術館・文書館職員が担当した。

5. 学会・研究会等の運営への寄与

(1) 学会・研究会等の開催

平成24年度に当館学芸員が担当し、当館および文化の森の施設を会場として開催された学会・研究会等は次のとおり。

- みどりクラブ例会
開催日：毎月土曜日(不定)
会場：博物館講座室
参加者：10人程度
- 徳島地域文化研究会・第10回総会および第17回例会
開催日：4月14日(土)
会場：博物館講座室
参加者：12人
- 徳島地域文化研究会・第18回例会
開催日：10月13日(土)
会場：博物館講座室
参加者：8人

(2) 当館が事務局等を引き受けている学会・研究会等

- みどりクラブ
植物に関心のある県内同好者が、毎月1回(土曜日

の18:30から)、博物館実習室で植物分類の勉強会や採集情報等に関する意見交換を行っている。

会員は約15人で、毎回約10人の参加者がある。

●四国中世史研究会

四国地域をフィールドとしている中世史研究者によって構成されており、研究会・史料見学(年2回)、機関誌『四国中世史研究』の刊行(隔年1冊)を行っている。

●徳島地域文化研究会

主として徳島県域をフィールドとする民俗学・文化人類学研究者によって構成されており、研究会やシンポジウム(年3回程度)、会誌『徳島地域文化研究』の発行(年刊)等を行っている。

●四国民具研究会

四国地域をフィールドとする民具研究者により構成されており、研究会の開催、会報・会誌の発行、資料の調査研究等を行っている。

●日本半翅類学会

カメムシやヨコバイ、セミなどのカメムシ目(半翅類)に関する研究の発展およびその成果の普及を図り、あわせて半翅類に興味を持つ者相互の理解と親睦を深めることを目的とした学会である。会誌「Rostria」の発行、総会、例会などの事業を行っている。23年度から当館が事務局を担当している。

6. 博物館ネットワーク

(1) 四国地区博物館協議会及び日本博物館協会四国支部

四国地区博物館協議会及び日本博物館協会四国支部は、四国地区の博物館及び相当施設の連絡・協議組織で、現在82館(園)が加盟している。4県が持ち回りで2年ずつ事務局をつとめることになっており、平成24・25年度は愛媛県美術館が事務局をつとめている。当館は幹事館になっている。

24年度の役員会・総会及び研修・視察は次のとおり開催された。

●24年度役員会・総会

日時：10月17日(木)

役員会10:30～、総会13:30～

会場：愛媛県美術館 会議室、研修室

議事：平成23年度事業報告及び決算報告について

役員会の改選及び入会・退会

平成24年度事業計画及び予算について

その他

全国歴史民俗系博物館協議会について

国立公文書アジア歴史資料センターの活動
について

講演：遠藤貢治氏（愛媛県美術館）「愛媛県美術館
における民間との協業について」

●研修・視察

日時：10月18日（木）10：00～

場所：愛媛県美術館 研修室

内容：日本博物館協会からの本部報告

視察：愛媛県美術館「ストラスブール美術館展」及
び館藏品展視察

(2) 徳島県博物館協議会

徳島県内の博物館施設が相互協力して博物館活動の
振興をはかるため、平成8年2月27日に設立された。
加盟館は、設立時は31館であったが、その後、次第に
増え、25年3月末現在では51館になっている。当館が
事務局をつとめている。

●23年度事業

①役員会の開催

6月26日（火） 大塚国際美術館

2月19日（火） 徳島県立博物館

②総会の開催

日時：6月26日（火）13：00～16：40

場所：大塚国際美術館

議事：23年度事業報告及び決算報告

23年度監査報告

24年度役員選出

24年度事業計画及び会計予算

その他

講演：安東七瀬氏（大塚国際美術館）「時空を超え
て、よみがえる西洋名画」

③加盟館園の職員状況と入館者数一覧の作成・配布

④徳島県博物館協議会ニュースの発行

No. 39～41を発行・配布した。

⑤研修会の開催 参加者20人

日時：24年12月7日（金）13：30～16：00

場所：阿波海南文化村、海陽町浅川

内容：講演会 郡司早直氏（海陽町立博物館学芸員）

「震災史を遡る～郷土史の一つとして～」

展示解説 企画展「阿波の引き札」、常設展

「海部刀」やリニューアル部分

現地見学 震災石碑（浅川地域の観音庵、天

神社など）

(3) 人権資料・展示全国ネットワーク

人権資料・展示全国ネットワーク（略称「人権ネッ
ト」）は、人権確立のための研究、教育、啓発に寄与

することを目的に、人権に関する資料の収集保管、調
査研究、展示等を行う博物館、資料館、人権センター、
研究所等により、平成8年に結成された。現在、30機
関・団体が加入している。24年度は、熊本県の水俣病
歴史考証館を会場として第17回総会が開催された（9
月27～28日）。

当館は発足時から加入しており、総会に職員を派遣
してきたほか、加入機関・団体との個別的な協力を行
っている。

(4) 西日本自然史系博物館ネットワーク

平成12・13年度に文部科学省の委嘱を受けて行われ
た環瀬戸内地域自然史系博物館ネットワーク推進事業
の継承と発展をはかるため、大阪市立自然史博物館お
よび兵庫県立人と自然の博物館の主導により、個人参
加によるゆるやかな連携組織としてNPO法人西日本
自然史系博物館ネットワークが16年4月27日付けで設
立され、約120人の学芸員や博物館関係者が参加して
いる。

24年度（事業年度は1月～12月）は、地域自然史環
境情報提供事業として標本情報の整備に関する研究会
（2回）、博物館連携推進事業として生物多様性協働フ
ォーラムを開催した。また、調査研究推進事業として
博物館スタッフのための技術講座を開催し、収蔵庫の
総合防除と標本管理や100円ショップグッズを使った
自然観察と展示に関するワークショップなどを行った。

V 調査研究

調査研究は、博物館における諸活動の根幹をなす活動である。質の高い調査研究に裏付けられてこそ、最新の情報盛り込んだ展示や質の高いコレクションの収集、内容豊かな普及活動が可能となるからである。

当館の調査研究事業には、複数の学芸員グループで、必要に応じて館外の研究者も含めて、特定のテーマを定めて年度単位で集中的に取り組む課題調査、各学芸員がそれぞれの分野や専門とするテーマに基づいて日常的に取り組んでいる個別調査研究、翌々年以降に予定されている企画展のための事前資料調査などがある。

現在、館長を含む13人の学芸スタッフがこの業務に携わっている。

1. 課題調査

平成24年度は、次の2つの課題調査を行った。

(1) 異なる森林環境における昆虫類群集の多様性

本県の多様な森林環境のうち、温帯落葉広葉樹林、暖帯常緑広葉樹林、針葉樹林、二次林といった異なる森林環境を選定して蛾類および半翅類群集の構造の違いを比較するとともに、分布や生息環境などの基礎的なデータを収集することを目的として行った。24年度は、蛾類のインベントリー（生息種相調査）を県南部の照葉樹林帯にて行い、半翅類においては、森林環境との比較データを得るために海岸部や河川・ため池等でも調査を行った。

●調査メンバー

博物館学芸員：山田量崇（動物）

館外調査者：林 正美（埼玉大学教育学部教授）

大原賢二（元徳島県立博物館学芸員）

広渡俊哉（大阪府立大学大学院准教授）

●調査の概要及び成果

6月4～6日 海陽町、美波町など

8月28～30日 神山町、那賀町、上勝町、勝浦町、阿南市、美波町など

6月4～6日は広渡氏と山田が、8月28～30日は林

氏、大原氏、山田がそれぞれ調査した。

6月の調査では、海陽町轟の滝周辺にて日中の任意調査と夜間の灯火採集によって多数の蛾類標本を収集した。調査で得られたハモグリガについては新種の可能性があるとして広渡氏により目下研究中である。8月の調査では、28日に神山町から那賀町にかけてエゾゼミ類を対象とした調査を行い、29～30日には県南の海岸部でウミアメンボ類や希少アメンボであるエサキアメンボの採集・調査を行った。成果の一部を徳島県立博物館研究報告23号にて発表した。

(2) 徳島県の湿地生植物

近年、徳島県においても人為的な環境の破壊や外来生物の侵入等により在来野生生物の危機は増大している。とりわけ湿地の環境は人為的破壊が著しく、とくに保護を必要とする種が多い。このため湿地及びその周辺部を詳細に調査することで、集約的に保護の必要な種の現況を把握することができると考えられる。

また、近年水湿地においては、外来水草の侵入や異常な繁殖が目立ち、大きな社会問題となっている。とりわけ国の特定外来種に指定されているナガエツルノゲイトウ、アゾラ・クリスタータ、オオカワヂシャ、そしてボタンウキクサ等の侵入・拡散は深刻な問題となっており、これらの侵入状況の確認と在来種への影響の度合いを把握することが重要な課題となっている。

そこで、本調査では、県内の主要な池沼と湿地等の水湿地の植物を中心に、分布と生育状況確認のため広範囲な生物多様性の基礎的情報を蓄積していくことを目的に現地調査および標本の調査を行った。

●調査メンバー

博物館学芸員：小川 誠（植物）

茨木 靖（植物、調査担当者）

館外調査者：木下 覺（徳島県植物研究会会長）

田淵武樹（徳島県RDB植物調査員）

成田愛治（徳島県植物研究会会員）

中村俊之（(有)ウエットランド研究所）

●調査の概要

6月5日：海部郡海陽町周辺

7月25日：阿南市伊島周辺

8月23日：徳島県三好郡井川町井内東、水の口峠周

辺

8月31日～9月1日：徳島県三好市笹峠付近

10月6日：徳島県海部郡海陽町周辺

10月17～18日：徳島県那賀郡那賀町

11月21日：徳島県海部郡海陽町穴喰浦周辺

1月29日：徳島県立博物館にて会議

2月15日：徳島県立博物館にて会議

24年度は、23年度の成果をふまえ、未調査地域を重点的に調査することで、多くの情報を収集した。また、吉野川流域の河川敷とため池を調査し、外来植物の侵入について詳細なデータの収集を行った。成果の一部を徳島県立博物館研究報告23号にて発表した。

2. 分野別（個別）調査研究

佐藤陽一（動物・脊椎動物）

①淡水魚の生息環境調査

吉野川水系の鮎喰川でヨシノボリ類の生息環境調査を行った。

②徳島県版レッドリスト調査

レッドリスト策定のための調査を勝浦川、桑野川、福井川などで行った。

③徳島県産オヤニラミ保全対策の検討

昨年度に引き続き、徳島県産オヤニラミの遺伝的集団構造を把握するため、桑野川で調査を行った。

④鳴門市千鳥ヶ浜に漂着したイチョウハクジラの現地解剖調査

平成24年9月5日、鳴門市土佐泊浦の千鳥ヶ浜にアカボウクジラ科の希少種イチョウハクジラの雄個体が漂着しているのが発見された。急遽、国立科学博物館（山田格脊椎動物研究グループ長）や愛媛大



イチョウハクジラの解剖調査の様子

学と合同で、9月7日に現地解剖調査を行った。骨格はすべて回収し、当館に收藏することとなった。現在、骨格標本を制作中である。

山田量崇（動物・無脊椎動物）

①ハナカメムシ科の系統分類学的研究

東南アジアおよび東アジアの材料をもとに生物多様性保全の観点から本科の系統分類学的研究を行った。

②農業害虫の天敵としての半翅類の探索と利用に関する研究

熱帯アジアと我が国の生物的防除研究へ基礎資料を提示すべく、難同定分類群の簡易的な同定法の構築を目指した研究を行った。

③剣山系の昆虫相調査

半翅類と小蛾類を対象にインベントリー作成をめざした標本の収集を行った。

④外来昆虫の分布拡大経路の解明

徳島に侵入した外来カメムシ類の分布拡大経路を追跡調査した（加藤敦史氏と共同）。

⑤県産無脊椎動物相の調査

海産および汽水産甲殻類、県産クモ類の標本収集を行った。

小川 誠（植物）

①タンポポの分布調査

タンポポ調査2010・西日本の結果を受け、徳島県境周辺のタンポポの調査を高知県、愛媛県、香川県で調査を行った。

②県産植物相の調査

平成24年度阿波学会の調査の一環として、東みよし町三加茂地区の植物相調査を行った（木下 覺氏らと共同）。

③湿地の植物相調査

主に湿地性植物を中心に、徳島県の植物相の調査



漂着したイチョウハクジラ

を行った（木下 覺氏らと共同）。

④身近な植物を使った紙作りの研究

植物について親しんでもらうため、また環境教育の一環として身近な植物を使った紙作りの方法について研究した。その成果は部門展示「身近な草木を使った紙づくり」で展示した。

茨木 靖（植物）

①県産植物相の調査

主に湿地性植物を中心に、徳島県の植物相の調査を行った（木下 覺氏らと共同）。

②イネ科植物の比較研究

国内外各地のイネ植物について、その異同、分布などに関しての調査を行った。

③県内における海流種子等の漂着状況を調査した（池淵 正明氏、濱 直大氏、成田 愛治氏、米田 稀美氏らと共同）。

中尾 賢一（地学）

①鮮新統～更新統の堆積環境と貝化石相の調査

高知県、熊本県、宮崎県で堆積構造の観察と貝化石の採集および二枚貝類の分類学的研究を行った。

②海産無脊椎動物の分類学的・生物地理学的研究

県内の海岸に打ち上げられている貝類および干潟に生息する貝類を採集し、ハマグリなどの種の分布を調査した。

辻野 泰之（地学）

①北海道の蝦夷層群より産出するアンモナイト化石に関する研究

特に白亜系蝦夷層群より産出する異常巻きアンモナイト：バキュリテス類の分類学的研究を行った。

②古生物タイプ標本における3Dデジタルアーカイブの構築に関する研究（科研費助成による研究）

日本において記載された白亜紀アンモナイトのタイプ標本の3D画像のアーカイブを構築するための研究を行った。

③那賀町北川地域の地質に関する研究

那賀町北川地域の地質図を作製ための研究（産業技術総合研究所と共同）。

④那賀町の寒谷層より産出したアンモナイト化石に関する研究

後期三畳紀の地層より産出したアンモナイト化石：*Sirenites* についての研究を行った。

高島 芳弘（考古）

①若杉山遺跡を中心とする徳島県における朱採掘遺跡の確認調査

②銅鐸絵画の調査研究

クモ或いはアメンボと見解の分かれる4本足の小動物について、その同定のあり方を検討した。

③漂着物として採集された土器片の調査

北の脇海岸で採集された土器片について検討を行い、関連する弥生前期土器とマダコ壺について調査した。

岡本 治代（考古）

①当館所蔵古代瓦の整理・研究。

徳島県立工業高校から寄贈された瓦類の調査を行い、その結果を研究報告で報告した。

②讃岐における古代瓦の研究。

讃岐における古代瓦の生産体制について検討した。

長谷川 賢二（歴史）

①仏教史における修験道の位置づけに関する研究

修験道史研究の軌跡を総括した上で、仏教としての修験道の成立、組織形成における超宗派的な道筋をとらえる視角について検討した。

②阿波の寺社縁起に関する研究

阿波山間部の寺社縁起と地域社会の関係について検討した。

③「南洋」派遣教師の遺品調査

昭和初期に日本統治下にあった南洋諸島に派遣された教師の所持品等を調査した。

松永 友和（歴史）

①徳島と大坂の交流史に関する調査

江戸時代の徳島と大坂について、その交流を物語る資料を調査した。阿波藍の経済的交流や大塩平八郎や篠崎小竹の文化的交流に焦点を絞り検討を進めた。

②当館所蔵の古文書調査

当館所蔵の板野郡大代村岡家文書の調査を行い、一部の古文書については目録を作成した。

③蜂須賀家及び徳島藩に関する調査

江戸時代前期の御家騒動である益田豊後事件について、先行研究から学びつつ、若干の再検討を試みた。

庄武 憲子（民俗）

①四国の三番叟まわし・えびすまわし及び門付け芸に関する調査

「阿波木偶箱廻し」調査・伝承推進委員会の一員として、愛媛県、香川県、高知県における三番叟まわし・えびすまわし及び門付け芸についてアンケート調査及び聞き取り調査を行った。調査結果を報告書にまとめ、報告会にて概要を公表した。

また、徳島県内の人形座の木偶を購入した経緯を持つ、岐阜県恵那市の大井文楽にて木偶の実測、写真撮影、聞き取り調査を行った。

②海部の町並み調査

海部の古い町並み調査事業の委員として、町並みについての地元の人からの聞き取り調査を行った。

③徳島県の祭り・行事調査

徳島県の祭り・行事調査事業の調査員として勝浦町の鹿背山神社、坂本八幡神社、中山八幡神社、西岡神社例大祭、大宮八幡神社新嘗祭の調査を行った。

④阿南市の三番叟まわし芸人についての調査

館蔵資料の整理および聞き取り調査によって、阿南市に在住していた三番叟まわし芸人の実態について再検討した。

⑤民家に残された神札、護符についての調査

寄贈を受けた神札、護符資料の整理・記録によって、一家の信仰のあり方について検討した。

磯本宏紀（民俗）

①阿波漁民の漁業移住に関する民俗学的研究（科研費助成による研究）

漁民の出稼ぎ・移住に関する聞き取り調査、文献調査を行った。漁業移住の実態と、それにともなった文化伝播の痕跡を明らかにすることを目的として検討した。

②農具市と民具の流通に関する調査

東みよし町域を中心に農具市や職人等による民具の製作と流通に関する聞き取り調査を行った。

③三番叟まわし・えびすまわしに関する調査

海部郡、小松島市等において三番叟まわし、えびすまわし等の聞き取り調査を行った。鳥取市において阿波木偶等の資料調査を行った（「阿波木偶箱廻し」調査・伝承推進事業実行委員会における共同調査）。

④海部郡の民俗芸能に関する調査

海部川筋の盆踊り等に関する観察調査、聞き取り調査を行った（海部郡文化財保護審議会との共同）。

⑤鳥取県史編さん事業に関する調査の内「生業（漁業）」に関する調査（鳥取県史編さん室及び調査委員との共同）

大橋俊雄（美術工芸）

①森崎家資料に関する調査

館蔵の森崎家資料は、17世紀末から19世紀におよぶ、阿波藩の御用絵師の家に伝えられた粉本類である。粉本とは、師匠の作品や有名な絵などを写し取った手控えで、絵師が実製作にあたって参考とした。これらの整理を進めながら、当地域における絵画製作のあり方、文化の一面を検討した。

②飯塚桃葉に関する調査

飯塚桃葉は、18世紀後半に活躍した阿波藩の御用蒔絵師。近年の研究動向、新作品の発見をふまえ、より具体的な位置づけを検討した。

③18・19世紀における阿波の美術

10代藩主蜂須賀重喜から12代藩主斉昌までの時期は、阿波の美術において注目すべき現象がみられた。その内容を具体的にとらえることを目指した。

3. 分野別（個別）調査研究等の館内公表会（セミナー）の実施

課題調査及び分野別（個別）調査研究等について、学芸員相互の情報交換と研究資質向上をはかることを目的として、館内公表会（セミナー）を随時実施している。必要に応じて、学芸員の調査研究の協力者など、館外の研究者に発表を依頼することもある。平成24年度は次のとおり実施した（*印：館外研究者）。

5月25日（金） 佐藤陽一「カワバタモロコ保全のための生息可能性評価」

7月31日（火） 大橋俊雄「谷田蒔絵について－資料がなくて分からない、という話－」

9月28日（金） 小川 誠「市民参加型調査の実例」

10月24日（水） 三好康彦「私が見たモンゴル」

11月30日（金） 岡本治代「南海道における造瓦体制」

12月8日（火） 米田稀美*「徳島県と和歌山県の海岸で発見された種子について」



セミナーの様子

4. 科学研究費補助金等による研究

- 若手研究（B）：「アワ船」による漁民移動と漁業移住の類型化に関する民俗学的研究（平成22～25

年度)

研究代表者：磯本宏紀

- 若手研究 (B) : 古生物タイプ標本における3Dデジタルアーカイブの構築に関する研究 (平成24~26年度)

研究代表者：辻野泰之

- 基盤研究 (C) : 最古の現生種化石記録から探る現生貝類群集の成立：その時期と古環境背景 (平成22~24年度)

研究代表者：近藤康生 (高知大学理学部教授)

当館の分担研究者：中尾賢一

- 大谷大学真宗総合研究所「一般研究」：ジュラ紀放散虫群集の数値年代 (平成24年度)

研究代表者：鈴木寿志 (大谷大学文学部准教授)

当館の共同研究者：辻野泰之

5. 他機関との共同研究

- 那賀町北川地域の地質に関する研究

独立行政法人産業技術総合研究所は、全国各地の5万分の1の地質図を作成している。作成された地質図は、地域の土地利用や災害防止、資源探索、環境対策などの基礎情報として役立っている。当館の辻野は、平成22年度より産業技術総合研究所からの依頼を受け、徳島県北川地域の地質図作成のために産業技術総合研究所と共同で地質調査を進めている。

24年度は、那賀町木頭助周辺 (東蟬谷および小見野々) の地質調査を行い、三畳紀の地層の分布や含まれる化石について研究を進めた。

6. 研究成果の公表

(1) 徳島県立博物館研究報告第23号の発行

2013年3月29日発行、A4判135ページ、700部

(*印：館外研究者)

論文

辻 幸一*：愛媛県伯方島の魚類相。p.1-21.

調査報告・資料紹介

岡本治代：徳島県立博物館所蔵の古代瓦－徳島県立工業高校寄贈資料－。p.23-31.

磯本宏紀：出羽島のカツオ・マグロ漁と機付帆船第壱号蛭子丸の航海日誌。p.33-50.

三本健二*・中尾賢一：高知県の鮮新－更新統唐ノ浜層群穴内層から新たに確認された貝類 (6)。p.51-61.

大原賢二*・林 正美*・山田量崇：徳島県におけるエサキアメンボの記録。p.63-68.

大原賢二*・林 正美*・山田量崇：徳島県における外洋性ウミアメンボ3種の記録。p.69-75.

大原賢二*・山田量崇：アサギマダラの移動に関する徳島県の記録 (2012年)。p.77-86.

和田太一*：徳島県吉野川の干潟で記録された底生生物相と河口域の生物多様性の保全。p.87-111.

米田稀美*・生駒直紀*・土屋正行*・谷口 舜*・近藤茂則*・濱 直大*・茨木 靖：徳島県および和歌山県の微小漂着種子に関する予備的調査。p.113-117.

短報

濱 直大*・茨木 靖・許 再文*：徳島に漂着したオニガシ *Lithocarpus lepidocarpus* (Hayata) Hayata の果実についての記録。p.119-121.

小川 誠：徳島県産の新帰化植物カロライナツユクサ (ツユクサ科) について。p.123-125.

茨木 靖・小川 誠・木下 覺*・成田愛治*・中村俊之*・矢野興一*：徳島県におけるハタバカンガレイ *Schoenoplectus gemmifer* C. Sato, T. Maeda et Uchino の生育状況。p.127-130.

茨木 靖：徳島県に漂着したヒメモダマ *Entada phaseoloides* (L.) Merr. (ネムノキ科) の発芽試験。p.131-132.

(2) 公表論文・報告・記事等一覧

(*印：館外研究者)

●動物

〈学術的著述〉(☆：査読付学術雑誌)

☆Yamada, K., Yasunaga, T.* & Ichikawa, T.* (2012. 10) A new species of Lyctocoridae (Hemiptera: Heteroptera: Cimicoidea) feeding on the exuded sap of a Sawtooth Oak, *Quercus acutissima*, in Japan. *Zootaxa*, 3525: 65-74.

☆Yasunaga, T.*, Yamada, K. & Artchawakom, T.* (2013. 1) A new species of *Isometopus* Fieber, the first record of Isometopinae (Heteroptera: Miridae) from Thailand. *Zootaxa*, 3599: 197-200.

大原賢二*・林 正美*・山田量崇 (2013. 3) 徳島県におけるエサキアメンボの記録。徳島県立博物館研究報告, (23): 63-68.

大原賢二*・林 正美*・山田量崇 (2013. 3) 徳島県における外洋性ウミアメンボ3種の記録。徳島県立博物館研究報告, (23): 69-75.

大原賢二*・山田量崇 (2013. 3) : アサギマダラの移動に関する徳島県の記録 (2012年)。徳島県立博物

- 館研究報告, (23) : 77-86.
 〈一般著述〉
 佐藤陽一 (2012. 4) キツネ 県内にいないの. 徳島新聞 4月29日朝刊 (阿波っ子 Times キッズはてな).
 佐藤陽一 (2012. 6) 駿河湾の深海魚採集. 徳島県立博物館ニュース (Culture Club), (87) : 2-3.
 佐藤陽一 (2012. 7) 脊椎動物のいろいろな骨. 徳島新聞 7月20日夕刊 (こども新聞).
 佐藤陽一 (2012. 11) カジカ. 徳島新聞11月16日夕刊 (こども新聞).
 佐藤陽一 (2012. 12) 園瀬川ではじめての発見: 絶滅危惧種「カジカ」. 徳島県立博物館ニュース (表紙), (89) : 1.
 佐藤陽一 (2012. 12) 鳴門市千鳥ヶ浜に漂着したイチョウハクジラの解剖調査. 徳島県立博物館ニュース (速報), (89) : 4.
 佐藤陽一 (2013. 1) ヘビ. 徳島新聞 1月18日夕刊 (こども新聞).
 山田量崇 (2012. 6) ウミアメンボ. 徳島新聞 6月8日夕刊 (こども新聞).
 山田量崇 (2012. 6) いろいろな骨格標本. 徳島県立博物館ニュース (表紙), (87) : 1.
 山田量崇 (2012. 7) ウニとヒトデ. 徳島新聞 7月8日夕刊 (こども新聞).
 山田量崇 (2012. 8) ホネガイ. 徳島新聞 8月17日夕刊 (こども新聞).
 山田量崇 (2012. 9) アリ. 徳島新聞 9月28日夕刊 (こども新聞).
 山田量崇 (2013. 2) ヘビトンボ. 徳島新聞 2月1日夕刊 (こども新聞).
 山田量崇 (2013. 2) 新種を発表するには?. アワーミュージアム, (51) : 1-3.
 山田量崇 (2013. 3) 博物館に保管されているタイプ標本. 徳島県立博物館ニュース (館蔵品紹介), (90) : 6.
- 植物
 〈学術的著述〉 (☆: 査読付学術雑誌)
 ☆Yamashiro, T.*, Yamashiro, A.*, Ogawa, M., Kurosaki, N.*, Kobayashi, T.* & Maki, M.* (2012. 10) High Population Genetic Diversity and Regional Differentiation in the Endemic *Vincetoxicum katoi*-*V. yamanakae* Complex (Apocynaceae; Asclepiadoideae) in Japan. *Acta phytotaxonomica et geobotanica*, 63 (1) : 29-40.
 ☆Nishida, S.*, Azuma, H.*, Naiki, A.* & Ogawa, M. (2012. 6) Molecular Phylogenetic Analyses of *Geranium robertianum* Populations Found in Japan. *Acta phytotaxonomica et geobotanica*, 62 (2-3) : 79-87.
- 木下 覺*・片山泰雄*・谷川光秋*・小川 誠・茨木靖・松枝悦子*・小松研一*・成田愛治*・植北ちず子* (2012. 7) 吉野川市山川町の植物. 阿波学会紀要, (58) : 25-36.
 小川 誠: 徳島県産の新帰化植物カロライナツユクサ (ツユクサ科) について. 徳島県立博物館研究報告, (23) : 123-125.
 ☆Ibaragi, Y. (2012. 6) *Arundinella nepalensis* var. *xerophila* (Poaceae) : A New variety from Mustang, Nepal. *Journal of Japanese Botany*, 87 (3) : 206-209.
 ☆成田愛治*・濱 直大*・茨木 靖・中西弘樹* (2012. 12) ゴバンノアシ発芽漂着種子の日本本土での記録. 漂着物学会誌, 10 : 33-34.
 米田稀美*・生駒直紀*・土屋 正*・谷口 舜*・近藤茂則*・濱 直大*・茨木 靖: 徳島県および和歌山県の微小漂着種子に関する予備的調査. 徳島県立博物館研究報告, (23) : 113-117.
 濱 直大*・茨木 靖・許 再文*: 徳島に漂着したオニガシ *Lithocarpus lepidocarpus* (Hayata) Hayata の果実についての記録. 徳島県立博物館研究報告, (23) : 119-121.
 茨木 靖・小川 誠・木下 覺*・成田愛治*・中村俊之*・矢野興一*: 徳島県におけるハタバカンガレイ *Schoenoplectus gemmifer* C. Sato, T. Maeda et Uchino の生育状況. 徳島県立博物館研究報告, (23) : 127-130.
 茨木 靖: 徳島県に漂着したヒメモダマ *Entada phaseoloides* (L.) Merr. (ネムノキ科) の発芽試験. 徳島県立博物館研究報告, (23) : 131-132.
- 〈一般著述〉
 小川 誠 (2012. 9) 身の回りの植物で簡単紙漉き. 徳島県立博物館ニュース (情報ボックス), (88) : 5.
 茨木 靖 (2012. 4) 漂着物. 徳島新聞 4月20日夕刊 (こども新聞).
 茨木 靖 (2012. 7) コウホネ. 徳島新聞 7月13日夕刊 (こども新聞).
 茨木 靖 (2012. 12) 徳島県の外来生物. 徳島県立博物館ニュース (Culture Club), (89) : 2-3.
 茨木 靖 (2013. 3) ハタバカンガレイ. 徳島新聞 3月29日夕刊 (こども新聞).
- 地学
 〈学術的著述〉 (☆: 査読付学術雑誌)
 阿部 肇*・西山賢一*・東明省三*・石田啓祐*・中尾賢一*・辻野泰之*・森江孝志*・橋本寿夫*・佐藤高則*.

吉野川市山川町の地質－段丘堆積物と高越鉱山の現況。阿波学会紀要, (58) : 1-12.

三本健二*・中尾賢一 (2013. 3) 高知県の鮮新－更新統唐ノ浜層群穴内層から新たに確認された貝類(6)。徳島県立博物館研究報告, (23) : 51-61.

☆Tsujino, Y. and Shigeta, Y. (2012. 7) Biological response to experimental damage to the phragmocone and siphuncle in *Nautilus pompilius* Linnaeus. *Lethaia*, 45 : 443-449.

〈一般著述〉

中尾賢一 (2012. 5) ハイガイ。徳島新聞 5月11日夕刊 (こども新聞)。

中尾賢一 (2012. 6) 化石がとれる場所を教えてください。徳島県立博物館ニュース (Q & A), (87) : 7.

中尾賢一 (2011. 8) 放散虫。徳島新聞 8月3日夕刊 (こども新聞)。

中尾賢一 (2012. 11) 自然金。徳島新聞 11月30日夕刊 (こども新聞)。

中尾賢一 (2012. 12) 絶滅危惧種ハマグリとその近縁種。徳島県立博物館ニュース (情報ボックス), (89) : 5.

中尾賢一 (2013. 3) ハマグリ。徳島新聞 3月1日夕刊 (こども新聞)。

辻野泰之 (2012. 8) 哺乳類型爬虫類。徳島新聞 8月10日夕刊 (こども新聞)。

辻野泰之 (2012. 9) 天海山の二枚貝化石モノチス。徳島県立博物館ニュース (館蔵品紹介), (88) : 6.

辻野泰之 (2012. 12) 翼竜。徳島新聞 12月7日夕刊 (こども新聞)。

辻野泰之 (2013. 3) 徳島県から恐竜の化石が発見されてるって、本当ですか？。徳島県立博物館ニュース (Q & A), (90) : 7.

●考古

〈学術著述〉

岡本治代 (2013. 3) 徳島県立博物館所蔵の古代瓦－徳島県立工業高校寄贈資料－。徳島県立博物館研究報告, (23) : 23-31.

〈一般著述〉

高島芳弘 (2012. 12) 文化の森に古墳があると聞きましたが、どこにあるのですか？。徳島県立博物館ニュース (Q & A), (89) : 7.

高島芳弘 (2013. 2) 阿波のひとがた 2 : 土偶から分銅型土製品へ。徳島新聞 2月8日朝刊。

岡本治代 (2013. 3) 瓦は何を語るのか？。徳島県立博物館ニュース (Culture Club), (90) : 2-3.

岡本治代 (2013. 3) 遺跡に残る地震の爪あと。徳島新聞 3月15日夕刊 (こども新聞)。

●歴史

〈学術的著述〉 (☆ : 査読付学術雑誌)

石尾和仁*・金原祐樹*・桑原 恵*・須藤茂樹*・高田恵二*・田中裕子*・徳野 隆*・長谷川賢二・日野善雄*・松永友和 (2012. 7) 吉野川市山川町における文書調査」阿波学会紀要, (58) : 145-156.

長谷川賢二 (2012. 10) 天正の法華騒動と軍記の視線－三好長治の「物語」をめぐって－。天野忠幸編, 「論集戦国大名と国衆10 阿波三好氏」, 岩田書院 : 157-188.

長谷川賢二 (2013. 3) 井上達三『国津神時代ニ於ケル徳島城山遺跡地』解題。徳島県立鳥居龍蔵記念博物館研究報告, (1) : 135-147.

☆長谷川賢二 (2013. 3) 熊野三山奉行考－一四～一五世紀の様相をめぐって－。山岳修験, (51) : 1-22.

長谷川賢二 (2013. 3) 真言宗・東寺と山伏－中世修験道史研究の課題をめぐる研究ノート－。寺社と民衆, (9) : 11-18.

片山早紀*・松永友和 (2012. 5) 六 都市論。史学雑誌, 121 (5) : 122-125.

松永友和 (2012. 5) 身分。史学雑誌, 121 (5) : 125-127.

〈一般著述〉

長谷川賢二 (2012. 6) 感謝を込めて；中世阿波の社会と生活。徳島県シルバー大学校徳島校OB会歴史文クラブ編, 「徳島県シルバー大学校徳島校OB会歴史文クラブ15周年記念誌」, 徳島県シルバー大学校徳島校OB会歴史文クラブ : 9, 90-91.

長谷川賢二 (2012. 7) 空海が修行した「大瀧嶽」とはどこか？；四国遍路はいつ始まったのか？；空海は伊島で修行したのか？；阿波国一宮はどこにあったのか？；なぜ阿波には板碑が多いのか？；剣山の山岳信仰とは？；忌部神社がなぜ徳島市にあるのか？。須藤茂樹編著, 「徳島県謎解き散歩」, 新人物往来社 : 184-197, 200-203.

長谷川賢二 (2012. 9) 答礼人形「ミス徳島」と米国ノースウェスト芸術文化博物館－徳島平和ミュージアムプロジェクト余録－。徳島県立博物館ニュース (Culture Club), (88) : 2-3.

長谷川賢二 (2012. 11) 経塚。徳島新聞 11月2日 (こども新聞)。

長谷川賢二 (2013. 3) ネットワークと資料保存をめぐる課題。史窓, (43) : 104-143.

松永友和 (2012. 6) 大坂の部落史関係史料集と近年の研究動向について。りべらちお, (26) : 6.

松永友和 (2012. 8) 江戸時代のお金。徳島新聞 8月31日夕刊 (こども新聞)。

松永友和 (2012. 9) 「大阪」と「大坂」は同じ意味ですか？. 徳島県立博物館ニュース (Q & A), (88) : 7.

松永友和 (2012. 12). 徳島城の鬼瓦. 徳島新聞12月28日夕刊 (こども新聞).

松永友和 (2013. 3) 豊臣期大坂図屏風. 徳島県立博物館ニュース (表紙), (90) : 1.

●民俗

〈学術的著述〉(☆: 査読付学術雑誌)

庄武憲子 (2012. 5) 徳島県中部の「三番叟まわし」「えびすまわし」の特徴について. しこく部落史, (14) : 44-45

庄武憲子 (2013. 3) 徳島県の三番叟まわし・えびすまわし—平成23年度調査の分析— 1. 廻っていた地域と年代による変遷, 2. 迎える側からみた三番叟まわし・えびすまわし芸人. 「阿波木偶箱廻し」調査・伝承推進委員会編, 「四国における「三番叟まわし」「えびすまわし」調査報告書—地域社会から見た門付け芸能—」, 「阿波木偶箱廻し」調査・伝承推進委員会 : 63-66, 67-70.

庄武憲子 (2013. 3) 四国の三番叟まわし・えびすまわし 3. 分析. 「阿波木偶箱廻し」調査・伝承推進委員会編, 「四国における「三番叟まわし」「えびすまわし」調査報告書—地域社会から見た門付け芸能—」, 「阿波木偶箱廻し」調査・伝承推進委員会 : 188-193.

庄武憲子 (2013. 3) 阿南市の「三番叟まわし」芸人. 徳島地域文化研究, (11) : 34-40.

☆磯本宏紀 (2012. 5) 漁民移動にともなう技術継承と技術伝播—伊島漁民による器械潜水技術を中心に— . 日本民俗学, (269) : 1-34.

磯本宏紀 (2012. 5) 徳島県南部における「えびすまわし」等門付け芸人の足跡と漁業信仰その他. しこく部落史, (14) : 46-48.

磯本宏紀 (2012. 7) 吉野川市山川町における農具市と民具の流通. 阿波学会紀要, (58) : 157-160.

磯本宏紀 (2013. 3) 迎える意味・理由. 「阿波木偶箱廻し」調査・伝承推進委員会編, 「四国における「三番叟まわし」「えびすまわし」調査報告書—地域社会から見た門付け芸能—」, 「阿波木偶箱廻し」調査・伝承推進委員会 : 74-80.

磯本宏紀 (2013. 3) その他の門付けについて. 「阿波木偶箱廻し」調査・伝承推進委員会編, 「四国における「三番叟まわし」「えびすまわし」調査報告書—地域社会から見た門付け芸能—」, 「阿波木偶箱廻し」調査・伝承推進委員会 : 81-90.

磯本宏紀 (2013. 3) 小松島市和田島のえびす舞とそ

の変遷. 徳島地域文化研究, (11) : 41-46.

磯本宏紀 (2013. 3) 「九州五島行き」と漁業根拠地としての玉之浦. 徳島地域文化研究, (11) : 88-95.

磯本宏紀 (2013. 3) 出羽島のカツオ・マグロ漁と機付帆船第壱蛭子丸の航海日誌. 徳島県立博物館研究報告, (23) : 33-50.

〈一般著述〉

庄武憲子 (2012. 7) 藍はなぜ徳島の特産品になったの？ ; うだつの町並みとよく聞くけれど、「うだつ」って何？ ; 宍喰ではなぜ八月に雛祭りをするの？ ; 「遊山箱」って何？ ; 児啼爺は徳島生まれ？ . 須藤茂樹編著, 「徳島県謎解き散歩」, 新人物往来社 : 235-237, 240-241, 242-243, 244-245, 246-248.

庄武憲子 (2012. 9) 第2章第1節町のくらし ; 第4章第4節年中行事. 阿南市史編さん委員会編, 「阿南市史」5, 阿南市教育委員会事務局 : 385-419, 685-652.

庄武憲子 (2012. 12) 正月の門松いろいろ. 徳島県立博物館ニュース (情報ボックス), (89) : 7

庄武憲子 (2013. 3) 四国の三番叟まわし・えびすまわし. 徳島新聞3月7日朝刊.

庄武憲子 (2013. 3) 新刊紹介 大和武生著『阿波人形浄瑠璃物語』. 徳島地域文化研究 (11) : 185-187

磯本宏紀 (2012. 4) 阿波の遠洋漁業. 徳島新聞4月13日夕刊 (こども新聞).

磯本宏紀 (2012. 6) 海女. 徳島新聞6月15日夕刊 (こども新聞).

磯本宏紀 (2012. 6) からさお. 徳島新聞6月29日夕刊 (こども新聞).

磯本宏紀 (2012. 6) 遠洋漁業船の航海日誌. 徳島県立博物館ニュース (館蔵資料), (87) : 6.

磯本宏紀 (2012. 7) 「阿波のいただきさん」ってどんな人？ ; 徳島県に「農村舞台」がたくさんあったのはなぜ？ ; 背の高いお地蔵さんがあるのはなぜ？ . 須藤茂樹編著, 「徳島県謎解き散歩」, 新人物往来社 : 230-231, 232-234, 238-239.

磯本宏紀 (2012. 9) 家族親族, 地縁と組織, 年齢集団. 阿南市史編さん委員会編, 「阿南市史」5, 阿南市教育委員会事務局 : 591-634.

磯本宏紀 (2013. 1) 阿波のひとがた1 : 正月の三番叟まわし. 徳島新聞1月4日朝刊.

磯本宏紀 (2013. 3) 阿波のひとがた3 : ひな祭りと人形. 徳島新聞3月5日朝刊.

磯本宏紀 (2013. 3) 仏の正月. 徳島県立博物館ニュース (情報ボックス), (90) : 5.

磯本宏紀 (2013. 3) 徳島史料ネットでの取り組みに向けて—民俗学からの可能性と課題—. 史窓, (43) :

148-152.

磯本宏紀 (2013. 3) 新刊紹介 橋禎男著『阿波の峠と民俗』. 徳島地域文化研究, (11): 188-190.

磯本宏紀 (2013. 3) 壱ノ瀬の虫送り; 海部川筋盆踊り (盆踊り, 慰霊踊り, 辻踊り); 左義長, 海部郡文化財保護審議委員会編, 「徳島県海部郡無形民俗文化財調査報告書 海部の祭り」と民俗芸能」, 海部郡文化財審議委員会: 35-37, 44-46, 56-58.

●美術工芸

〈一般著述〉

大橋俊雄 (2012. 6) 印籠拝見記-長岡市立科学博物館へ-. 徳島県立博物館ニュース (情報ボックス), (87): 5.

大橋俊雄 (2012. 9) 北村昭斎 瑞鳥唐花文螺鈿箱. 徳島県立博物館ニュース (表紙), (88): 1.

大橋俊雄 (2012. 11) 飯塚桃葉 観松斎 桃枝 桃葉; 稲葉通龍; 格古要論; 香壺箱など19項目. 漆工史学会編, 「漆工辞典」, 角川学芸出版.

大橋俊雄 (2013. 1) 藤重春山. 徳島新聞 1月4日夕刊 (こども新聞).

(3) 学会・研究会等での発表

(*印: 館外研究者)

●動物

Jung, S.*, Balvin, O.*, Yamada, K. & Lee, S.* (2012. 7) Evolution of traumatic insemination in cimicoid true bugs. XXIV International Congress of Entomology (Daegu, Korea).

Jung, S.*, Balvin, O.*, Yamada, K. & Lee, S.* (2012. 7) Evolution of traumatic insemination in cimicoid true bugs (Hemiptera: Heteroptera). XXXI Willi Hennig Meeting, University of California, Riverside (California, USA).

加藤敦史*・山田量崇 (2012. 12) 外来昆虫ヘクソカズラゲンバイの四国における分布拡大. 四国自然史科学研究センター設立10周年記念イベント, シンポジウム「四国の自然は、いま2012」(南国).

加藤敦史*・山田量崇 (2012. 12) 外来昆虫ヘクソカズラゲンバイの四国における分布拡大 (第3報). 日本昆虫学会近畿支部2012年度大会・日本鱗翅学会近畿支部第146回例会 (三田).

佐藤陽一・田代優秋* (2012. 12) カワバタモロコおよび水田域の生態系保全-農業水路におけるカワバタモロコ保全のためのゾーニング手法-. 四国自然史科学研究センター設立10周年記念イベント, シンポジウム「四国の自然は、いま2012」(南国).

●植物

小川 誠 (2012. 4) 徳島県立博物館の標本レスキュー活動. 東日本大震災と自然史系博物館 被災自然史標本の修復技法と博物館救援体制を考える研究集会 (大阪).

小川 誠 (2012. 10) タンポポ調査の報告と課題について. 四国植物研究会 (西条).

西脇重也*・桑原翔太郎*・茨木 靖 (2012. 9) 日本におけるススキ属植物の生育立地について. 植生学会第16回大会 神戸大会 (神戸).

●地学

橋本伸也*・望月伸竜*・小松俊文*・辻野泰之・大野正夫*・渋谷秀敏* (2012. 5) 上部白亜系蝦夷層群羽幌川層の古地磁気層序. 日本地球惑星科学連合2012年大会 (千葉).

辻野泰之・重田康成*・前田晴良* (2012. 9) 徳島県木頭地域の寒谷層より産出した後期三畳紀アンモノイド *Sirenites*. 日本地質学会第119年学術大会 (大阪).

●歴史

長谷川賢二 (2012. 5) 研究のあゆみ; 修験道組織の形成. 修験道史研究会 (東京).

長谷川賢二 (2012. 11) 偽史としての縁起と地域社会. 就実大学吉備地方文化研究所シンポジウム: 瀬戸内海の寺社縁起 (岡山).

●民俗

庄武憲子 (2013. 3) 四国調査の結果発表. 「阿波木偶箱廻し」調査・伝承推進事業報告会 (徳島).

磯本宏紀 (2012. 6) 潜水器漁業と瀬戸内海への伝播. 四国民具研究会 (高松).

磯本宏紀 (2012. 10) 近代出稼ぎ漁民による以西底びき網漁業と技術移動-双方向からみる人と技術の移動-. 日本民俗学会年会分科会 (小金井).

磯本宏紀 (2013. 3) 出羽島のカツオ・マグロ漁と第壱蛭子丸の航海日誌. 生態人類学会研究大会(上勝).

VI 資料の収集・保存と活用

資料の収集と保存は、博物館にとって最も基本的な機能である。当館では開館以来次の4つを基本方針として資料を収集している。

- 1) 徳島の自然と人文に関する資料のすべてを収集の対象とする。
- 2) 地域に根ざしたテーマを設定し、計画的かつ集中的な収集をする。
- 3) 徳島の概要あるいは特性を把握するため、世界を対象とした比較資料の収集をめざす。
- 4) 一次資料のみならず、すべての二次資料をも収集の対象とする。

資料の収集手段としては、採集・購入・寄贈・交換など様々な方法で行っている。学芸員自らが積極的に収集しているほか、最近では、県民や官公庁からの資料の寄贈も増えてきている。

収集した資料は、調査研究、展示や普及教育活動、他の博物館や研究者への貸し出しなどを通じて有効に活用している。

平成24年度は4人（人文2、自然2）の文化推進員の補助を得て、資料の整理作業を進めた。

1. 採集資料

●動物（脊椎動物）	
カワセミ	1点
カワラヒワ	1点
オオクチユゴイ	1点
本沼江谷川産魚類	多数
ニホンカモシカ頭骨	1点
●動物（無脊椎動物）	
タカサゴキララマダニ	1点
県産クモ類	多数
●動物（昆虫）	
県産トンボ類	多数
外洋性ウミアメンボ類	多数
エサキアメンボ	多数
県南部の半翅類	多数
県南部の蛾類	多数
●植物	
県内各地の標本	多数

湿生植物標本	多数
●地学	
水晶	6点
噴砂きりとり標本	1点
降下火山灰	2点
穴内層下部産貝化石	約20点
那賀町小見野々産の三疊紀アンモナイト	2点
宮崎層群産貝化石	多数

2. 購入資料

●歴史	
細川氏・飯尾氏関係資料（飯尾常房筆春日明神縁起ほか）	21点
購入資料合計	21点



購入資料のうち飯尾常房筆春日明神縁起（部分）

3. 寄贈資料

●動物（脊椎動物）		
イノシシ頭骨	1点	大原賢二氏
キツネ写真	1点	中島鳥山氏
クサガメ頭骨	1点	大原賢二氏
アカショウビン	1点	柴折史昭氏
ニホンジカ角	1点	大原賢二氏
徳島県農林事務所環境調査魚類標本	8件	
		徳島県土地改良事業団体連合会
カジカ小卵型	1点	大上 博氏
キジ剥製	1点	ダイドーサッシ

セイルフィンプレコ	1点	中村良英氏	ハネビロエゾトンボ	3点	小笠 航氏
「絶滅!! ニホンカワウソ」DVD			昆虫写真	7点	西村 明氏
	1点	四国放送	オオアカボシウスバシロチョウ	2点	
カジカ小卵型	1点	徳島県土整備局徳島庁舎			日本鱗翅学会四国支部
ヤマシギ	1点	吉成宏征氏	キイロスズメバチ?の巣	1点	篠野邦男氏
平成23年度河川水辺の国勢調査(柳瀬ダム湖)魚類標本	一式	日本工営	剣山系の蛾類	多数	広渡俊哉氏
スジシマドジョウ類タイプ標本	8点	中島 淳氏	徳島県産甲虫類	多数	増田敏雄氏
伊予灘産魚類標本	3箱	清水孝昭氏	●植物		
クマタカ	1点		さく葉標本	183点	オレゴン州立大学 OSC
		徳島県家畜保健衛生所阿南支所	さく葉標本	1点	船越英伸氏
シマヒレヨシノボリほか	2件	高橋弘明氏	さく葉標本	2点	濱 直大氏
カワセミ	1点	岡崎氏	さく葉標本	1点	金井弘夫氏
メジロ	1点	逢坂 登氏	さく葉標本	6点	高知県立牧野植物園
アオサギ	1点	真鍋佳資氏	さく葉標本	37点	高知県立牧野植物園
ニホンジカ頭部	1点	西部総合県民局美馬庁舎	さく葉標本	13点	高知県立牧野植物園
カワウソ毛皮	1点	寄贈者不明	さく葉標本	3点	大原賢二氏
オオトカゲ類剥製	1点	新開小学校	さく葉標本	多数	田淵武樹氏
サケ干物	2点	札幌市豊平川さけ科学館	さく葉標本	3点	久米 修氏
ニホンジカ♀	1点	西部総合県民局美馬庁舎	さく葉標本	2点	吉田 修氏
スナヤツメ	1点	田代優秋氏	さく葉標本	2点	Kyeong-In Heo 氏
オオウナギ	1点	モラスコむぎ	さく葉標本	76点	北海道大学SAPS
伯方島産魚類標本	1式	辻 幸一氏	さく葉標本	120点	福井県立総合植物園FUK
平成24年度那賀川農地防災事業魚類調査標本	1式	ウエスコ	さく葉標本	3点	片山泰雄氏
			さく葉標本	多数	木下 覺氏
●動物(無脊椎動物)			さく葉標本	1点	中村喜代治氏
ヤイロチョウを寄主とする線虫 <i>Strongyloides</i> sp.	1点	浅川満彦氏	さく葉標本	167点	富山市科学博物館(太田道人氏)
オウムガイ	1点	吉田一郎氏	さく葉標本	3点	山本幸男・三島ヒサ子氏
フトウデカギカニムシ	1点	友行幸一氏	●地学		
ウミボタル	30点	中尾賢一氏	層状含銅硫化鉄鉱	1点	阿部 肇氏
アナナムシオイガイ(パラタイプ)	3点	松田春菜氏	ルチルを含むエクロジャイト	2点	阿部 肇氏
フタトゲチマダニ	1点	遠藤正美氏	北海道産の魚類化石	1点	平島 昭氏
●動物(昆虫)			南極の石	1点	徳島県秘書課
コツバメ・スギタニルリシジミ	7点	三好康彦氏	ザルボウ?化石	4点	天野和孝氏
ツバメシジミ・ツマキチョウ・キタキチョウ	3点	三好康彦氏	岩石・鉱物標本	9点	谷口 徹氏
コガタウミアメンボ♀成虫・幼虫	2点	濱 直大氏	北海道産中新世(?)貝化石	2点	平島 昭氏
ヒラズゲンセイ♂	1点	大上琢也氏	鳴門海峡海底産ナウマンゾウ化石	4点	八木忠弘氏
平成11年度・16年度那賀川水系河川水辺の国勢調査(陸上昆虫類)報告書	2点		辰砂の最脈をともなう方解石	1点	阿部 肇氏
		四電技術コンサルタント	鳴門海峡海底産トウキョウホタテ	2点	八木忠弘氏
コガタウミアメンボ	多数	濱 直大氏	穴内層産貝化石	15点	三本健二氏
			南極の石	1点	徳島県立農林水産総合技術支援センター

試験研究部森林林業研究所		
那賀町小見野々産の三畳紀アンモナイト	3点	
前田晴良氏、楠橋直氏、小松俊文氏		
高越山産石英片岩	1点	阿部 肇氏
高越山産岩石・鉱物標本	2点	阿部 肇氏
藍閃石片岩	1点	阿部 肇氏
青森県尾太産菱マンガン鉱	1点	井筒智史氏
緑簾石	1点	阿部 肇氏
●考古		
マダコ壺	2点	幸田秀征氏
●歴史		
納経帳	1点	田中泰平氏
黒住教関係資料ほか	35点	織原英文氏
日中戦争関係資料	220点	永瀬タメコ氏
笠井新也遺稿・旧蔵書等	121点	笠井倭人氏
保健教育等映像フィルム	46点	徳島保健所
板碑拓本	2点	竹條教悟氏
日本陸軍認識票	1点	江川佳秀氏
●民俗		
祭礼用馬具及び衣装	110点	貝出 昭氏
船大工道具資料	253点	鎌田道子氏
レコードケースおよびレコード	14点	辻 保雄氏
札箱ほか	12点	安丸徳広氏
炬燵	1点	松本 修氏
幟	1点	吹田 僚氏
プリント写真	18点	藤本良輔氏
遊山箱ほか	8点	日野宏一郎氏
竿秤、タモ網、魚籠、索道用滑車、クリッパー（索道用）	8点	宇坂正子氏
手箕、ふご	3点	桂 治氏
林業関係資料	75点	
徳島県立農林水産総合技術支援センター		
試験研究部森林林業研究所		
船員手帳、写真（以西底曳き網漁業関係）	27点	濱崎禎幸氏
写真（阿波踊り長崎すだち連、第2蛭子丸進水式）	3点	谷 宏氏
潜水服	1点	新宮三朗氏
もっこ、柳行李、木馬、畦切り	5点	
徳島県立農林水産総合技術支援センター		
教育研修部農業大学校		
炭俵（炭入り）、藍切り鉈	2点	
徳島県立農林水産総合技術支援センター		
教育研修部農業大学校		
●美術工芸		
紺糸威二枚胴具足	六十二間小星兜付	

	1点	結城聖子氏
田ノ浦真景図額・三原真景図額（阿波国文庫印あり）		
	2点	戸田初美氏
南州書めぐり・南翠書めぐり		
	4点	後藤貴美子氏
短刀 刀身銘阿州海部住氏吉		
	1点	福島地方検察庁
短刀 銘阿州住吉川源祐芳作		
	1点	福原和久氏

4. 寄託資料

平成24年度末現在で寄託されている資料は67件ある。24年度に新たに寄託された資料は次のとおり。

●歴史		
都郷鐸堂掛軸	1点	泓 恒氏
●美術工芸		
清原貫魚落款 花売図・葛橋図ほか	12点	後藤貴美子氏

5. 資料の貸し出し

実物、レプリカ、および模型などの貸し出し資料。学校への資料の貸し出しは「学校教育支援事業」の中（p. 21）に記載した。

●動物		
森井コレクション（コウモリ剥製類）	24点	
		四国自然史科学研究センター
ニホンカモシカ頭骨ほか	4点	
		西岡英樹氏（西部総合県民局美馬庁舎）
シマドジョウ類標本	3点	
		中島 淳氏（福岡県保健環境研究所）
クルマガサ	4点	横川浩治氏
ミドリシャミセンガイ	1点	
		吉松定昭氏（香川県赤潮研究所）
●地学		
チェンジャン動物群などの化石標本	62点	三笠市立博物館
徳島県産イグアノドンの歯（複製）などの化石標本	23点	愛媛県総合科学博物館
ベレムナイト化石ほか	4点	
		伊庭靖弘氏（北海道教育大学）
新生代貝類類化石	75点	栗原行人氏（三重大学）
和泉層群産 <i>Solenoceras</i> 属アンモナイトの標本	9点	重田康成氏（国立科学博物館）

●考古

天川別神社5号墳出土斜縁二神二獣鏡ほか
9点 徳島市立考古資料館
廿枝遺跡出土ナイフ型石器ほか
20点 海陽町立博物館

●歴史

大象大津ゑぶしほか 4点 徳島市立徳島城博物館
徳島空襲被災遺物ほか 3点 徳島県立文書館
徳島空襲被災遺物ほか 2点 徳島県立文書館
徳島空襲被災遺物ほか 10点 株式会社国際
豊臣秀吉朱印状 2点 徳島市立徳島城博物館
徳島空襲被災遺物ほか 3点 徳島県立文書館

6. 写真・映像の提供

フィルムなど媒体の貸し出しおよびデジタルデータの提供。

●動物

ニホンオオカミ・カワウソ画像
2点 岐阜県博物館
ニホンカモシカ・ツキノワグマ画像 2点
西岡英樹氏(西部総合県民局美馬庁舎)
阿部近一氏の画像 1点 多田 昭氏

●地学

ティラノサウルス全身骨格(レプリカ)の写真など
7点 制作会社たまゆら
キンバーライト中のダイヤモンドの写真など
10点 株式会社第一学習社
愛媛県四国中央市関川産鉄鑿ざくろ石の写真など
2点 株式会社第一学習社
ティラノサウルス全身骨格(レプリカ)の写真
1点 徳島市企画政策課

●考古

名西郡神山町岩鍋出土石棒写真 1点 林博章氏
南庄遺跡の人びとのくらしのようす(想像復元図)
1点 徳島市立考古資料館
高川原遺跡出土銅鐸型土製品写真
1点 徳島市立考古資料館
若杉山遺跡出土遺物写真 1点 文化庁記念物課
廿枝遺跡出土ナイフ型石器写真ほか
20点 海陽町立博物館
曾我氏神社1号墳第2主体粘土床検出状況写真
1点 栗林誠治氏

●歴史

七十一番職人歌合写真(翹売り)
1点 月刊ぶらざ編集室

化もの絵巻写真 13点 有限会社三猿舎
化もの絵巻写真 13点
とくしま“あい”らんど推進協議会
徳島城模型写真ほか 2点
ケアハウス健祥会アムス
徳島大空襲被災状況写真 10点
株式会社NHKグローバルメディアサービス
三十二番職人歌合絵巻写真(鉢たたき・胸たたき)
1点 株式会社おうふう
阿波国大絵図写真 1点
徳島県立総合教育センター
七十一番職人歌合写真(大原女・鍛冶・番匠)
3点 学校法人河合塾
「解放令」布達文書写真 1点
徳島県中学校人権教育研究会
七十一番職人歌合写真(鍛冶)
1点 学校法人河合塾
三好長慶錦絵写真 1点
株式会社学研パブリッシング

●民俗

太布織用具写真 3点
勝山市観光政策課(はたや記念館ゆめおーれ勝山)
荒テグスほか映像 7点 株式会社ネクサス
山村の食膳レプリカ写真 3点
株式会社エディキューブ
信玄袋写真 1点 横瀬小学校
三番叟まわし用具写真 1点
四国ビジネス株式会社
人形頭ほか写真 5点 財団法人千里文化財団
人形浄瑠璃辻ビラほか写真 5点 中西英夫氏

●美術工芸

吉成葎亭筆 阿波盆踊図屏風写真
4点 ケーブルテレビ徳島株式会社
小野小町姫一世記写真 1点 三笠市立博物館
須木一胤筆 旧徳島城図写真 1点
徳島県シルバー大学校徳島校OB会
吉成葎亭筆 阿波盆踊図屏風写真 1点
阿波おどり振興協会
須木一胤筆 旧徳島城図写真 1点
株式会社エフエムびざん

7. 資料の提供

さく葉標本 110点 オレゴン州立大学 OSC
さく葉標本 67点 北海道大学 SAPS
さく葉標本 35点 福島大学 FUKU

●分野別収蔵資料数（平成25年3月31日現在）

分野	点数	内 訳			
		実物	レプリカ	模型・模写	文献
動物（脊椎）	23,965	23,891	55	13	6
（無脊椎）	38,522	38,456	0	58	8
（昆虫）	189,653	189,234	0	7	412
植 物	192,086	191,735	282	61	8
地 学	9,184	9,079	103	2	0
考 古	7,267	7,122	73	13	59
歴 史	11,703	10,915	26	4	758
民 俗	14,099	14,089	5	5	0
美術工芸	9,805	9,796	0	4	5
合 計	496,284	494,317	544	167	1,256

さく葉標本	149点	東北大学	TUS
さく葉標本	38点	福井県立総合植物園	FUK
さく葉標本	74点	ソウル大学	SNUA

8. 資料の交換

研究や展示、普及といった様々な活動に活用するために国内外の標本館と標本交換を行っている。標本交換とは、徳島県内などで採集した標本を他の地域の大学・博物館などとの間で交換することである。

植物標本について、現在、東北大学、北海道大学、福島大学など国内の研究機関の他、オレゴン州立大学、ソウル大学と定期的な標本交換を行っている（本章の「3. 寄贈資料」および「7. 資料の提供」を参照）。

また、地学標本について、平成24年度に北海道のむかわ町立穂別博物館と標本交換を行った。穂別博物館より当館に対して、標本交換の依頼があったもので、当館所蔵のコダイアマモと穂別博物館の大型アンモナイトのユーパキディスタスを交換した。

9. 館蔵資料数

平成25年3月末日現在の分野別収蔵資料数は上表のとおり。

収蔵資料については、整理、標本作製等が終わったものから順次コンピュータ入力し、資料データベースを作成している。

10. 資料収集委員会

本委員会は、博物館が収蔵する資料の適正な購入を図るために購入予定資料（予定価格100万円以上）について審査する目的で設置されている。

委員は、対象となる資料に応じてその都度5人以内を教育長が委嘱する。

平成24年度は、12月19日に3人を委嘱し、第18回委員会を開催し、本章の「2. 購入資料」に記した資料1件について諮問した。

●第18回博物館資料収集委員会委員

氏名	役職（専門分野）
大石雅章 （委員長）	鳴門教育大学副学長・大学院学校教育研究科教授（中世史）
衣川 仁 （副委員長）	徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部准教授（中世史）
町田 哲	鳴門教育大学大学院学校教育研究科准教授（近世史）

11. 文献資料の収集

文献資料から得られる情報は、調査研究はもちろん、展示や普及教育などの博物館活動全般にわたるレベルアップをはかる上で不可欠である。当館では、人文・自然史分野の専門書や学会誌のほか、徳島県を中心とした地方史誌類や普及教育用図書も収集している。また、内外の博物館等の研究報告・年報・展示解説書等も交換により収集している。

●図書冊数（データベース登録数による）

13,314冊（うち平成24年度分 寄贈図書56冊、購入図書176冊）

●購入雑誌

自然史系（14タイトル）：生物科学、科学、海洋と生物、月刊海洋、遺伝、月刊むし、昆虫と自然、地学雑誌、Cladistics, Trends in Ecology and Evolution, American Journal of Botany, Systematic Botany, Journal of Paleontology, Lethaia

人文系（26タイトル）：美術研究、美術史、佛教芸術、地方史研究、地理、芸能史研究、月刊考古学ジャーナル、月刊文化財、月刊文化財発掘出土情報、季刊考古学、古代文化、古代学研究、国華、古文書研究、考古学研究、考古学雑誌、九州考古学、文化人類学、日本歴史、歴史学研究、歴史評論、歴史と地理、史林、史学雑誌、民具研究、人文地理

その他（2タイトル）：博物館研究、ミューゼ

●当館刊行物の定期発送先（平成25年3月末現在）

博物館ニュース	1,211ヶ所
博物館年報	336ヶ所
研究報告（国内）	391ヶ所
（国外）	72ヶ所
展示解説	96ヶ所
企画展図録（自然）	121ヶ所
（人文）	198ヶ所

12. 資料の保存

(1) 資料の燻蒸

害虫やカビは資料を劣化させる原因となる。そこで収集した資料や貸し出し後返却された資料は、収蔵庫への搬入や展示に先だって、原則としてすべて燻蒸を行う必要がある。当館では資料の形態や量などによって、次の①～③の3種類の燻蒸を行って来た。

①減圧燻蒸装置による燻蒸

小型資料の燻蒸は、資料の受け入れの都度、担当学芸員が減圧燻蒸装置を使って行う。減圧燻蒸装置の有効内寸は、縦130cm×横120cm×奥行140cm（約2.3³m）である。平成17年1月からは酸化エチレン製剤を使用している。

24年度は、減圧燻蒸装置による燻蒸を行わなかった。

②常圧燻蒸庫での燻蒸

減圧燻蒸装置に入れることができない大型の資料は、一時保管庫（24時間空調）に仮収蔵し、資料が適当な量になった時点で常圧燻蒸庫で燻蒸する。

常圧燻蒸庫は床面積20²m²×高さ3m（約60³m³）であ

り、燻蒸は文化財専門の燻蒸業者に委託している。17年1月からは酸化エチレン製剤を使用している。

24年度は、常圧燻蒸庫での燻蒸を2回行った。

③収蔵庫の全室密閉燻蒸

収蔵庫への出入りなどにもなると、害虫やカビなど資料の保存に悪影響を与えるものが侵入することがある。そのために、原則として3年に1回、専門業者に委託して収蔵庫の全室密閉燻蒸を行っている。

今回は、23年度に生物収蔵庫、歴史民俗収蔵庫（特別収蔵庫1・2、馴化室を含む）において、酸化エチレン製剤の燻蒸剤を使用した全室密閉燻蒸を行ったため、24年度は行っていない。次回の実施は26年度の前年度である。

(2) 常設展示室における害虫の発生と対策

常設展示室は、収蔵庫のような密閉可能な空間でないため、害虫の侵入を防ぐことができず、また、展示室全体の燻蒸が不可能である。実際これまでも、害虫の発生が確認されている。

23年度に部門展示室のケース内の一部で害虫の発生が確認されたが、24年度は確認されていない。今後、再び確認された場合、当該資料を燻蒸した後、ケース内に比較的毒性の低い忌避剤等を設置するなどの処理を施す予定である。引き続き経過を観察したい。

(3) 収蔵庫の点検

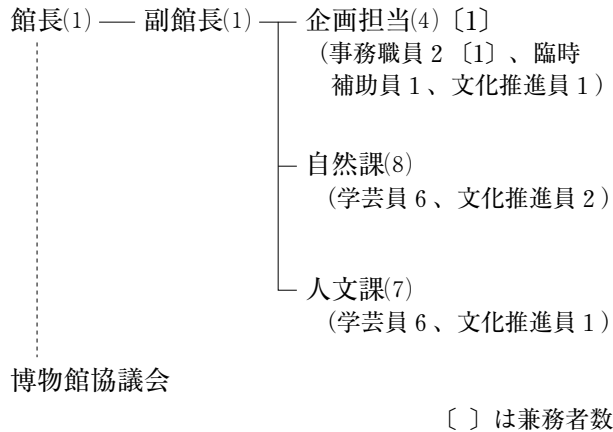
収蔵庫を日常的に点検することは、燻蒸とともに資料の安全な保存管理のひとつである。害虫の発生や侵入を事前に或いは早期に発見・防除できるだけでなく、収蔵スペースの確保、耐震対策にもつながり、収蔵庫の適正な管理が可能となる。24年度は新たに収蔵庫定期点検表を作成し、25年1月から各収蔵庫の点検を開始した。点検項目は15個からなり、月に1回程度実施するようにしている。

なお、24年度は収蔵庫の耐震対策についても検討を進め、一部実施した。具体的な実施は次年度以降に計画している。

VII 管理運営・マネジメント

1. 組織・職員

(1) 組織図（平成25年4月1日現在）



(2) 職員名簿（平成25年4月1日現在）

- 館長 高島 芳弘
- 副館長 美保 洋祐
- 〈企画担当〉
 - 課長補佐 三好 康彦
 - 主任 松岡 功
 - 主任 高田 文子（二十一世紀館主任本務）
 - 臨時補助員 立石 幸代
 - 文化推進員 小原明日香
- 〈自然課〉
 - 課長 佐藤 陽一（動物）
 - 上席学芸員 小川 誠（植物）
 - 〃 中尾 賢一（地学）
 - 主任 茨木 靖（植物）
 - 〃 辻野 泰之（地学）
 - 〃 山田 量崇（動物）
 - 文化推進員 和田 望
 - 〃 平野由美子
- 〈人文課〉
 - 課長 長谷川賢二（歴史）
 - 上席学芸員 大橋 俊雄（美術工芸）
 - 専門学芸員 庄武 憲子（民俗）
 - 主任 磯本 宏紀（民俗）
 - 主任学芸員 松永 友和（歴史）
 - 学芸員 岡本 治代（考古）

文化推進員 植松瑞穂子

(3) 人事異動

- 〈平成24年10月1日付〉
 - 新採：岡本 治代・学芸員
- 〈平成25年3月31日付〉
 - 兼務解除：小川 誠・二十一世紀館文化の森企画広報室
- 〈平成25年4月1日付、転入者のカッコ内は前職〉
 - 転出：板東 敏之・副館長、西部総合県民局保健福祉環境部〈三好〉副部長へ
 - 転入：美保 洋祐・副館長（人事課副課長）
 - 兼務：高島 芳弘・教育委員会文化の森振興本部部長（博物館・鳥居龍蔵記念博物館担当）
 - 美保 洋祐・教育委員会文化の森振興本部部長（博物館・鳥居龍蔵記念博物館担当）
 - 三好 康彦・二十一世紀館文化の森企画広報室

(4) 平成24年度非常勤・臨時職員

- 臨時補助員
 - 立岩 和喜（平成24.4.1～25.3.31）
- 文化推進員（非常勤特別職）
 - 片山 康子（平成22.4.1～24.11.30）
 - 松本稚代子（平成24.4.1～25.3.31）
 - 植松瑞穂子（平成24.4.1～）
 - 小原明日香（平成24.4.1～）
 - 和田 望（平成24.4.1～）
 - 平野由美子（平成24.12.1～）

2. 予算

2月現計予算額（2月補正後の予算額）を下に示す。

●平成24年度博物館費（2月現計予算額）(単位：千円)	
予算総額	35,360
管理運営	13,011
展覧事業	9,681
調査研究	3,110
普及教育	2,114

3. 観覧料減免の拡大

高齢者（65歳以上）や障がい者へのサービス向上が図られることになり、平成24年9月1日から、高齢者の常設展観覧料が無料、企画展観覧料が一般料金の半額となり、障がい者と介助者1名は常設展・企画展ともに観覧料が無料となった。

なお、これまで運営状況や社会環境の変化などに対応して、次のとおり観覧料の減免が拡大されてきたので、参考のために記しておく。

- ・平成4年度 高校生以下に対する第2土曜日の常設展観覧料無料化
- ・7年度 高校生以下に対する第4土曜日の常設展観覧料無料化
- ・8年度 祝・休日の常設展観覧料の無料化
- ・14年度 高校生以下に対する土・日曜日、祝・休日、長期休業日の常設展・企画展観覧料の無料化、学校教育の一環としての企画展観覧の無料化

4. 文化の森の連携事業

県民目線の運営（利便性の強化）、新たな運営スタイルを構築するための連携の強化、時代の変化に対応した館運営と職員意識の涵養など、文化の森の課題に対応するため、24年度、二十一世紀館に文化の森企画広報室が新設された。各館から職員1名ずつが同室職員を兼務し（当館は小川上席学芸員）、定期的な会議を通じて文化の森の連携と企画・広報の推進が図られることになった。新たに取り組みされた内容は、次のようなものであった。

①「文化の森サマーフェスティバル」の開催（8月19日）

開園20周年（22年度）以来、夏期の全館共同イベントがなかったが、24年度からサマーフェスティバルを開催することになった。当館では、「化石や考古遺物のミニチュアをつくろう」などの催し物を行った。

②25年度共同事業予算案の検討

25年度当初予算要求にあたり、共同事業として「もっと文化の森事業－国文祭を引き継ぎ、芸術文化を発展させる文化の森づくり－」を立案した。

③ドイツ・ニーダーザクセン州との交流事業

徳島県が交流を持っているドイツのニーダーザクセン州との交流事業について検討した。博物館からは地学担当学芸員が訪独し、化石資料を集める事を提案したが、美術館学芸員の交流案が採用された。

④国民文化祭関連特別協賛事業の検討

「第27回国民文化祭・とくしま2012」の特別協賛事業について検討した。当館では、企画展「『日本の技と美』展－重要無形文化財とそれを支える人々－」を主たる事業として位置づけたほか、「【発見！阿波】歴史散歩&野外自然かんさつ」（計8行事）を開催することとした。

⑤文化の森の貸し出し施設の拡充

県民に文化の森の施設を文化活動の場として利用してもらうために、貸し出し施設の拡充の検討を行った。当館では、講座室を貸し出しに充てることとなり、条例・規則等の改正や手続きの整備を行い、25年4月から貸し出しを開始した。

5. 防災及び危機管理

(1) 危機管理体制

文化の森3館棟で消防防災計画を立て、二十一世紀館、博物館、近代美術館、鳥居龍蔵記念博物館と文化の森の警備、設備、食堂等の業者で自衛消防隊を組織し、訓練を行って非常時に備えている。

(2) 防災訓練

11月20日、二十一世紀館を中心とした自衛消防隊による防火防災訓練を行った。訓練実施時間を開館時間帯に設定することで、実践性を高めるよう工夫した。

6. 博物館協議会

博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関で、博物館法及び徳島県文化の森総合公園文化施設条例の規定に基づき設置されている。

24年度は協議会を1回開催した。

●24年度博物館協議会

日時：平成24年8月28日（火）

13：30～16：10

会場：博物館講座室

議事

- (1)平成23年度事業の実施状況について
- (2)平成24年度事業計画について
- (3)その他

●徳島県立博物館協議会委員名簿

(平成25年3月31日現在)

区分	氏名	役職等
学校教育	下川 純代	県小学校教育研究会理科部会理事 (白地小学校長)
	三木 宏亮	県中学校社会科教育研究会会長 (池田中学校長)
	山下 知之	県高等学校教育研究会地歴学会副会長 (新野高等学校教頭)
社会教育	松下 師一	松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館館長補佐兼主任学芸員
	町田 哲 (副会長)	鳴門教育大学大学院准教授
学識経験	玉有 繁 (会長)	徳島文理大学教授
	野水 祥子	青年海外協力協会会員
	佐藤 陽香	徳島新聞社編集局文化部記者
家庭教育	松島真由美	八万中学校PTA本部役員
	嶋田由紀子	徳島県立博物館イベントボランティア

3月19日 第21回標本情報の発信に関する研究会（国立科学博物館・西日本自然史系博物館ネットワーク）

小川 誠

8. 視察等博物館関係来訪者

5月30日 足利市立美術館 大沢伸啓氏
 8月2日 人間文化研究機構 小野正敏氏ほか17名
 7月21日 文化庁文化財部美術学芸課 和田一之輔氏
 7月21日 教育コーディネーター 松本朱実氏
 8月17日 馬の博物館 長塚 孝氏
 9月1日 文部科学副大臣高井美穂氏、文化庁文化部長大木高仁氏
 9月28日 群馬県立女子大学 熊倉浩靖氏
 10月18日 山梨県立美術館 井澤英理子氏
 10月19日 東京学芸大学 藤井健志氏
 12月9日 日本考古学史・人類学史研究所 守屋幸一氏
 2月7日 北海道大学アイヌ・先住民研究センター 佐々木利和氏ほか3名
 2月27日 国立科学博物館 小川義和氏、久保晃一氏

7. 各種研修会への参加

当館に事務局を置く徳島県博物館協議会の総会・研修会のほかに、次のような研修会等に職員を派遣し、博物館職員としての意識改革と資質の向上に努めた。月日、研修会等名称（主催者。名称に主催者名が含まれている場合は省略）、氏名の順に記す。

9月15日 「歴史資料保全ネットワーク・徳島」設立集会及びワークショップ

長谷川賢二・松永友和

1月17日 保存科学研究集会2012(奈良文化財研究所)
岡本治代

2月22日 平成24年度アーキビスト専門職問題セミナー（全国歴史資料保存利用機関連絡協議会調査・研究委員会）

長谷川賢二

3月2～3日 第17回中・四国九州保存修復研究会
岡本治代

3月17日 第9回四国ミュージアム研究会「資料を守るネットワーク」

佐藤陽一

VIII 中期活動目標と自己評価

1. 中期活動目標（平成21年9月18日策定）

近年、生涯学習社会の進展など、博物館をとりまく状況は急速に変化してきている。これまでの資料の収集・保存や調査研究、展覧、普及教育などの事業に加えて、学校教育の支援や社会貢献、博物館活動への県民参画など、新たな課題への取り組みが求められるようになってきた。その一方で財政状況悪化による運営予算の削減、事業評価、および公的施設の運営の見直しなども進められるようになってきた。

こうした状況の変化を踏まえ、徳島県立博物館では平成16～20年度の5年間に推進すべき活動の目標を、第1期中期活動目標（以下、第1期目標）として定め、点検・評価をおこないながら事業の改善と活性化をはかってきた。平成20年度をもって第1期目標の期間が終了したことから、これまでの成果を踏まえながら第2期目標（平成21～25年度）を策定した。

(1) 第1期中期活動目標の総括

第1期目標にもとづいて活動を進めたことにより、事業の目標が明確に可視化され、達成度が客観的に示され、経年的な傾向から将来を予測できるようになった。さらに、それらのデータを考察することで課題や問題点が明らかにされるようになり、このような情報の共有が館員の意識改革を促すきっかけとなった。そして、利用者にとって満足度の高いサービスを提供できるよう努めてきた。

このように、第1期目標には博物館活動の改善・活性化に一定の成果があったと考えられ、その成果は年報第14～18号において公表した。

(2) 第2期中期活動目標の策定の経緯と目的

第1期目標にもとづく活動が終わる平成20年度、博物館法の一部が改正され（平成20年6月）、運営状況の評価と運営の改善に必要な措置を講ずるための努力義務が盛りこまれた。これを踏まえ、よりよいものとするよう次の第2期目標の策定に向けて検討を進めた。その中で、第1期目標では、博物館の事業が県民にとってどのような意義があるのか、わかりやすく示されていなかったのではないかと考え、「県民とともに」を基調として、博物館の使命（存在意義や役割）をわかりやすい形で示したうえで、個々の事業やその目標、評価指標を位置づけることにした。これにより博物館の事業全体を見渡せるようになり、個々の事業の意義や目標、評価指標の理解も容易になるのではないかと考えた。

(3) 徳島県立博物館の使命 ※p. 2 参照

徳島の自然・歴史・文化の宝箱 ―県民とともに成長する博物館―

徳島県立博物館は、徳島の自然や歴史、文化についての資料・情報にもとづく学びの場として、県民のみなさんとともに成長していきます。

「知」知と出会う博物館

博物館は、徳島の自然・歴史・文化についての情報を発信し、県民のみなさんとともに楽しく学ぶ場を創ります。

「探」地域の魅力を探る博物館

博物館は、徳島の自然・歴史・文化について県民のみなさんとともに調べ、地域の魅力を見つけます。

「伝」未来にまもり伝える博物館

博物館は、徳島の自然・歴史・文化についての資料を県民のみなさんとともに集め、「みんなの宝」としてまもり、未来に伝えます。

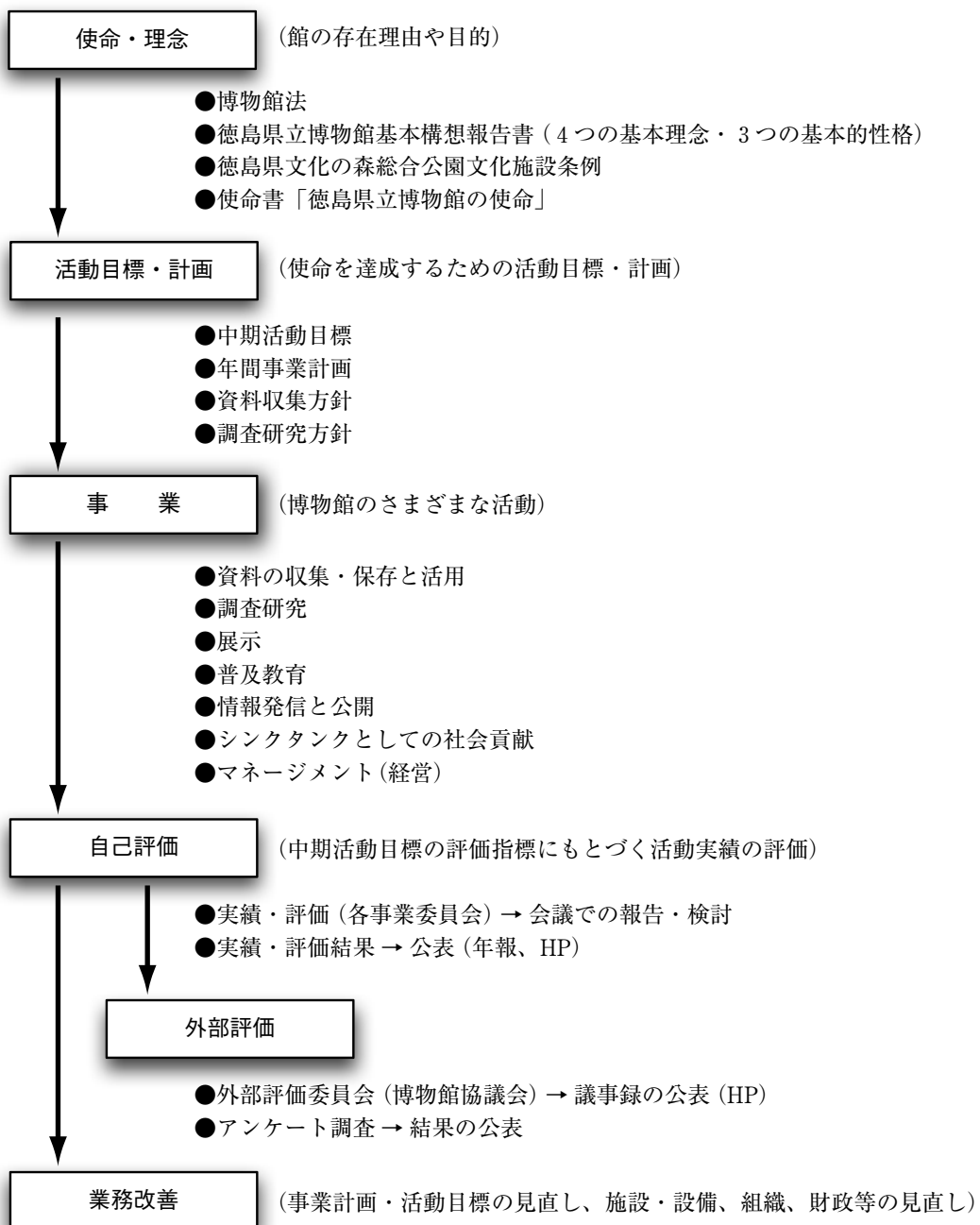
博物館では、効率的な運営を心がけながら、以上の使命を実現するために努力していきます。

(4) 第2期中期活動目標の推進方法

中期活動目標とは、使命を実現するために、今後5年間（平成21～25年度）の活動目標を事業ごとに定め、年度ごとに評価を行うとともに、事業改善につなげていくためのものである。その推進にあたっては次の点に留意する。

- ・中期活動目標は、博物館協議会に諮ったうえで公表する。
- ・それぞれの活動目標にもとづき、年度計画を立てて活動を推進する。
- ・年度末には活動実績の評価を行い、その結果を年報やホームページに掲載するとともに、次年度以降の活動計画に反映させる。
- ・活動実績及び評価の結果について博物館協議会で議論していただき、外部評価意見としてホームページに記載するとともに、出された意見を次年度以降の活動の改善に役立てる。
- ・活動目標と評価指標・目標値については毎年度見直しを行い、必要があればより適切な形に改める。

中期活動目標の推進手順



(5) 事業別の中期活動目標と評価指標

徳島県立博物館の使命を実現するためにおこなう事業は、次のとおり。

- ・「知」知と出会う博物館：展示、普及教育、情報の発信と公開、およびシンクタンクとしての社会貢献
- ・「探」地域の魅力を探る博物館：調査研究
- ・「伝」未来にまもり伝える博物館：資料の収集・保存と活用
- ・効率的な運営：マネジメント（経営）

以下では、事業ごとに中期活動目標の項目、評価指標、および目標値を示す。

①展示

県民のみなさんが楽しく学べ、新しい発見や家族のふれあいのきっかけとなる場を創り出します。実物資料や最新の情報に基づき、徳島及び関連する地域をはじめ世界の自然や歴史、文化について幅広く展示します。（使命：「知」知と出会う博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
1-1 常設展の改善・充実	新しい資料の追加、研究成果の反映、展示技法の改善などにより、常設展の改善・充実を図ります。	常設展観覧者数	年間の総観覧者数	40,000人/年	
		観覧者のリピーター率	過去1年以内の利用経験者の占める割合	40%	
		観覧者の満足度 新たな知識	アンケートにおいて新たな知識や発見・興味を得た観覧者の割合	70%	
		他人への推薦	アンケートにおいて他人に見学を勧めたいと考える観覧者の割合	70%	
		展示改善の実施状況	定期的に展示替えるコーナーを除く		
1-2 魅力ある企画展の計画的開催	収蔵資料の特色や調査研究成果を活かすとともに、県民のニーズを反映しながら、多様なテーマの企画展を計画的に開催します。	企画展観覧者数	1回あたりの観覧者数	自然7,000人 人文3,500人	
		観覧者の満足度 新たな知識	アンケートにおいて新たな知識や発見・興味を得た観覧者の割合	80%/回	
		他人への推薦	アンケートにおいて他人に見学を勧めたいと考える観覧者の割合	80%/回	
		社会的評価	マスコミによる取材・報道数	5社/回	徳・朝・毎・読・N・四
		企画展の検討状況			
1-3 多様な展示の開催促進	企画展以外に特別陳列、部門展示等の多様な展示の開催を進めます。	特別陳列等の開催回数	企画展以外の主催展示の取り組み回数	5回 (特1・部4)	常設展ロビーにおける資料紹介などの実績があれば算入する
		特別陳列観覧者数	1日あたりの観覧者数	200人	開催日数の長短の差が大きいため
		観覧者の満足度 新たな知識	アンケートにおいて新たな知識や発見・興味を得た観覧者の割合	80%/回	特別陳列のみ
		他人への推薦	アンケートにおいて他人に見学を勧めたいと考える観覧者の割合	80%/回	特別陳列のみ
		社会的評価	マスコミによる取材・報道数	5社/回	徳・朝・毎・読・N・四
		特別陳列等の検討状況			
1-4 他機関との共同展示等の促進	文化の森内での共催展、館外での移動展、パッケージ展示の貸出等により、各種の展示を促進するとともに、県内の博物館施設を支援します。	文化の森内での共催展の開催回数	博物館占有スペース以外を利用し、当館の関わりが補助的なもの	1回/年	
		移動展等館外での展示の開催回数	文化の森外の博物館等において当館を主催者または協力者等を含む展示の開催回数	2回/年	「パッケージ展示の貸出数」を「移動展等館外での展示の開催回数」に含めて表記することとした（平成23年10月修正）。
1-5 展示解説等の推進	図録や解説書の発行、学芸員や受付案内員による展示解説等により、観覧者が展示を理解し楽しめるよう手助けします。	図録等の発行状況	年間の刊行件数		
		展示解説等の実施状況	展示の理解を支援する各種の活動の実施状況		
1-6 県民などとの協働による展示の推進	県民などの力を借りて、より魅力ある展示を目指します。	協働の実施状況			
1-7 常設展のリニューアルに向けての取り組みの推進	将来の常設展の全面リニューアルを目標に、館内での検討を進めるとともに、関係方面の理解が得られるよう努力を継続します。また、全面リニューアルの実現までの間、展示替えに努めます。	リニューアルに向けての進捗状況	リニューアルに向けての協議や施設調査等の取り組み		

②普及教育

徳島の自然や歴史、文化について体験したり、楽しく学ぶことができる多様な学習機会を提供することにより、学校教育や県民の生涯学習を支援します。(使命：「知」知と出会う博物館)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考	
2-1 県民のニーズを反映した多様な催しの開催	県民のニーズに対応した多様な普及行事を企画し、多様な学習機会を提供します。また、移動講座等のアウトリーチ活動にも積極的に取り組みます。	普及行事実施回数	事後アンケートにおける満足回答者の割合	70回/年		
		普及行事参加者数		3,000人/年		
2-2 学校教育支援事業の推進	学校への資料貸出や出前授業、また博物館での授業や教員研修、職場体験、遠足等を受け入れ、学校教育を支援します。	参加者の満足度	他館との共催による普及行事（展示を除く）	満足した者の割合80%	移動展の展示解説1件も1回とする	
		アウトリーチ活動数		5回/年		
2-3 普及的記事の執筆推進	身近な自然や歴史、文化に関する理解を手助けするため、ガイドブックの出版や、新聞・雑誌等への解説記事の執筆を進めます。	支事業案内パンフレット配布状況	出前授業等実施後の満足度	県内全教員(小・中・高)	80%	
		出前授業件数		15件/年		
		資料貸出件数		資料貸出10件/年		
		館での授業件数				
		教員研修件数				
		職場体験件数				
		遠足件数				
2-4 友の会活動の充実と活性化	友の会の指導・育成に努めるとともに、自主的な活動を支援し、友の会活動の充実、活性化を図ります。	ガイドブック出版状況	友の会(個人・家族)の会員総数	1冊/年	括弧内に参加者数を並記	
		普及的記事の執筆数		年報「調査研究事業」本文に掲載されている一般著述数		40件/年
		博物館ニュース発行回数				4回/年
		友の会会員数		友の会(個人・家族)の会員総数		400人/年
2-5 県民参画型活動の推進	県民参画による行事や県民による普及行事支援等の活動を推進します。	個人会員	当該年度会員に占める前年度会員の割合	前年度会員の70%		
		家族会員				
		会員の継続率				
		個人会員				
		家族会員				
		友の会行事実施回数				6回/年
		展示利用率		観覧者として入館した会員の割合		50%
		個人会員				
		家族会員				
		延べ利用者数		観覧者として入館した会員の延べ人数		会員数
2-5 県民参画型活動の推進	県民参画による行事や県民による普及行事支援等の活動を推進します。	個人会員	会合等を含む活動の延べ日数	3回/年		
		家族会員				
		会報の発行回数				
		公衆ボランティア登録者数				
2-5 県民参画型活動の推進	県民参画による行事や県民による普及行事支援等の活動を推進します。	公衆ボランティア活動回数	県民による企画展運営型行事の数			
		企画運営型行事等件数				
		普及行事支援回数		県民による普及行事支援の数		
		公衆ボランティア登録者数				

③情報の発信と公開

博物館の催し物案内等だけではなく、博物館活動に関するさまざまな情報をより多くの人に知ってもらい、博物館を有効に活用する利用者が増えるよう、インターネットや様々なメディアを通じて積極的に情報を発信します。(使命：「知」知と出会う博物館)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
3-1 マスコミへの資料提供等の推進	企画展や普及行事の案内だけでなく、博物館に関する情報を積極的に資料提供できるよう努めます。	資料提供件数	マスコミに対して資料提供を行った数(月間催し物案内を含む)	30件/年	
		マスコミ取材報道件数	新たに新聞が取材し、報道した数	15件/年	
		マスコミ出演等件数	学芸員がマスコミに出演した数		
3-2 広報活動の強化	広報関係出版物の内容改善、配布ルートの開拓など、広報活動を強化します。	広報手段の新規開拓状況	新たに開拓した広報手段	250人/年	
		広報関係出版物発行状況	年間催し物案内、月間催し物案内、ニュース等の発行回数および発送件数		
3-3 インターネットによる情報発信の推進	インターネットによる情報発信を推進するため、学芸員による積極的な情報発信を促し、ホームページの充実を図ります。	Eメールサービス登録件数	年度末時点のEメールサービスの登録件数	250人/年	
		HPアクセス数	トップページへのアクセス総数	32,000件/年	
		新規コンテンツ数	新たに作られたページの数	30ページ/年	
3-3 インターネットによる情報発信の推進	インターネットによる情報発信を推進するため、学芸員による積極的な情報発信を促し、ホームページの充実を図ります。	内容の更新頻度	内容が更新された回数	月3回以上	

④シンクタンクとしての社会貢献

博物館は、博物館活動を通じて様々な資源（資料・情報・学芸員の知識）を蓄積しているシンクタンクです。これらを活用し、自治体や地域社会、学会等の事業推進に貢献します。（使命：「知」知と出会う博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
4-1 レファレンス利用者の拡大	来館による相談のほか、手紙や電話、メールでの質問等に親切に対応し、「何でも相談にのってもらえる博物館」との評価の定着を図ります。	レファレンス件数	レファレンス記録DBにおける記録件数	300件/年	
4-2 講師派遣等の推進	他機関が主催する講演会、研修会等に学芸員を講師として派遣します。	講師派遣等件数 講演会等の受講者数	小中高への出前授業を除いた講師派遣等の件数		小中高への出前授業は「2-2 出前授業件数」を参照
4-3 自治体および各種機関・団体への専門知識の提供	自然環境保全や文化財保護など自治体やその他の機関・団体の委員会委員やアドバイザーとして、専門知識の提供を行います。	委員等受託件数 機関・団体等への協力状況	学会・博物館関連団体の委員等を除く		
4-4 大学教育への寄与	大学の非常勤講師の受託、学生・院生の研究指導、博物館実習生の受け入れ等により、大学教育に寄与します。	非常勤講師受託数 博物館実習生受入人数 学生・院生指導人数		20人/年	
4-5 学会・研究会の運営への寄与	学会・研究会を博物館で開催するほか、役員や各種委員等を引き受けるなど、学会等の活動に貢献します。	学会等開催数 学会等役員受託数 学会等事務局受託数	学会・研究会の大会・例会・シンポジウム等の開催数 学会・研究会における役員・委員等の受託数 当館が引き受けている学会・研究会の事務局数		
4-6 博物館施設の連携強化への貢献	県内の中核的博物館として、博物館施設への助言を行うとともに、県博物館協議会の活動等を通じて博物館施設の連携促進のために尽力します。	博物館関連団体委員等受託数 博物館関連団体加入数 連携事業等の実施数	博物館関連団体や他館の委員・役員等の受託数 当館が加入している博物館関連団体の数 移動展・移動講座や他館との共催事業、資料保存等の支援の実施回数		

⑤調査研究

徳島の自然や歴史、文化に関する基礎的な研究および博物館学的調査研究を、県民のみなさんおよび関連機関と連携しながらすすめ、新たな事実や価値の発見に努めます。また、成果を博物館のいろいろな活動へ還元するとともに、地域の魅力を引き出すよう努めます。（使命：「探」地域の魅力を探る博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
5-1 調査研究活動の推進	徳島の自然や歴史、文化に関する基礎的な研究および博物館学的調査研究を積極的にすすめます。	課題調査実施状況 個別調査研究の実施状況	課題調査とは予算化された研究テーマ 課題調査以外の研究テーマの実施状況		
5-2 外部研究機関等との連携の推進	他の博物館や大学、研究団体、学会、研究者との共同研究を積極的にすすめます。	共同研究件数 共同研究プロジェクト件数	他機関やアマチュア研究者との研究件数 上記のうち予算的措置を伴う共同研究の件数	10件/年 3件/年	人的・予算的規模の大小は問わない 科研費プロジェクトの研究分担を含む
5-3 県民参画型調査研究の推進	博物館の研究活動に県民のみなさんが参画できるようなプロジェクトを企画・実施します。	県民参画型調査の件数		2件/年	
5-4 外部資金の獲得による調査研究事業の推進	公的および民間の研究助成金等を獲得し、研究活動の推進を図ります。	公的な研究助成金の申請・採択件数 民間の研究助成金の申請・採択件数	科学研究費補助金など公的機関による競争的研究資金	申請6件・採択1件	
5-5 調査研究成果の公表	博物館の調査研究の成果を学術論文や学会発表、研究報告書の出版、マスコミなどへの資料提供を通じて公表します。	学術的著述数 学会・研究会での発表件数 マスコミへの資料提供件数	年報「調査研究」本文の学術的著述の件数 学会や研究会での口頭・ポスター発表の件数 3-1の資料提供件数のうち調査研究に係わるものの件数	24本/年(査読付き4本/年) 24件/年 2件/年	学芸員数×年2本 学芸員数×年2回

⑥資料の収集・保存と活用

徳島と徳島に係わりのある地域の自然・歴史・文化についての資料を県民のみなさんの協力のもと、様々な手段で継続的に収集します。集めた資料は「みんなの宝」として整理・保管し、未来に伝えます。収集した資料は、調査・研究や展示で利用するほか、他の博物館や研究者、マスコミなどへ積極的に貸し出しや提供をはかり、様々な形で活用します。（使命：「伝」未来にまもり伝える博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
収集					
6-1 継続的な資料の収集	資料収集方針に基づき、採集・購入・寄贈等による継続的な収集を進め、バランスのとれた特色あるコレクションづくりを行います。	収蔵資料点数		H25年度末で512,000点	H20年度末現在で481,981点、H23に50万点超の予定
		新規資料増加点数		6,000点/年	H14～20年度の平均増加点数5,537点から
		採集資料件数		20件/年	H16～20年度の平均16.6件から
		購入資料件数		3件/年	H17年度以降0件
		寄贈資料件数		80件/年	H14～20年度の平均82.1件、ここ5年間は89.4件
6-2 寄託資料の受入の促進	県内の貴重な資料の安全な保管と展示公開の促進を図るため、資料の寄託の受け入れを促進します。	寄託資料件数			H20年度末現在で62件
		新規寄託件数		3件/年	H14～20年度の平均は7.9件、ただし、ここ5年間の平均は3.0件
6-3 文献資料の充実	資料を活用するうえで不可欠な文献資料の充実に努めます。	図書冊数	収蔵図書の総冊数（雑誌類を除く）		
		新規受入図書冊数	購入・寄贈図書数（雑誌類を除く）		
		購入雑誌タイトル数			H16～20年度の購入の平均137.0冊
保存					
6-4 収蔵資料データベースの整備	収蔵資料の整理・登録を進めるとともに、資料を適切に管理し、活用を図るうえで不可欠なデータベースの整備をはかります。	収蔵資料DB登録率	(DB登録点数/収蔵資料点数)×100	50%	
6-5 資料の安全な保存	収蔵庫や展示室の点検や資料の燻蒸等により、収蔵資料の安全な保存を図ります。	収蔵庫点検回数	収蔵庫あるいは収蔵庫内区画あたりの点検回数	6回/年	収蔵庫あるいは区画ごとにチェックリストを定め実施
6-6 常設展示室の資料保存環境の改善	常設展示室での安全な資料の保存環境を確保するため、空調に除湿機能を付加するよう関係方面に働きかけます。	資料保存環境の状況			
6-7 収蔵スペースの確保	収蔵資料の増加に伴い、不足しがちな収蔵スペースの確保のための工夫をします。	収蔵スペースの状況			
活用					
6-8 展覧における利用促進	収蔵資料の展覧における利用・公開の促進をはかります。	展示利用点数	寄託資料の利用も含む		
		常設展 常設展以外の展示			
6-9 貸し出し等の促進	貸し出しや提供などによる収蔵資料の活用をはかります。	資料特別利用等件数	学校貸出し（2・2学校への資料貸出件数を参照）を除く	60件/年	H16～20年度の平均64.2件

⑦ マネージメント（経営）

利用しやすい博物館とするための施設の改善、博物館活動への県民参画の仕組みづくりの検討、職員の意識改革と資質の向上、適切な博物館評価システムの確立等により、博物館活動の改善と活性化、利用者の増大を図ります。（使命：効率的な運営）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
7-1 利用しやすい博物館をめざす施設の改善	わかりやすい案内表示、バリアフリー化や安全対策等に配慮し、高齢者や障害者にとっても快適で安全な利用しやすい施設となるよう、日常的な点検・改善を行います。	点検・改善の状況			
7-2 博物館認知度の向上と利用者層の拡大	博物館活動の活性化と広報の強化により、県内及び近隣地域での博物館の認知度を高め、博物館利用者の範囲の拡大と利用者増に結びつけます。	県民の博物館利用状況 県外利用者の割合			
7-3 県民参画の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討	友の会会員やボランティア等による様々な博物館活動への県民参画の仕組みづくりの検討を行うとともに、友の会を母体とした博物館の運営支援組織のあり方について検討します。	ボランティア導入事案件数 ボランティア活動参加者数 運営支援組織の検討状況	参加者の延べ人数		
7-4 設置者による理解及び外部資金の獲得	博物館の使命、当館が果たしている幅広い役割等に対する県及び県教育委員会の理解を得るとともに、財政的支援等が得られるよう努力します。また、各種外部資金の獲得に努め、より効率的な運営を目指します。	博物館予算の状況 外部資金獲得数	件数		
7-5 防災意識の向上と危機管理体制の強化	地震等の自然災害や火災、盗難、けが人の発生等に備え、文化の森他館と協力して防災意識の向上と危機管理体制の強化を図ります。	防災訓練の実施状況 危機管理体制の整備状況			
7-6 職員の意識改革と資質の向上	職員が博物館の社会的役割及び当館の使命を認識し、博物館活動の活性化と健全な経営に主体的に取り組めるよう、意識改革と資質の向上を図ります。	取り組み状況			
7-7 博物館評価システムの構築	博物館活動の中期活動目標に基づく自己点検評価、博物館協議会による外部評価、結果の公開という適切な博物館評価システムを確立し、博物館活動の改善に役立てます。	中期活動目標の状況 自己点検評価の状況 外部評価の状況			

2. 24年度実績と自己評価

(1) 展示

●中期活動目標及び24年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	22年度実績	23年度実績	24年度実績
1-1 常設展の改善・充実	常設展観覧者数	40,000人/年	35,054人	39,531人	40,488人
	観覧者のリピーター率	40%	36% (7～8月)	29.9% (7～8月)	56% (7～8月)
	観覧者の満足度 新たな知識 他人への推薦	80%/回 80%/回	88% (7～8月) 84% (7～8月)	87% (7～8月) 85% (7～8月)	90% (7～8月) 91% (7～8月)
	展示改善の実施状況		2件 (小規模な展示更新、 チャレンジコーナー)	2件 (小規模な展示更新、 チャレンジコーナー)	3件 (部門展示室、ロビー、 キッズチャレンジコーナー)
1-2 多様なテーマの企画展の計画的開催	企画展観覧者数	自然 7,000人 人文 3,500人	5,909人(ヒマラヤ)、 3,539人(藍染め)、 3,019人(聖地★巡礼)	4,448人(人形・ひとがた)、 3,311人(描かれた地震)	17,458人(ほねほねワールド)、 4,989人(日本のわざと美)
	観覧者の満足度 新たな知識 他人への推薦	80%/回 80%/回	90%(ヒマラヤ)、 94%(藍染め)、 聖地★巡礼(92%) 83%(ヒマラヤ)、 83%(藍染め)、 聖地★巡礼(90%)	96%(ひとがた)、 90%(地震) 90%(ひとがた)、 89%(地震)	95%(ほねほね)、 96%(わざと美) 78%(ほねほね)、 93%(わざと美)
	社会的評価	5社/回	ヒマラヤ2、藍染め4、 聖地★巡礼3	ひとがた3、地震6	ほねほね3、わざと美2
	企画展の検討状況		24年度以降の計画の協議	25年度以降の計画の協議	26年度以降の計画の協議
1-3 多様な展示の開催促進	特別陳列等の開催回数	5回 (特1・部4)	13回 (特2・部8・ト2・他1)	15回 (特1・部5・ト3・他6)	19回 (特1・部5・ト5・他8、江戸時代の絵師4、 ロビー1、阿波踊り屏風1、 三番叟1)
	特別陳列観覧者数	200人/日	235.5人 (人形と戦争)	333.4人 (博物館の宝もの)	342.2人 (海からどんぶらこ)
	観覧者の満足度 新たな知識 他人への推薦	80%/回 80%/回	97%(人形と戦争) 91%(人形と戦争)	88%(宝もの) 77%(宝もの)	96%(どんぶらこ) 90%(どんぶらこ)
	社会的評価	5社/回	(人形と戦争) 5	宝もの2	どんぶらこ2
	特別陳列等の検討状況		24年度以降の計画の協議	25年度以降の計画の協議	26年度以降の計画の協議
1-4 他機関との共同展示等の促進	文化の森内での共催展の開催回数		1回(軌跡—継続と蓄積—)	2回(鳥居龍蔵の見た北東アジア、 鳥居龍蔵の見た台湾)	1回(鳥居龍蔵とアイヌ— 北方へのまなざし—)

60 中期活動目標と自己評価

中期活動目標の項目		評価指標	目標値	22年度実績	23年度実績	24年度実績
1-4	他機関との共同展示等の促進	移動展等の実施状況	3回/年	5回（阿南市科学センター・美波町・つるぎ町・海陽町・松茂町）、パッケージ貸出1回（海陽町立博物館）	1回（美波町日和佐図書・資料館）	4回（美波町日和佐図書・資料館、あわぎんホール、アステイ徳島、徳島県教育会館）
1-5	展示解説等の推進	図録等の発行状況		企画展図録2+パンフ1、徳島の自然と歴史ガイド1	企画展図録2、塗り絵帳1、立版古1	企画展図録2、ビーチコーミングハンドブック1、解説副読本1
		展示解説等の実施状況		企画展解説 5回 企画展記念講演会 1回 企画展関連行事（映画会） 10回 特別陳列解説 12回 うち紙芝居&展示解説 10回 関連シンポジウム 1回 記念演奏&講演会 1回 ワークショップ2回 常設展示室活用イベント 3回 部門展示解説 8回 クイズラリー（第2・4土） 24回 セルフガイドの設置	企画展解説 5回 企画展記念講演会 1回 企画展関連行事（公演） 1回 企画展関連行事（ワークショップ等） 2回 企画展関連行事（実習） 4回 企画展関連行事（野外観察会） 1回 企画展関連行事（体験コーナー設置） 1回 クイズラリー（第2・4土） 24回 文化庁文化芸術振興費補助金による実演と公開展示 1回 常設展示室活用イベント 3回 部門展示解説 3回 セルフガイドの設置 サマサイトの演奏会	企画展解説 3回 企画展記念講演会 2回 企画展関連行事（ワークショップ等） 5回 クイズラリー（第2・4土） 24回 文化庁文化芸術振興費補助金による実演と公開展示 1回 常設展示室活用イベント 4回 部門展示解説 4回 セルフガイドの設置
1-6	県民などとの協働による展示の推進	協働の実施状況		「海を渡った人形と戦争の時代」神領小学校との連携 「西日本のタンポポ」 「トグロコウイカ」	「博物館の宝もの」 「四国のコウモリ」 「中生代の化石」職場体験の中学生による展示の作成	「海からどんぶらこ」 「100均グッズで夏休みの自由研究・工作にチャレンジしよう」
1-7	常設展のリニューアルに向けての取り組みの推進	リニューアルに向けての進捗状況		先進館調査1館（雲仙岳災害記念館） 小規模な展示更新の推進	リニューアルした博物館の視察（檀原市市昆虫館、国立歴史民俗資料館、高知県立歴史民俗資料館） 小規模な展示更新の推進	リニューアルした博物館の視察（国立民族学博物館、愛媛県総合科学博物館、海陽町立博物館、阿波木偶資料館） 部門展示室（人文）、ロビーの案内表示、キッズチャレンジコーナーの更新

●自己評価

(1-1)

- ・常設展観覧者数は40,488人で、23年度より若干増え、目標に達した（前年度比957人増）。夏期に開催した企画展の観覧者数が多かったことに合わせて、23年度に引き続き7月21日～8月31日は一般家庭の節電を推進するため、常設展観覧料が無料となったこと、また文化の森サマーフェスティバルが開催されて常設展示室を利用したことなどが連動し、常設展観覧者数の伸びにつながったと考えられる。また、数年来続けているボランティアが中心となった冬期のイベントが定着し、常設展観覧者数の大きな牽引力となっている。
- ・アンケート（7月21日～8月31日）によれば、来館者のうち県内在住者の割合は89%であった。企画展と比べると徳島市内からの割合が少なく、県内の各地から来ていた傾向がある。
- ・夏休み期間中のリピーター率は59%（前年度57%）であった。1年以内の利用経験のある「狭義のリピーター」は56%（前年度30%）となっている。前年度と比較すると、日常リピーター率は増えている。アンケートの実施期間は、昨年に続き、2度目の常設展観覧料無料期間であった。1日あたりの来館者は以前より100人以上増えており、無料化が新規来館者の開拓とともにリピーター率の引き上げに関係している。
- ・新たな発見や知識・経験が「あった」とする回答が90%で、前年度（87%）と目標値を上回った。
- ・常設展をほかの人に見るようすすめたいと「思う」観覧者は91%で、前年度（85%）とほぼ同様であり、目標値を上回った。
- ・更新した「キッズチャレンジコーナー」の感想を聞いてみたところ、「とてもよい」が27%（全年度22%）、「よい」が67%（前年度49%）であった。更新は来館者には好評のようである。

(1-2)

- ・観覧者は、「ほねほねワールド」は17,458人であり、目標値（7,000人）を大きく上回った。「日本のわざと美」は4,989人であり、これも目標値（3,000人）を上回った。
- ・新たな発見や知識・経験が「あった」とする回答は、2回の企画展とも90%以上を示し、目標値を上回った。「ほねほねワールド」で95%、「日本のわざと美」では96%と、きわめて高い値を示した。
- ・この展示をほかの人に見るようすすめたいと「思う」との回答は、「ほねほねワールド」では78%と目標をわずかに下回った。観覧者の年齢層に小学生以下が占める割合が圧倒的に多かったため、質問の意図がうまく伝わらなかったことが一因と考える。「日本のわざと美」で93%であり、目標値を上回った。
- ・県内主要マスコミ6社のうち、展示を報道した社数を「社会的評価」とした。「ほねほねワールド」で3件、「日本のわざと美」で2件であった。目標値には達しなかったが、「ほねほねワールド」では、県外のマスコミから2件、県内ケーブルテレビ会社から3件の取材があり、広く注意を引いた可能性は高い。
- ・「ほねほねワールド」では観覧者の87%が県内在住者であった。昨年2回の企画展に比べると県外在住者の観覧者がわずかに多い。話題性や夏休み期間中の開催が要因と考える。一方、「日本のわざと美」は観覧者数の93%が県内在住者であった。国民文化祭に合わせた展覧会として県民文化の向上に寄与できたと考える。
- ・「ほねほねワールド」では、多種の生物の骨格を見ることに関する好意的な意見が多かった。
- ・「日本のわざと美」では日本全国の伝統的工芸を直接見ることへの好意的な言及が多かった。
- ・テーマとタイミングがうまくマッチすれば、企画展観覧者の大量獲得が可能になるが、容易ではない。したがって、娯楽性、新規性、学術性等の諸要素を取り合わせた計画的運営に努めている。24年度については、3つの要素がうまく融合した展示を開催できたと考えている。今後も多くの観覧者の満足を得るよう、展示内容の工夫や効果的な広報に努力したいと考える。

(1-3)

- ・特別陳列等の開催回数は19回（そのうち1回は近代美術館ギャラリーを会場とする文化の森人権啓発展）で、目標を大きく上回った。
- ・平成20年度から、多様な資料を公開していくことなどを目的として、部門展示（人文）の展示替えに自然史のテーマも組み込んでいる。実績として5回行った。
- ・トピックコーナーでは、速報性、話題性を考えての展示を行っている。5件の展示を行った。
- ・阿波の近世絵画の展示替えを4回行った。
- ・特別陳列「海からどんぶらこ」の観覧者数は目標値を上回った。観覧者の満足度は、新たな知見が「あった」と

62 中期活動目標と自己評価

する回答が96%、この展示を他の人にすすめたいと「思う」とする回答は90%と、非常に高かった。

・「社会的評価」は「海からどんぶらこ」では目標値に達しなかった。

(1-4)

・移動展等は3回で、目標値に達した。移動展は、美波町日和佐図書・資料館で「阿波の遠洋漁業」を行った。また、あわぎんホールで開催された「生物多様性博覧会」や、アスティとくしまで開催された「震災に強いとくしまづくりフォーラム」に展示参加した。パッケージ資料の貸出はなかった。

(1-5)

・毎年恒例となっている、年間計画外の常設展活用イベント（博物館Vキング）もボランティアとの協働により行われた。

・常設展活用イベントを4回行った（博物館こどもの日フェスティバル、文化の森サマーフェスティバル、文化の森 大秋祭り!!：博物館文化の日フェスティバル、博物館Vキング）。

・企画展の展示解説を3回、特別陳列の展示解説を1回、部門展示の展示解説を4回行った。

企画展「ほねほねワールド」では、記念講演会を1回、企画展「日本のわざと美」では、記念講演会を1回、製作実演やワークショップを5回開催した。

(1-6)

・特別陳列「海からどんぶらこ」を県民との協働で開催した。トピックコーナー「100均グッズで夏休みの自由研究・工作にチャレンジしよう」を西日本自然史系博物館ネットワークとの連携で開催した。

(1-7)

・今年度は部門展示室（人文）に学芸員の紹介コーナーを設置、受付ロビー周辺の表示を更新するなど、予算的措置を必要としない展示更新を行った。また、阿波の近世絵画の展示替えを4回行ったほか、近世の絵図写真、県民が参加したタンポポ調査の成果を新規展示として加えた。こうした取り組みは、今後も継続して行う必要がある。一方、小規模な展示更新では、利用者の満足を得ることが困難なため、開館25周年を目標に、効果的なりニューアルの実現に向けて計画策定に取り組む予定である。

(2) 普及教育

●中期活動目標及び24年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	22年度実績	23年度実績	24年度実績
2-1 県民のニーズを反映した多様な催しの開催	普及行事実施回数	70回/年	93回	72回	77回
	普及行事参加者数	3,000人/年	8,818人	6,003人	8,828人
	参加者の満足度	満足した者の割合80%	95% (14行事)	94.6% (15行事)	93.9% (17行事)
	アウトリーチ活動数	5回/年	4回	4回	4回
2-2 学校教育支援事業の推進	支援事業案内パンフレット配布状況	県内全教員(小・中・高)	県内全教員(小・中・高)	県内全学校(小・中・高)	県内全教員(小・中・高)
	出前授業件数	出前授業 15件/年	26件	30件	38件
	資料貸出件数	資料貸出 10件/年	9件	10件	8件
	館での授業件数		9件	9件	14件
	教員研修件数		3件	4件	9件
	職場体験件数		2件	3件	5件
	遠足件数		109件	115件	108件
	教員・生徒の満足度	80%	100%	100%	97%
2-3 普及的記事の執筆推進	ガイドブック出版状況	1冊/年	1冊	0冊	0冊
	普及的記事の執筆数	40件/年	76件	74件	60件
	博物館ニュース発行回数	4回/年	4回	4回	4回

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	22年度実績	23年度実績	24年度実績
2-4 友の会活動の充実と活性化	友の会会員数	400人/年	248人	254人	252人
	個人会員		78人	89人	81人
	家族会員		170人 (48組)	165人 (46組)	172人 (47組)
	会員の継続率	前年度会員70%	92%	87%	80%
	個人会員		92%	89%	85%
	家族会員		92%	85%	72%
	友の会行事実施回数	6回/年	8回 (166人)	8回 (186人)	8回 (189人)
	展示利用率	50%	62%	53%	63%
	個人会員		59%	54%	53%
	家族会員		67%	52%	79%
	延べ利用者数	会員数	341人	343人	296人
	個人会員		149人	190人	141人
	家族会員		192人	153人	155人
	会報の発行回数	3回/年	3回	3回	3回
2-5 県民参画型活動の推進	公募ボランティア登録者数		11人	25人	20人
	公募ボランティア活動回数 (全体・班会合、イベント)		合計32回 会合29回 イベント3回	合計39回 会合36回 イベント3回	合計29回 会合26回 イベント3回
	企画運営型行事等回数		1回	3回(8/6-7、2/11)	3回(8/4-5、2/11)
	普及行事支援回数		2回	2回(友の会からの協力5/5、11/3)	2回(友の会からの協力5/5、11/3)

●自己評価

(2-1)

- ・普及行事の実施回数は、平成23年度の72回から77回に増えた。参加者数は2,825人増加した。回数が増えたのは、24年度の普及行事ミュージアムトークの「ゼロからはじめる古文書講座」を受講者の希望により5回追加開催したためである。また、参加者数が増加した原因のひとつは、従来行っているフェスティバルに加え、新たに「文化の森サマーフェスティバル」を開催したことである。
- ・普及行事参加者数8,828人のうち、参加数が多いのは「こどもの日フェスティバル」(1,927人)、「文化の森サマーフェスティバル」(1,290人)、「文化の森 大秋祭り!!」(1,050人)、「博物館Vキング」(1,719人)である。「博物館Vキング」はボランティアスタッフと一緒に作る内容で、好評を博している。普及行事への参加者の満足度は、17行事で行ったアンケート結果からは93.9%と好評であった。

(2-2)

- ・出前授業数は前年より8件増加し、38件であった(通信システムを利用した遠隔授業2件を含む)。23年度は、徳島市内の学校が16件で過半数を占めていたが、24年度は10件と減少した。一方、全体の内訳は県西7件、県南10件、県央21件となっており、県内各地への広がりが感じられる。また、新学習指導要領に博物館との積極的な連携・活用が明記されたことにより、校長会や教科部会等様々な場において連携や活用の必要性が紹介されている。そのため、出前授業の件数が増加したと考えることができる。出前授業の内容で多かったのは、「昔のくらしと道具」が13件34%、「大地のつくりと変化」が9件24%で、この2つで全体の58%を占めている。
- ・出前授業については、教員への事後アンケートを実施している(アンケート項目:①事前の打ち合わせ②用具や教材の準備③学芸員の解説や演示④児童生徒の興味関心の高まり⑤ねらいの達成度⑥総合評価)。それによると、どの項目も好評であり、総合評価において、1~5の5段階評価で5の割合が84.2%と高い。
- ・資料貸し出し件数については、24年度は8件であった。毎年10件前後で横ばいである。貸し出し資料のアンケート結果を見ると、評価は高い。本物には魅力があり、計り知れない学習効果があることがうかがえる。実物資料を提供できるのは、博物館ならではのサービスのひとつになっている。
- ・「館での授業」「教員研修」「職場体験」の実績は、23年度に比べそれぞれ5件、5件、2件と増加し、昨年度比

64 中期活動目標と自己評価

はそれぞれ156%、225%、167%を示した。「遠足」については23年度より7件減少したが5～6月、10月を中心に100件を超した。

- ・新学習指導要領に博物館との連携と活用が明記されたのを機に、今後に向けて、博物館の活動と学校や授業での利用方法についてPRする機会を得た。博物館の利用増を期待したい。

(2-3)

- ・普及的記事の執筆数については、目標値を大きく上回っており、今後も機会あるごとに執筆を心がけていきたい。また、20年度から「こども新聞（徳島新聞夕刊）」の連載に協力しており、24年度は25件の記事が掲載された。

(2-4)

- ・友の会会員数は、23年度は22年度に比べ6名増加したものの、24年度は微減に転じ、2名の減少となった。近年の減少は、家族会員が子どもの成長と共に、個人会員へ変更していることや新規入会が減少していること等が理由と考えられる。
- ・会員の継続率は、23年度87%、24年度80%と高い。友の会の活動内容に満足していると考えられる。
- ・展示利用率は63%と目標を達成している。9月1日から会員の多数を占める65歳以上の常設展観覧料が無料となり、会員証の提示が必要なくなったため、9月以降の正確な利用者数は把握できていない。実数はもっと多いと思われる。今後も観覧料無料という友の会会員の特典を周知していきたい。
- ・会員が自主的に行事を立案・企画し、例年並みに8回の行事を実施した。実施後の会員の感想によると好評であった。

(2-5)

- ・公募ボランティアは、継続者が中心となって博物館職員と共に1年間の活動を行った。また、イベント（博物館Vキング）当日のボランティアとして、阿南工業高等専門学校の学生1名の協力を得た。博物館Vキングを中心に3回のイベントで活躍した。徳島大学の科学体験フェスティバルにも引き続き参加し、アンケートなどでも好評を得た。

(3) 情報の発信と公開

●中期活動目標及び24年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	22年度実績	23年度実績	24年度実績
3-1 マスコミへの資料提供等の推進	資料提供件数	30件/年	28件	30件	32件
	マスコミ取材報道件数		64件	114件	114件
	マスコミ出演等件数	15件/年	15件	13件	15件
3-2 広報活動の強化	広報手段の新規開拓状況		チラシやポスターの有効的な配布	チラシやポスターの有効的な配布	チラシやポスターの有効的な配布
	広報関係出版物発行状況 年間催し物案内発行回数（発送件数）		1回（772件）	1回（681件）	1回（673件）
	月間催し物案内発行回数（発送件数）		12回（各95件）	12回（各93件）	12回（各92件）
	博物館ニュース発行回数（発送件数）		4回（各1,442件）	4回（各1,221件）	4回（各1,211件）
	Eメールサービス登録件数	250人/年	297人	317人	320人
3-3 インターネットによる情報発信の推進	HPアクセス数	32,000件/年	40,000件	58,500件	36,500件
	新規コンテンツ数	30ページ/年	164ページ/年	74ページ/年	74ページ/年
	内容の更新頻度	月3回以上	4回/月	4回/月	5.5回/月

●自己評価

(3-1)

- ・資料提供件数は32件と前年度より2件増加し、目標値の30件/年に達した。博物館からの情報発信として、マスコミに対する資料提供は効果的であるため、今後も積極的に続けていく必要がある。
- ・マスコミ取材報道件数については、新聞の記事として扱われた件数のみであるが、今年度は114件で、23年度と同数であった。企画展「ほねほねワールド」や特別陳列「海からどんぶらこ」などの展示に関する取材の他、「園瀬川で発見されたカジカ」「鳴門に漂着したイチョウハクジラ」などの取材が増えたことも一因と考えられる。
- ・マスコミ出演等件数は15件と23年度より2件増加し、目標値の15件/年に達した。

(3-2)

- ・広報手段の新規開拓状況としては、こどもの日フェスティバルや文化の森大秋祭り等でチラシを効果的な時期に発送するなど、来館者数の増加が期待できるイベントにおいて広報を充実させた。
- ・広報関係出版物の発行状況として、年間催し物案内は、学校を中心に配布し、小学校では県内の全児童に配布した。月間催し物案内は、マスコミと各図書館を中心に配布した。ニュースは関係諸機関にまんべんなく配布したが、とくに小学校では理科、社会科、生活科の教員と各クラスに、中学・高校では理科、社会科の教員に対して配布した。年間催し物案内およびニュースの発送件数がそれぞれ減少しているが、これは学校数や児童数が減少したことに加え、効果的な配布を目指して発送先リストを整理したためである。
- ・電子メールサービス登録件数は23年度より3件増え、目標値を上回った。

(3-3)

- ・インターネットによる情報発信においては、24年度1年間でトップページに約36,500件のアクセスがあった。23年度の58,500件と比べて2万件以上の大幅な減少、22年度の40,000件と比べても3千件以上の減少があったものの目標値を上回った。
- ・新規コンテンツ数は74ページ/年と目標値を大幅に上回ったものの、前年度と同数であった。部門展示「身近な草木で紙づくり」や学芸員のホームページに関するコンテンツが新たに追加された。
- ・内容の更新頻度は5.5回/月(67回/年)と目標値を上回り、22~23年度(それぞれ4回/月)より大きく増えたと言える。主な更新内容として、展示案内とイベントボランティアによる活動報告が挙げられ、それぞれの更新頻度は20回、18回と全体の50%以上を占めている。上述の内容のみならず、博物館が発信する新しい情報を積極的に更新していく必要がある。

(4) シンクタンクとしての社会貢献

●中期活動目標及び24年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	22年度実績	23年度実績	24年度実績
4-1 レファレンス利用者の拡大	レファレンス件数	300件/年	479件	480件	797件
4-2 講師派遣等の推進	講師派遣等件数		25件	28件	28件
	講演会等の受講者数		(641人)	(766人)	(889人)
4-3 自治体および各種機関・団体への専門知識の提供	委員等受託件数		31件	30件	30件
	機関・団体等への協力状況				
4-4 大学教育への寄与	非常勤講師受諾数		2件	2件	3件
	博物館実習生受入人数	20人/年	17人(10大学)	10人(6大学)	16人(9大学)
	学生・院生指導人数		0人	0人	2人
4-5 学会・研究会の運営への寄与	学会等開催数		15件	15件	14件
	学会等役員受託数		3件	3件	3件
	学会等事務局受託数		3件	5件	5件

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	22年度実績	23年度実績	24年度実績
4-6 博物館施設の連携強化への貢献	博物館関連団体委員等受諾数		5件	7件	7件
	博物館関連団体加入数		6件	6件	6件
	連携事業等の実施数		10件 移動展5回、徳島県博物館協議会講演会・研修会・先進地博物館施設調査、海陽町立博物館・福井県立恐竜博物館との連携	7件 移動展1回、徳島県博物館協議会講演会・研修会、標本レスキュー、海陽町立博物館・兵庫県立人と自然の博物館・福井県立恐竜博物館との連携	8件 移動展4回、徳島県博物館協議会講演会・研修会、海陽町立博物館・福井県立恐竜博物館との連携

●自己評価

(4-1)

・レファレンス件数は23年度の約1.7倍となり、目標値300件を大きく上回った。ただし、電話での問い合わせなど記録として残されていないものもあるため、実数はこれより多い。分野別の件数では、24年度は動物（昆虫）がもっとも多い138件で、24年度とほぼ同数だった。次いで、地学129件、歴史119件、動物（脊椎）109件、植物85件、民俗60件であった。動物、地学、歴史、植物、民俗の5分野で全体の86%を占めていた（p.29参照）。

(4-2)

・24年度の講師派遣は、29件で、23年度とほぼ同じであった。ただし、23年度と同様に、特定分野に集中する傾向が顕著で、歴史分野が13件、全体の45%を占めた。
・派遣先受講者数は、18件で受講者の概数が記録されており、889人であった。

(4-3)

・各種の委員会などの委員等の受諾数は23年度と同じ30件であった。これらのうち17件（57%）は動物・植物分野における自然環境の評価にかかわるもので占められており、県や国の公共事業における環境配慮や希少野生生物の保全対策事業に対応している。
・委員等に委嘱されずに各種機関・団体への協力を求められることもあるが、公共性の高いものについては、レファレンス業務や講師派遣等により可能な範囲で対応している。

(4-4)

・24年度の大学における非常勤講師の受諾数は3件であった。
・24年度の博物館実習生の受入人数は16人で、23年度に比べて6人増加したが、目標値の20人には及ばなかった。これとは趣旨が異なるが、同じ期間に徳島県インターンシップ実習学生3人を受け入れた。
・学生・院生の研究指導は、2名に対して行った。受入人数については、今のところ目標値は定めておらず、大学側の要望に応じて若干名を受け入れることにしている。
・県内で学芸員養成を行っている3大学の「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」の文化の森での共同開講が決定した。24年度は大学や近代美術館、文書館と協力して「博物館資料保存論」を開講し、四国大学1年生28人を指導した。

(4-5)

・24年度の学会や研究会の当館における開催数は23年度とほぼ同数である。これらには毎月例会が開催されるみどりクラブが含まれている。目標値は定めていない。
・学会等役員受託数は23年度と同じである。目標値は定めていない。
・学会等の事務局受託数は23年度と同じである。目標値は定めていない。

(4-6)

・博物館関連団体の委員等受託数は23年度と同じである。目標値は定めていない。
・博物館関連団体加入数は6件で、これらのうち1件は当館が事務局を引き受けている。目標値は定めていない。
・他館等との連携事業数は、23年度より1件増加した。移動展が22年度並みの回数に増加したことが目立つ。そのほか、当館が事務局を担当している徳島県博物館協議会において講演会および研修会を実施した。県内外の博物

館との連携事業も行った。目標値は定めていない。

(5) 調査研究

●中期活動目標及び24年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	22年度実績	23年度実績	24年度実績
5-1 調査研究活動の推進	課題調査実施状況		3件 (外部との共同3)	3件 (外部との共同3)	2件 (外部との共同2)
	個別調査研究の実施状況				
5-2 外部研究機関等との連携の推進	共同研究件数	10件/年	13件	13件	12件
	共同研究プロジェクト数	3件/年	4件/年	3件/年	4件/年
5-3 県民参画型調査研究の推進	県民参画型調査の実績	2件/年	3件/年	2件/年	1件/年
5-4 外部資金の獲得による調査研究事業の推進	科研費申請・採択数	申請6・採択1件/年	申請3・採択1 (継続1)	申請3・採択0 (継続1)	申請2・採択1 (継続1)
	民間研究助成金獲得状況		0件	0件	0件
5-5 調査研究成果の公表	学術論文数	22本/年 (査読付き4)	26本 (査読付き9)	22本 (査読付き3)	33本 (査読付き9)
	学会・研究会での発表件数	22回/年	22回	24回	16回
	マスコミへの資料提供件数	2件/年	2件/年	3件/年	4件/年

●自己評価

(5-1)

- ・課題調査は「異なる森林環境における昆虫類群集の多様性」、「徳島県の湿地生植物」の2件を実施し、いずれも外部との共同研究として行った。
- ・分野別に調査研究を実施し、それぞれ成果を得た。
- ・学芸員相互の情報交換や研究資質向上をはかるため、学芸員や外部研究者による館内研究発表会（セミナー）を5回実施した。前年度以上の実施回数であり、今後も定期的の実施していきたい。

(5-2)

- ・24年度は他機関等の研究者との共同研究数については、12件で目標値を達成した。
- ・共同研究プロジェクトとは、予算的措置を伴う共同研究のことをさす。文部科学省科学研究補助金「『アワ船』による漁民移動と漁業移住の類型化に関する民俗学的研究」、「古生物タイプ標本における3Dデジタルアーカイブの構築に関する研究」、「最古の現生種化石記録から探る現生貝類群集の成立」と民間研究助成の「ジュラ紀放射散虫群集の数値年代」の4件がこれにあたり、目標を達成した。

(5-3)

- ・今年度の県民参加型調査については、継続している漂着物の調査の1件のみであり、目標値を達成できなかった。

(5-4)

- ・24年度は、文部科学省および日本学術振興会による科学研究費補助金（科研費）は2件応募し、1件（若手研究（B））の新規採択があった。なお、1件が継続中である。
- ・当館のような小規模な組織の場合、科研費等の競争的資金の新規獲得は容易ではないと思われるが、これらの競争的資金や研究助成金等を獲得することによって、費用のかかる研究の開始・継続が可能となる。しかし、申請が少ない状態が続いていて、目標値を達成できていない。「基盤研究」等の申請を増やす対策が必要である。また、科研費以外の補助金についても、情報を収集して積極的に申請し、獲得を目指す必要がある。

- ・研究課題については、博物館の特性を生かした課題（たとえば分野の枠を越えた共同研究的なものや、博物館学に関連したものなど）を設定するなどの工夫が必要である。

(5-5)

- ・学術論文数は34本であり、大幅に目標値を上回った。
- ・学会・研究会での発表は16件で、目標値にとどかなかった。
- ・マスコミへの資料提供は、「アンモナイトは殻がパンクしても死なない?」、「園瀬川における希少淡水魚『カジカ』の確認について」、「『阿波木偶箱廻し』調査・伝承推進事業報告会の開催について」、「徳島の湿地－そこに生きる植物たちの知られざる姿－」の4件であり、目標値を達成した。これらは調査研究の成果を公表したものであり、今後ともこのように県民へ積極的に還元する工夫が必要である。

(6) 資料の収集・保存と活用

●中期活動目標及び24年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	目標値	22年度実績	23年度実績	24年度実績
収集						
6-1	継続的な資料の収集	収蔵資料点数	H25年度末で 512,000点	490,408点	493,748点	496,284点
		新規資料増加点数	6,000点/年	1,267点	3,340点	2,536点
		採集資料件数	20件/年	21件	13件	20件
		購入資料件数	3件/年	0件	0件	1件
		寄贈資料件数	80件/年	110件	106件	113件
6-2	寄託資料の受入の促進	寄託資料件数		64件	64件	67件
		新規寄託件数	3件/年	2件	4件	2件
6-3	文献資料の充実	図書冊数（雑誌類除く）		12,922冊	13,082冊	13,314冊
		新規受入図書冊数		208冊	160冊	232冊
		寄贈		143冊	30冊	56冊
		購入		65冊	130冊	176冊
		購入雑誌タイトル数		47	45	42
保存						
6-4	収蔵資料データベースの整備	収蔵資料DB登録率	50%	45.6%	46.2%	46.9%
6-5	資料の安全な保存	収蔵庫点件回数	6回/年			自然・人文各3回/年
6-6	常設展示室の資料保存環境の改善	資料保存環境の状況				
6-7	収蔵スペースの確保	収蔵スペースの状況				
活用						
6-8	展覧における利用促進	展示利用点数		6,175点	4,519点	1,779点

中期活動目標の項目		評価指標	目標値	22年度実績	23年度実績	24年度実績
6-8	展覧における利用促進	常設展		5,127点	438点	487点
		常設展以外の展示		1,048点	4,081点	1,292点
6-9	貸し出し等の促進	資料特別利用等件数	60件/年	53件	53件	67件

●自己評価

(6-1)

- ・収蔵資料点数は、前年度より2,536点増加したが、目標値の6,000点/年には達しなかった。新規資料増加点数は前年度より約800点減少している。
- ・採集資料件数は前年度より7件増加し、目標値に達した。
- ・購入資料件数は、平成17年度から23年度まで0件であったが、今年度は1件の資料購入（細川氏・飯尾氏関係資料）があった。
- ・寄贈資料件数は113件と前年度より7件増加し、目標値を大幅に上回った。

(6-2)

- ・新規寄託は2件で目標値に達しなかった。

(6-3)

- ・図書・雑誌については、予算などの状況にもよるので、特に目標値は定めていないが、博物館の重要な資料の一部であり、調査研究や展示、普及教育活動などの状況の表れでもあるので、評価指標として取り上げている。
- ・新規受入図書冊数は、前年度に比べ、寄贈図書、購入図書ともに大幅に増加した。購入図書に関しては、前年度に続き「光をそそぐ交付金」によるところが大きい。
- ・購入雑誌タイトル数は、予算削減により、人文系雑誌およびその他雑誌で前年度から3タイトル削減した。

(6-4)

- ・収蔵資料のデータベースへの登録率は、記録を取り始めた平成16年度には40.0%であった。18年度から増加しはじめ19年度以降、目標値の50%にわずかに届かないレベルで推移している。前年度に比べ、登録率は微増したが、目標値には届いていない。

(6-5)

- ・収蔵庫あるいは収蔵庫内の区画ごとに資料の安全な保管状況を点検するためのチェックリストを作成し、平成25年1月から実施した。これまでは収蔵庫内で作業を行った時にのみ目視によるチェックを行ってきたが、今後は定期的に監視していく予定である。
- ・資料の安全な保存のため、収蔵庫内の耐震対策を検討し、一部実施した。具体的な実施は次年度中に計画している。

(6-6)

- ・常設展示室内の空調は温度設定のみ可能で、湿度のコントロールができない。近年は省エネルギー化のため、空調運転時間が減少しており、カビの発生が懸念される。さいわい、現時点ではカビの発生は確認されていない。また、外気温が上昇する夏期などは、設備調整の他、照明を調整するなどして適宜湿度の管理を行った。

(6-7)

- ・資料の増加に伴い、収蔵スペースが減少してきている。収蔵スペースを確保するために、置き場所の変更や収納の高密度化、収蔵ケース/容器の工夫などが必要であるが、予算削減や人員削減により進んでいるとはいえない。資料の受け入れは慎重に行うとともに、今後は、収蔵庫定期点検を行うことで、具体的な対策を練っていきたい。

(6-8)

- ・第2期より収蔵資料の活用状況を把握するための指標として、新たに展示における利用の点数（常設展における利用と常設展以外の展示における利用）を盛り込んだ。今年度は常設展（部門展示やトピックコーナーなど）において487点、常設展以外の展示（企画展や特別陳列、移動展）において1,292点の資料を利用した。前年度より、常設展で利用された館蔵資料が増加しているが、常設展以外の展示は、前年度に比べ、約2,700点減少した。前

70 中期活動目標と自己評価

年度は、特別陳列「博物館の宝もの」で約3,800点の資料が展示されたが、今年度は一度の展示で1,000点以上の利用がなかったためである。

(6-9)

- ・収蔵資料活用の指標の一つとして、従来より資料特別利用等件数を設けている。これは他館への展示のための貸し出しや研究者向けの資料の貸し出し、マスコミや出版社への画像の提供などを含んでいる（学校への貸し出しは含んでいない。これについては(2)普及教育〔p.62~64〕を参照のこと）。今年度は67件と前年度より14件増加し、目標値を7件上回った。

(7) マネージメント（経営）

●中期活動目標及び24年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	22年度実績	23年度実績	24年度実績
7-1 利用しやすい博物館をめざす施設の改善	点検・改善の状況		常設展示の改善	展示室の点検及び改善	常設展示の点検及び改善
7-2 博物館認知度の向上と利用者層の拡大	県民の博物館利用状況		常設展・企画展におけるアンケート調査	常設展・企画展におけるアンケート調査	常設展・企画展におけるアンケート調査
	県外利用者の割合		「ヒマラヤ」 8% 「藍染めの表象」 13% 「聖地巡礼」 8%	「人形・ひとがた」 10% 「博物館の宝もの」 9% 「描かれた地震」 9%	「海からどんぶらこ」 6% 「ほねほねワールド」 13% 「わざと美」 2%
7-3 県民参画の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討	ボランティア導入事業件数（全体・班会合、イベント）		合計32回 会合29回 イベント3回（8/7、11/23、2/11）	合計39回 会合36回 イベント3回（8/6・7、2/11）	合計29回 会合26回 イベント3回（8/4・5、2/11）
	ボランティア活動参加者数（登録者・参加延べ人数）		登録者11名 参加延べ人数61人	登録者25名 参加延べ人数163人	登録者20名 参加延べ人数174人
	運営支援組織の検討状況		文化庁美術館・歴史博物館基盤整備支援事業「徳島平和ミュージアムプロジェクト」の実施	県民参画型の博物館行事等の実施と仕組みづくりの検討	県民参画型の博物館行事等の実施と仕組みづくりの検討
7-4 設置者による理解及び外部資金の獲得	博物館予算の状況		2月補正後 44,124千円	2月補正後 28,209千円	2月補正後 35,360千円
	外部資金獲得数				
7-5 防災意識の向上と危機管理体制の強化	防災訓練の実施状況		自衛消防隊総合訓練 6月、12月；文化財防火デー1月28日	自衛消防隊総合訓練 6月	自衛消防隊総合訓練 11月
	危機管理体制の整備状況			文化の森3館棟4館で連携した危機管理体制の整備	文化の森3館棟4館で連携した危機管理体制の整備
7-6 職員の意識改革と資質の向上	取り組み状況		民博でのマネジメント系の研修	文科省・国立教育政策研究所、日博協の研修	奈良文化財研究所、国立科学博物館等の研修
7-7 博物館評価システムの構築	中期活動目標の状況		今後のあり方を検討するワーキンググループを設置	ワーキンググループでの検討を継続	ワーキンググループでの検討を継続。使命書の再検討。
	自己点検評価の状況		21年度事業自己点検・評価を年報、HPに掲載	22年度事業自己点検・評価を年報、HPに掲載	23年度事業自己点検・評価を年報、HPに掲載
	外部評価の状況		博物館協議会 9月30日	博物館協議会 9月2日	博物館協議会 8月28日

●自己評価

(7-1)

- ・展示室の点検を日常的に行い、展示内容の改善や維持管理に活かした。

(7-2)

- ・常設展、企画展、特別陳列をあわせた観覧者は昨年比べて増えている。24年度も企画展、特別陳列での観覧者へのアンケートを行った。県民の利用はおおむね90%前後であった。県外利用者の割合は、夏期の企画展「ほねほねワールド」で10%強であったが、他の企画展、特別陳列では数%だった。

(7-3)

- ・公募ボランティアによるイベント実施のため、職員との連携にもとづき、安定的な仕組みづくりについて検討した。
- ・こどもの日フェスティバル、文化の日フェスティバルなどの参加型の博物館行事に、ボランティアや友の会会員による協力を得た。

(7-4)

- ・厳しい財政状況の中、本年度も、前年度比10%削減というシーリングが継続された。臨時的な資料購入があったため、館運営予算は見かけ上23年度より増額されているが、それでも22年度の水準と比べると1,000万円程度少なかった。
- ・資料購入費は予算削減により70万円となったが、当館に収蔵すべき資料があったため、文化の森統括本部の支援を得て、8年ぶりの購入が実現した（総額700万円強）。

(7-5)

- ・防災訓練は、文化の森3館棟4館合同で11月に実施された。開館時間帯に行い、避難誘導等の問題点の確認を行った。
- ・停電、盗難、けが人や病人の発生等に備えた防災マニュアルも整備していく必要がある。

(7-6)

- ・奈良文化財研究所、国立科学博物館、その他関係団体が開催した研修会等に職員を派遣し、資質の向上を図った。

(7-7)

- ・21年9月に策定した第2期中期活動目標にもとづき、23年度事業の自己点検・評価を行い、その内容を年報やホームページに掲載した。また、8月の博物館協議会において討議いただいた（外部評価）。
- ・第3期中期活動目標の策定に向けて、ワーキンググループでの検討を継続した。とくに目標全体を総括する使命の内容について、職員全体での討議を進めた。

IX 観覧者統計

減免範囲の変更などにより、開館以来一貫した基準での統計とはなっていない。経年的な観覧者数の推移を見る場合、注意が必要である。

●平成24年度 博物館常設展観覧者数

(単位：人)

月	開館 日数	有 料 観 覧 者											無 料 観 覧 者														観 覧 者 総 数				
		個 人			団体(割引20%)			減免(割引50%)					有 料 観 覧 者 計	学 校 教 育					個 人					無 料 観 覧 者 計							
		一般	高校・ 大学生	小・中 学 生	一般	高校・ 大学生	小・中 学 生	大 人			高校・ 大学生	小・中 学 生		園	幼稚・保育園 人数	小学校 校 人数	中学校 校 人数	高校 校 人数	計	小学生	中学生	高校生	障がい者		高齢者	その他					
								高齢者	障がい者	計																					
4	26	389	5	10	25	0	0	92	14	106	0	0	535	0	0	0	0	1	135	1	334	2	469	428	35	38	-	-	771	1,741	2,276
5	26	326	10	6	175	0	0	46	11	57	0	0	574	3	365	21	1,661	0	0	1	15	25	2,041	906	42	22	-	-	2,086	5,097	5,671
6	26	396	23	1	33	0	0	60	9	69	0	0	522	6	125	1	39	0	0	0	0	7	164	366	12	19	-	-	273	834	1,356
7	26	299	8	9	31	0	0	56	10	66	0	0	413	0	0	1	18	1	3	1	7	3	28	806	62	44	-	-	1,864	2,804	3,217
8	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	140	0	0	0	0	0	0	3	140	2,876	234	115	-	-	7,916	11,281	11,281
9	26	711	30	6	42	0	0	-	-	-	-	-	789	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	560	26	29	78	208	693	1,594	2,383
10	26	375	14	10	157	0	0	-	-	-	-	-	556	5	315	14	871	1	2	0	0	20	1,188	341	26	34	110	715	486	2,900	3,456
11	26	197	12	1	24	0	0	-	-	-	-	-	234	3	182	9	657	0	0	0	0	12	839	480	46	16	93	760	1,732	3,966	4,200
12	24	406	20	0	20	0	0	-	-	-	-	-	446	0	0	6	357	0	0	0	0	6	357	287	42	25	36	135	371	1,253	1,699
1	23	618	14	3	42	0	0	-	-	-	-	-	677	1	170	1	38	0	0	2	47	4	255	347	39	21	33	173	476	1,344	2,021
2	24	470	19	1	26	0	0	-	-	-	-	-	516	4	68	0	0	2	14	0	0	6	82	723	35	19	34	159	1,360	2,412	2,928
3	27	488	29	5	23	0	1	-	-	-	-	-	546	9	418	0	0	0	0	0	0	9	418	454	26	21	41	131	420	1,511	2,057
計	308	4,675	184	52	598	0	1	254	44	298	0	0	5,808	34	1,783	53	3,641	5	154	5	403	97	5,981	8,574	625	403	425	2,281	18,448	36,737	42,545

●常設展観覧者数累計 (平成2～24年度)

(単位：人)

年 度	開館 日数	有 料 観 覧 者											無 料 観 覧 者														観 覧 者 総 数	
		個 人			団体(割引20%)			減免(割引50%)					有 料 観 覧 者 計	学 校 教 育					個 人					無 料 観 覧 者 計				
		一般	高校・ 大学生	小・中 学 生	一般	高校・ 大学生	小・中 学 生	大 人			高校・ 大学生	小・中 学 生		園	幼稚・保育園 人数	小学校 校 人数	中学校 校 人数	高校 校 人数	計	小学生	中学生	高校生	障がい者		高齢者	その他		
								高齢者	障がい者	計																		
2	118	49,512	4,218	16,163	6,686	76	1,603	9,788	571	10,359	57	48	88,722	-	-	55	4,877	6	640	12	1,972	73	7,489	-	-	1,066	8,555	97,277
3	301	55,578	4,749	20,287	6,876	271	1,421	9,319	709	10,028	19	53	99,282	-	-	202	26,165	44	6,960	21	2,443	267	35,568	-	-	2,267	37,835	137,117
4	299	33,150	3,318	12,505	3,285	194	420	4,482	446	4,928	48	13	57,861	-	-	114	10,781	23	3,709	14	3,305	151	17,795	1,401	-	2,076	21,272	79,133
5	300	28,762	2,413	10,974	2,629	251	364	3,306	239	3,545	2	3	48,943	5	293	118	12,204	22	2,939	6	832	151	16,268	1,398	-	2,871	20,537	69,480
6	299	20,640	1,712	8,149	1,807	159	330	2,399	150	2,549	5	18	35,369	38	2,547	90	7,980	22	3,246	9	730	159	14,503	1,195	-	1,080	16,778	52,147
7	300	19,950	1,353	7,556	867	220	217	2,639	243	2,882	3	0	33,048	27	1,542	99	8,641	20	3,311	4	253	150	13,747	2,085	-	7,493	23,325	56,373
8	305	13,294	922	5,326	891	44	96	1,699	144	1,843	3	15	22,434	30	1,788	81	8,114	18	2,780	7	776	136	13,458	1,390	-	19,839	34,687	57,121
9	306	11,115	791	3,957	706	149	53	1,563	219	1,782	17	3	18,573	24	1,261	80	6,059	21	2,994	7	746	132	11,060	829	-	14,258	26,147	44,720
10	307	10,039	700	4,008	446	28	93	1,129	135	1,264	1	11	16,590	16	990	52	3,823	8	988	5	954	81	6,755	1,337	-	14,209	22,301	38,891
11	307	8,778	642	3,595	390	148	89	1,027	179	1,206	1	21	14,870	25	913	62	4,323	12	1,472	7	583	106	7,291	1,881	-	13,846	23,018	37,888
12	306	8,653	484	3,351	456	153	132	1,371	241	1,612	1	10	14,852	33	1,270	58	3,654	11	1,905	6	546	108	7,375	2,161	-	13,744	23,280	38,132
13	306	6,950	418	2,810	608	3	56	1,217	132	1,349	3	8	12,205	20	920	58	2,771	14	1,409	6	441	98	5,541	2,275	-	12,017	19,833	32,038
14	306	7,661	372	130	381	68	89	1,126	206	1,332	1	0	10,034	25	1,158	42	3,382	8	1,006	6	630	81	6,176	11,373	-	9,766	27,315	37,349
15	307	8,724	363	111	380	117	2	1,490	125	1,615	1	0	11,313	27	1,365	55	4,105	5	447	6	571	93	6,488	11,732	-	10,264	28,484	39,797
16	305	9,769	393	114	608	63	1	1,803	208	2,011	1	4	12,964	38	1,393	73	4,063	13	730	8	282	132	6,468	13,532	-	11,705	31,705	44,669
17	306	7,570	281	73	356	95	2	1,616	271	1,887	0	1	10,265	32	1,240	52	3,440	11	789	2	314	97	5,783	10,432	-	9,157	25,372	35,637
18	307	8,917	413	46	566	5	0	1,451	176	1,627	0	1	11,575	39	1,579	61	4,472	12	605	5	511	117	7,167	11,252	-	11,481	29,900	41,475
19	308	7,651	351	78	504	13	2	1,480	230	1,710	3	0	10,312	34	1,453	62	4,056	8	609	3	257	107	6,375	10,448	-	13,497	30,320	40,632
20	306	6,785	386	54	474	37	0	1,122	177	1,299	0	2	9,037	33	1,364	56	3,241	6	543	2	54	97	5,202	10,352	-	12,580	28,134	37,171
21	307	7,608	357	71	661	38	1	1,330	325	1,655	1	2	10,394	33	1,397	69	4,892	15	828	5	454	122	7,571	11,042	-	13,422	32,035	42,429
22	306	6,631	307	53	634	40	4	1,308	265	1,573	2	0	9,244	31	1,420	54	3,596	10	512	6	280	101	5,808	8,795	-	11,207	25,810	35,054
23	309	4,552	218	79	784	71	4	766	316	1,082	6	7	6,803	30	1,471	62	3,548	10	751	5	503	107	6,273	9,043	-	17,412	32,728	39,531
24	308	4,675	184	52	598	0	1	254	44	298	0	0	5,808	34	1,783	53	3,641	5	154	5	403	97	5,981	9,602	2,706	18,448	36,737	42,545
計	6,829	346,964	25,345	99,542	31,593	2,243	4,980	53,685	5,751	59,436	175	220	570,498	574	27,147	1,708	141,828	324	39,327	157	17,840	2,763	226,142	133,555	2,706	243,705	606,108	1,176,606

●平成24年度 博物館企画展観覧者数

(単位：人)

企画展名	開催期間	開催日数	有料観覧者										無料観覧者										観覧者総数									
			個人			団体(割引20%)			減免(割引50%)				有料観覧者計	学校教育					個人					無料観覧者計								
			一般	高校生・大学生	小・中学生	一般	高校生・大学生	小・中学生	一般	高齢者	障がい者	計		幼稚園	小学校	中学校	高校	計	小学生	中学生	高校生	障がい者			その他							
																										園	人数	校	人数	校	人数	校
第1回企画展「ほねほねワールド」	H24.7.20 H24.9.2	39	6,710	187	0	209	2	0	668	137	805	2	0	7,915	3	140	2	34	1	9	0	0	0	5	183	5,382	381	206	61	3,330	9,543	17,458
第2回企画展「日本のわざと美」	H24.10.20 H24.11.25	32	1,567	28	4	62	0	0	1,212	-	1,212	-	-	2,873	3	182	14	1,098	0	0	0	0	0	17	1,280	143	25	47	129	492	2,116	4,989
合計		71	8,277	215	4	271	2	0	1,880	137	2,017	2	0	10,788	6	322	16	1,132	1	9	0	0	0	22	1,463	5,525	406	253	190	3,822	11,659	22,447

●企画展観覧者数累計(平成3～24年度)

(単位：人)

開催日数	個人	団体(割引20%)	減免(割引50%)							有料観覧者計	無料観覧者					観覧者総数											
			一般	高校生・大学生	小・中学生	一般	高校生・大学生	小・中学生	一般		高齢者	障がい者	計	高校生	小・中学生		一般	高校・大学生	小・中学生	その他	無料観覧者計						
																						一般	高齢者	障がい者	計	高校生	小・中学生
平成3年度	120	14,333	1,078	3,796	404	30	661	2,541	84	2,625	20	2	22,949				1,288	1,288	24,237								
平成4年度	86	12,269	915	6,856	476	55	147	1,176	50	1,226	0	5	21,949				1,143	1,143	23,092								
平成5年度	104	10,258	1,002	4,475	275	27	396	980	28	1,008	2	0	17,443				1,732	1,732	19,175								
平成6年度	112	7,593	708	1,060	222	0	277	1,264	36	1,300	0	6	11,166	4,811	462	2,098	1,221	8,592	19,758								
平成7年度	94	8,432	769	4,374	83	10	744	862	55	917	0	3	15,332	10,103	499	4,016	2,595	17,213	32,545								
平成8年度	114	7,044	869	2,681	28	37	1,330	1,054	64	1,118	33	1	13,141	0	0	0	2,960	2,960	16,101								
平成9年度	95	6,022	472	1,525	47	13	820	1,262	53	1,315	4	1	10,219	0	0	0	1,981	1,981	12,200								
平成10年度	107	6,364	266	3,766	53	3	1,367	660	71	731	0	15	12,565	0	0	0	3,476	3,476	16,041								
平成11年度	83	5,802	469	1,056	114	78	904	1,449	86	1,535	0	7	9,965	0	0	0	2,773	2,773	12,738								
平成12年度	145	5,225	336	2,186	30	0	79	914	58	972	0	6	8,834	9,888	741	5,155	8,797	24,581	33,415								
平成13年度	90	6,302	444	734	146	37	197	2,137	85	2,222	2	5	10,089	0	0	0	2,070	2,070	12,159								
平成14年度	93	4,381	135	36	34	0	0	857	36	893	0	0	5,479	0	601	5,214	1,941	7,756	13,235								
平成15年度	102	4,822	173	50	32	0	0	1,082	54	1,136	0	0	6,213	0	1,066	7,779	9,819	18,664	24,877								
平成16年度	99	12,474	310	118	65	35	0	1,211	94	1,305	0	3	14,310	0	365	12,106	6,029	18,500	32,810								
平成17年度	98	6,331	271	26	12	12	0	1,385	63	1,448	0	0	8,100	0	443	7,194	2,707	10,344	18,444								
平成18年度	125	7,765	248	34	140	0	0	1,245	136	1,381	0	0	9,568	0	489	9,911	3,317	13,717	23,285								
平成19年度	115	13,178	286	60	452	4	2	1,633	321	1,954	0	0	15,936	0	606	13,437	8,284	22,327	38,263								
平成20年度	97	6,376	209	6	185	2	0	1,026	175	1,201	3	0	7,982	0	356	7,627	5,242	13,225	21,207								
平成21年度	77	5,967	218	49	234	1	1	1,263	182	1,445	1	2	7,918	0	551	7,689	2,999	11,239	19,157								
平成22年度	98	3,596	142	16	138	0	0	1,771	134	1,905	0	0	5,797	0	267	3,973	2,428	6,668	12,465								
平成23年度	71	988	88	5	59	0	0	523	164	687	1	1	1,829	0	383	4,081	1,466	5,930	7,759								
平成24年度	71	8,277	215	4	271	2	0	1,880	137	2,017	2	0	10,788	0	253	7,072	4,334	11,659	22,447								
総合計	2,196	163,799	9,623	32,913	3,500	346	6,925	28,175	2,166	30,341	68	57	247,572	24,802	7,082	97,352	78,602	207,838	455,410								

●特別陳列観覧者数累計(平成4～24年度)

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
第1回館蔵品展	平5.2.16～3.21	29	6,712
掘ったでよ阿波	平6.2.1～2.27	23	4,090
掘ったでよ阿波	平7.1.13～2.5	21	3,165
第2回収蔵品展	平8.2.16～3.17	27	5,358
第3回館蔵品展「自然コレクション」	平11.7.17～8.29	38	22,372
写生大会作品展	平12.12.5～12.24	18	1,850
勝瑞時代 一細川・三好氏と阿波一	平13.10.25～11.25	32	5,766
丹波マンガン鑛山の記録 一在日コリアンの労働史一	平14.6.25～7.7	12	1,195
楠コレクションの美術・歴史資料	平15.1.21～3.2	36	4,655
知里幸恵生誕100年記念巡回展 自由の天地を求めて 一知里幸恵「アイヌ神謡曲集」への道一	平15.7.19～7.27	8	1,317
日本刀の美 一赤羽刀とその他の館蔵品一	平16.1.27～3.7	35	8,698
収蔵品展	平16.6.18～7.19	28	5,703
ひまわり作品展	平16.12.17～12.19	3	3,221
トクシマ・木工芸の道具と技	平18.1.8～1.29	19	3,475
吉野川の渡し	平18.2.18～3.19	26	3,848
旅と折りの道一阿波の巡礼一	平19.1.19～3.18	51	7,200
徳島城下町の世界	平20.1.17～3.2	40	5,168
空から見た徳島	平21.1.27～3.15	42	7,517
蝶に魅せられて 一愛好家たちのコレクション一	平21.7.18～8.30	38	9,777
八万町の昔を探ろう	平21.9.19～10.4	14	1,886
マンガラ 一チベット・ネパールの仏たち一	平21.12.12～平22.2.7	44	13,118
海を渡った人形と戦争の時代	平22.7.17～9.5	44	10,364
博物館の宝もの	平23.7.15～9.4	46	15,336
海からどんぶらこ一浜辺の漂着物一	平24.4.27～6.10	39	12,642
阿波盆踊図屏風	平24.9.25～10.3	8	702
合計		721	165,135

●移動展観覧者数

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者数
昆虫の世界(海南町立博物館)	平14.10.26～11.24	26	1,328
日本画書展一江戸から昭和まで一(藍住町歴史館蔵の館)	平16.12.2～12.27	26	898
戦争体験(藍住町立図書館)	平17.8.3～8.18	14	2,342
昆虫展(藍住町立図書館)	平17.8.19～9.11	21	3,210
北アメリカの植物(松茂町立歴史民俗資料館)	平18.2.4～3.5	26	1,867
海陽町の指定植物・北アメリカの植物(海陽町立博物館)	平18.7.22～8.27	32	481
牟岐大島の考古資料(牟岐町海の総合文化センター)	平19.4.26～5.15	20	353
阿波の板碑(阿南市立阿波公方・民俗資料館)	平19.6.5～7.22	42	197
中世阿波の板碑(藍の館)	平19.8.2～8.27	24	4,540
くらしの中の藍染め(東かがわ市歴史民俗資料館)	平19.10.20～11.18	26	291
丹波恐竜フェスティバル(兵庫県立人と自然の博物館)	平20.5.3～5.5	3	4,339
和泉層群の化石(東かがわ市歴史民俗資料館)	平20.7.19～8.31	38	523
海部郡の古代・中世(日和佐図書・資料館)	平20.7.19～9.7	44	431
那賀川平野の貝化石(阿南市立阿波公方・民俗資料館)	平20.9.25～11.9	41	956
達磨絵百態 横山天然の世界(藍の館)	平21.4.4～4.29	22	250
知らせる道具・広告(東かがわ市歴史民俗資料館)	平21.7.18～8.31	39	425
浜辺の植物(海陽町立博物館)	平21.7.25～8.30	32	401
国会議事堂の石(阿南市立阿波公方・民俗資料館)	平21.9.25～11.5	36	318
世界の昆虫(吉野川市美郷はたる館)	平21.11.21～平22.1.25	52	220
「ジノプラザ阿南」那賀川流域と県南部地域の化石展 一化石が教えてくれるもの一(阿南市科学センター)	平22.7.17～8.15	26	1,431
「旅をするチョウ・アサギマダラと県南のトンボ展」 (日和佐図書・資料館)	平22.7.21～9.5	41	820
巡回展「海を渡った人形と平和の願い」①(貞光ゆうゆう館)	平22.9.18～9.20	3	1,467
巡回展「海を渡った人形と平和の願い」②(海陽町立博物館)	平22.9.23～10.3	10	360
巡回展「海を渡った人形と平和の願い」③ (松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館)	平22.10.9～10.17	8	1,242
空から見た徳島(日和佐図書・資料館)	平23.7.22～9.11	44	1,663
阿波の遠洋漁業(日和佐図書・資料館)	平24.9.6～9.30	19	439
生物多様性大博覧会「徳島県の自然史」(郷土文化会館)	平25.1.26～27	2	1,385
合計		717	32,177

●博物館利用者総数年度別一覧

年度	常設展		常設展観覧者合計	企画展観覧者	特別陳列観覧者	移動展	普及行事参加者	その他	利用者総数
	有料観覧者	無料観覧者							
2年度	88,722	8,555	97,277	0	0	-	646	-	97,923
3年度	99,282	37,835	137,117	24,237	0	-	1,387	-	162,741
4年度	57,861	21,272	79,133	23,092	6,712	-	1,718	-	110,655
5年度	48,943	20,537	69,480	19,175	4,090	-	1,686	-	94,431
6年度	35,369	16,778	52,147	19,758	3,165	-	2,843	-	77,913
7年度	33,048	23,325	56,373	32,545	5,358	-	4,132	-	98,408
8年度	22,434	34,687	57,121	16,101	0	-	2,419	-	75,641
9年度	18,573	26,147	44,720	12,200	0	-	2,232	-	59,152
10年度	16,590	22,301	38,891	16,041	0	-	1,890	-	56,822
11年度	14,870	23,018	37,888	12,738	22,372	-	2,461	-	75,459
12年度	14,852	23,280	38,132	33,415	1,850	-	4,513	1,561	79,471
13年度	12,205	19,833	32,038	12,159	5,766	-	3,634	2,137	55,734
14年度	10,034	27,315	37,349	13,235	5,850	1,328	3,414	1,735	62,911
15年度	11,313	28,484	39,797	24,877	10,015	-	4,501	2,628	81,818
16年度	12,964	31,705	44,669	32,810	8,924	898	3,692	4,829	95,822
17年度	10,265	25,372	35,637	18,444	7,323	7,419	5,944	4,629	79,396
18年度	11,575	29,900	41,475	23,285	7,200	481	6,143	6,763	85,347
19年度	10,312	30,320	40,632	38,263	5,168	5,381	5,140	75,854	170,438
20年度	9,037	28,134	37,171	21,207	7,517	6,249	6,041	11,963	90,148
21年度	10,394	32,035	42,429	19,157	24,781	1,614	8,535	35,260	131,776
22年度	9,244	25,810	35,054	12,465	10,364	5,376	10,329	30,071	103,659
23年度	6,803	32,728	39,531	7,759	15,336	1,663	6,594	9,979	80,862
24年度	5,808	36,737	42,545	22,447	13,344	1,824	10,797	6,097	97,054
累計	570,498	606,108	1,176,606	455,410	165,135	32,233	100,691	193,506	2,123,581

※特別陳列は自主事業のみの観覧者数。その他は、人権啓発展と共催事業を合わせた観覧者数。

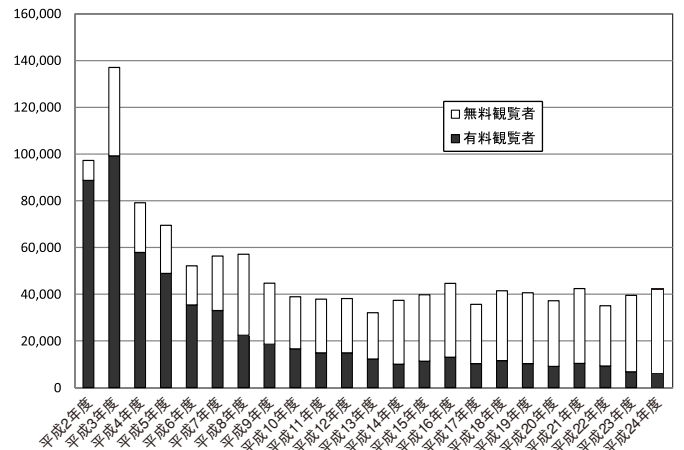
●人権啓発展等観覧者数

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者数
2000年度同和問題啓発展	平12.8.26～9.8	12	1,561
2001年度同和問題啓発展	平13.8.4～8.12	8	1,290
〃 第2回	平13.12.4～12.9	6	847
2002年度同和問題啓発展	平14.7.27～8.4	8	1,066
〃 第2回	平14.12.3～12.8	6	669
2003年度人権問題啓発展	平15.8.2～8.10	8	1,414
〃 第2回	平15.12.2～12.7	6	911
2004年度人権問題啓発展	平16.8.7～8.15	8	1,568
〃 第2回	平16.12.7～12.12	6	753
2005年度人権問題啓発展	平17.8.6～8.14	8	1,594
〃 第2回	平17.12.6～12.11	6	656
2006年度人権問題啓発展	平18.8.5～8.13	8	1,532
〃 第2回	平18.12.5～12.10	6	589
2007年度人権問題啓発展	平19.12.4～12.9	6	589
2008年度人権問題啓発展	平20.12.2～12.7	6	599
2009年度人権問題啓発展	平21.12.1～12.6	6	430
2010年度人権問題啓発展	平22.11.30～12.5	6	670
2011年度人権問題啓発展	平23.12.6～12.11	6	383
2012年度人権問題啓発展	平24.12.4～12.9	6	356
合計		132	17,477

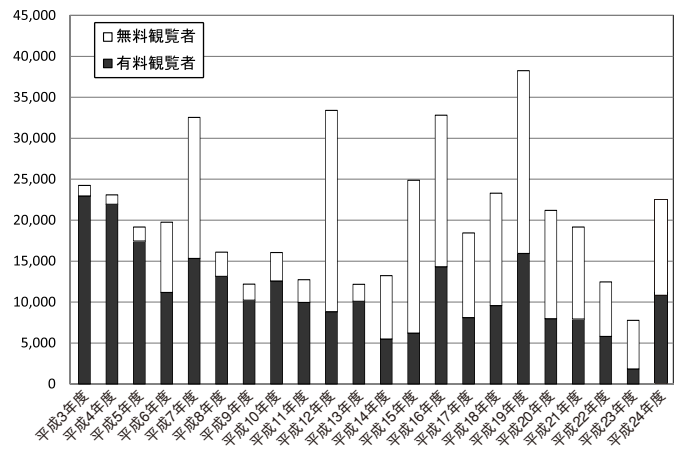
●その他(啓発展を除く共催事業)観覧者数(平成15年度～)

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者数
21世紀館との共催事業(アイヌ工芸品展)	平15.7.19～8.31	38	303
全国高等学校総合文化祭	平16.7.30～8.3	5	2,508
人形ウィーク	平17.8.20～8.28	8	1,824
ふれあい生きもの展	平18.3.25～3.26	2	555
子どもの絵	平18.4.29～5.7	8	3,341
愉快な森のコンサート	平18.5.5	1	950
日本古生物学会	平19.2.2～2.3	2	325
バラタクソノミスト養成講座	平19.2.17～2.18	2	26
第22回国民文化祭・とくしま2007	平19.10.27～11.4	9	71,244
「天正の落日と曙光—守護町勝瑞から城下町徳島へ—」(徳島城博物館)	平19.12.4～平20.1.27	41	4,021
夏休み人権セミナー「戦争とくらし」	平20.8.3	1	42
科学体験フェスティバルin徳島(徳島大学)	平20.8.9～8.10	2	1,192
2008年度鳴門史学会研究大会	平20.10.18	1	80
かんさい自然フェスタ2008(大阪市立自然史博物館)	平20.11.15～11.16	2	10,050
科学体験フェスティバルin徳島(徳島大学)	平21.8.8～8.9	2	1,212
スタジオジブリ・レイアウト展(21年度)	平22.2.20～3.31	34	33,618
スタジオジブリ・レイアウト展(22年度)	平22.4.1～4.18	16	25,113
軌跡—継統と蓄積—	平22.10.23～11.23	27	4,165
「四国遍路と地域文化」を考える	平23.2.5	1	53
鳥居ミュージアムトーク	平23.3.21	1	70
阿波踊りフェスタ「阿波踊りの絵はがき」	平23.7.20～8.28	36	4,038
科学体験フェスティバルin徳島(徳島大学)	平23.8.6～8.7	2	1,612
鳥居龍藏の歩いたアジアの自然	平23.10.29～12.4	32	1,347
企画展「鳥居龍藏の見た台湾」	平24.1.28～3.11	38	2,599
科学体験フェスティバルin徳島(徳島大学)	平24.8.4～8.5	2	1,772
鳥居ミュージアムトーク	平24.9.30	1	5
鳥居ミュージアムトーク	平24.11.25	1	27
特別陳列「鳥居龍藏とアイヌ—北方のまなざし—」	平25.1.26～3.3	32	5,465
合計		347	177,557

●常設展観覧者数(平成2～24年度)



●企画展観覧者数(平成3～24年度)



X 施設の概要

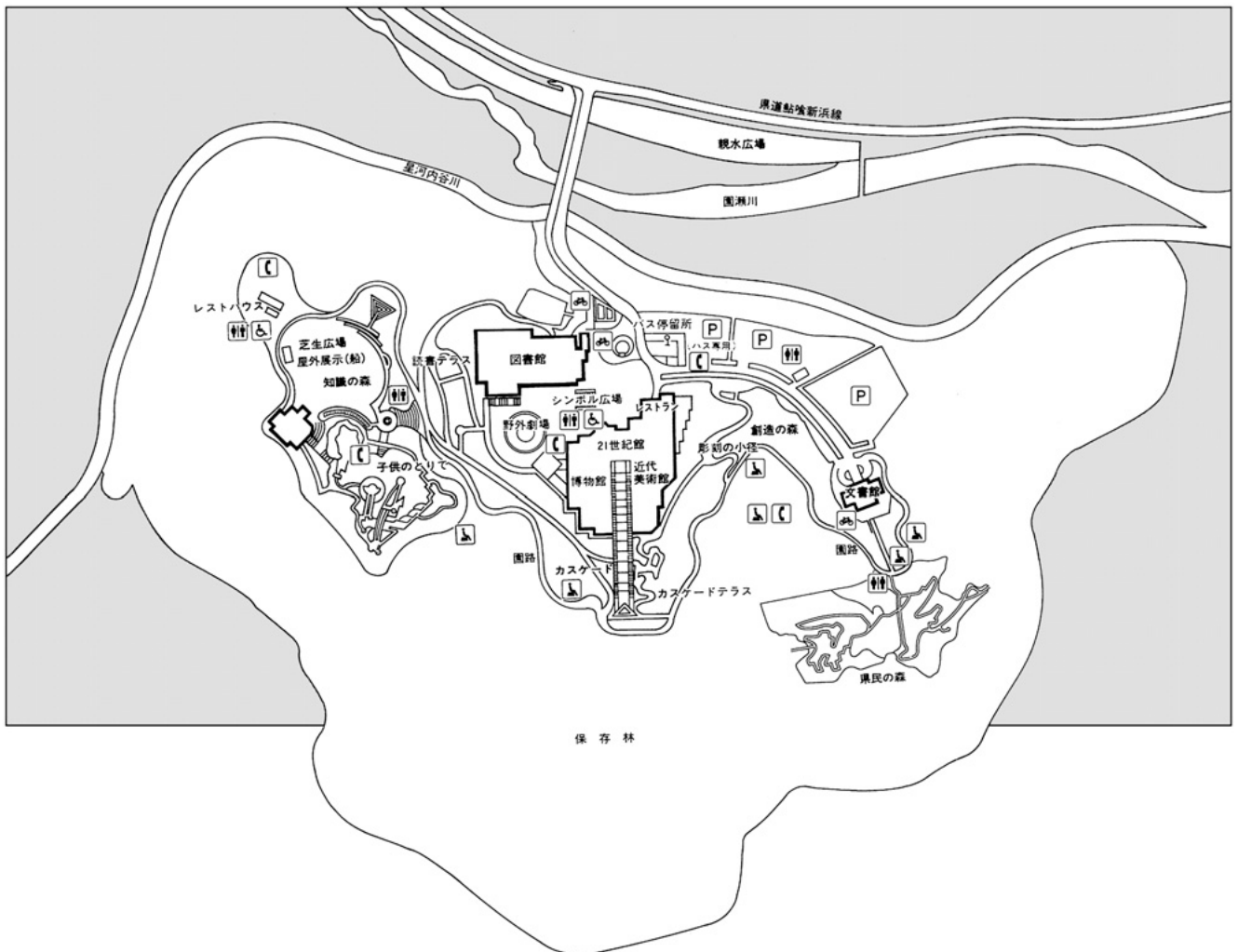
1. 沿革

昭和34年12月	旧博物館（徳島県博物館）設置及び開館 （旧博物館に関する沿革は「徳島県博物館30年史」参照）
昭和55年1月	文化の森構想発表
4月	置県百年記念文化施設等整備基金設置
昭和56年2月	文化の森懇話会報告書提出
昭和57年3月	文化の森建設地を徳島市八万町向寺山及び寺山に決定
12月	博物館基本構想検討委員会を設置
昭和58年3月	文化の森総合公園を都市計画決定
昭和59年1月	博物館基本構想検討委員会が「徳島県立博物館基本構想報告書」を知事に提出
4月	美術品等取得基金設置
5月	博物館資料収集展示委員会を設置
昭和60年8月	文化の森総合公園起工式挙行、基盤整備工事に着手 徳島県とアルゼンチン共和国プラタ大学との相互贈与に関する合意書締結
昭和61年3月	文化の森の各文化施設基本設計（文書館を除く）及び博物館展示基本設計完了
昭和62年3月	各文化施設実施設計及び博物館展示実施設計完了
8月	各文化施設（文書館を除く）建設工事着手
昭和63年7月	博物館展示工事着手
平成元年4月	旧博物館展示室閉室
12月	博物館・近代美術館・二十一世紀館棟本体工事竣工
平成2年3月	旧博物館閉鎖
4月	文化の森総合公園文化施設条例施行により、博物館（徳島県立博物館）及び博物館協議会設置
10月	博物館展示工事竣工
11月	文化の森総合公園開園、博物館開館
平成3年2月	博物館資料収集委員会設置
平成4年3月	日本育英会の第一種学資金の返還を免除される職を置く研究所等に指定される
平成8年4月	博物館管理規則の一部改正により、全祝日・休日の開館を実施
平成15年7月	科学研究費補助金の申請を行うことができる学術研究機関に指定される

2. 施設の概要

●所在地	徳島市八万町向寺山
●敷地面積	40.6ha（文化の森総合公園全体）
●建築面積	8,363㎡（3館棟）
●延床面積	22,382㎡（4館合計－積層部分を含めると23,814㎡） 8,063㎡（博物館占用スペース）
●構造規模	鉄筋鉄骨コンクリート造 地上4階・塔屋1階・地下1階

- 設計 (株)佐藤武夫設計事務所・(株)日建設計・(株)環境建築研究所 共同企業体
- 施行
 - 建築 …………… 大成建設・フジタ工業・不動建設・熊谷組・間組 共同企業体
 - 電気 …………… 四国電気工業・近畿電気工事 共同企業体
 - 空調 …………… 東洋熱工業・三機工業・ナミレイ 共同企業体
 - 管 …………… 朝日工業社・大成設備 共同企業体
 - エレベータ …………… (株)東芝
 - 家具 …………… 富士ファニチア(株)
 - 移動展示ケース …………… (株)三井
 - 展示 …………… (株)丹青社



3. 博物館各室面積

1 階	
室名	面積㎡
企画展示室	325
同上準備室	46
地学収蔵庫	186
考古収蔵庫	361
一時保管庫	89
倉庫	135
冷凍室	19
石工室	41
その他共用部分※	771
小計	1,973

3 階	
室名	面積㎡
暗室	23
倉庫	21
倉庫	15
エレベーターホール	37
湯沸室	12
講座室	123
実習室	146
実習・講座準備室	34
レファレンスルーム	81
館長室	53
応接室	21
事務室	133
研究室(自然史)	106
生物標本作成室	28
飼育室	21
研究室(人文)	80
地学考古民俗作業室	64
分析室1	64
分析室2	48
X線撮影室	48
保存処理室2	100
薬品庫	22
資料鑑定室	22
生物液浸収蔵庫	100
電子顕微鏡室	30
書庫	97
資料室	20
書類保管庫	35
その他共用部分※	468
小計	2,052

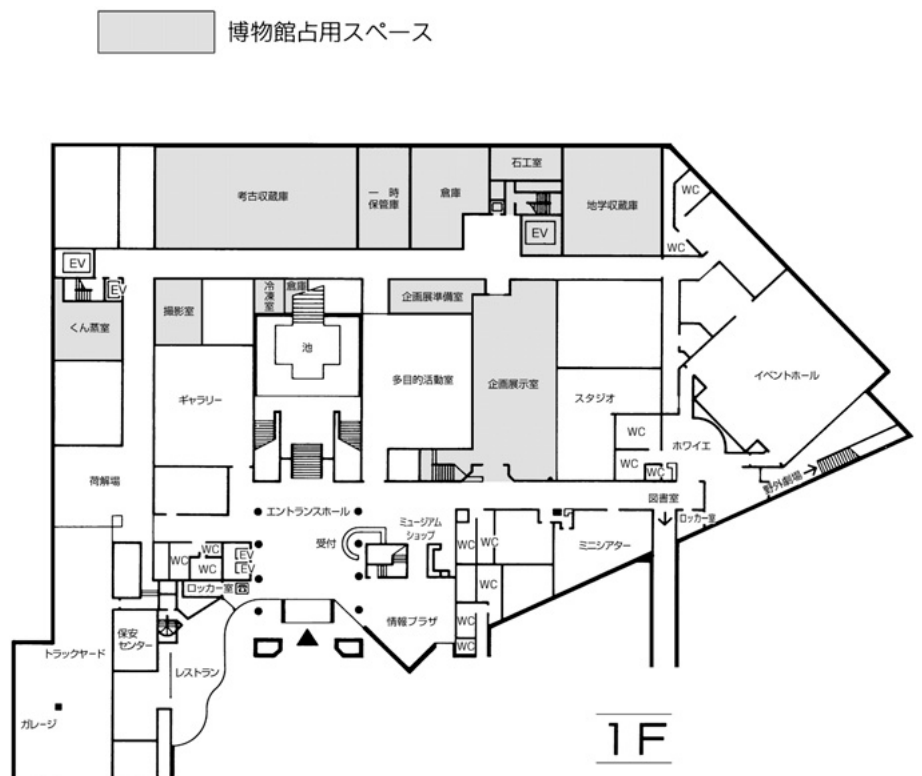
2 階	
室名	面積㎡
総合展示室	1,252
ラプラタ記念ホール	210
部門展示室(人文)	251
部門展示室(自然)	250
休憩室	21
休憩コーナー	39
展示ロビー	407
エレベーターホール	20
廊下	65
その他共用部分※	442
小計	2,957

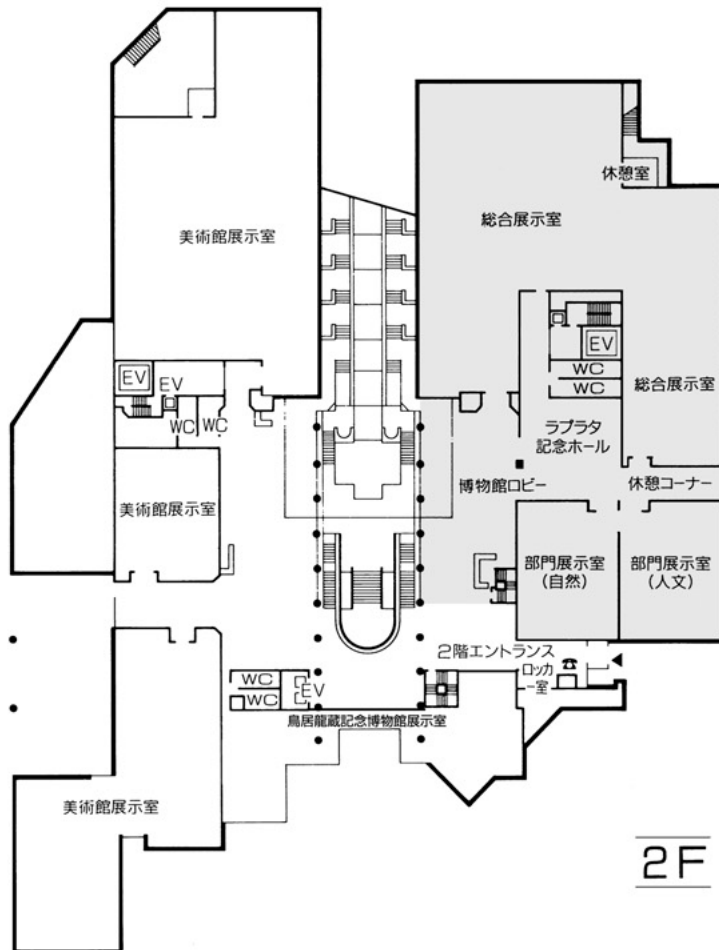
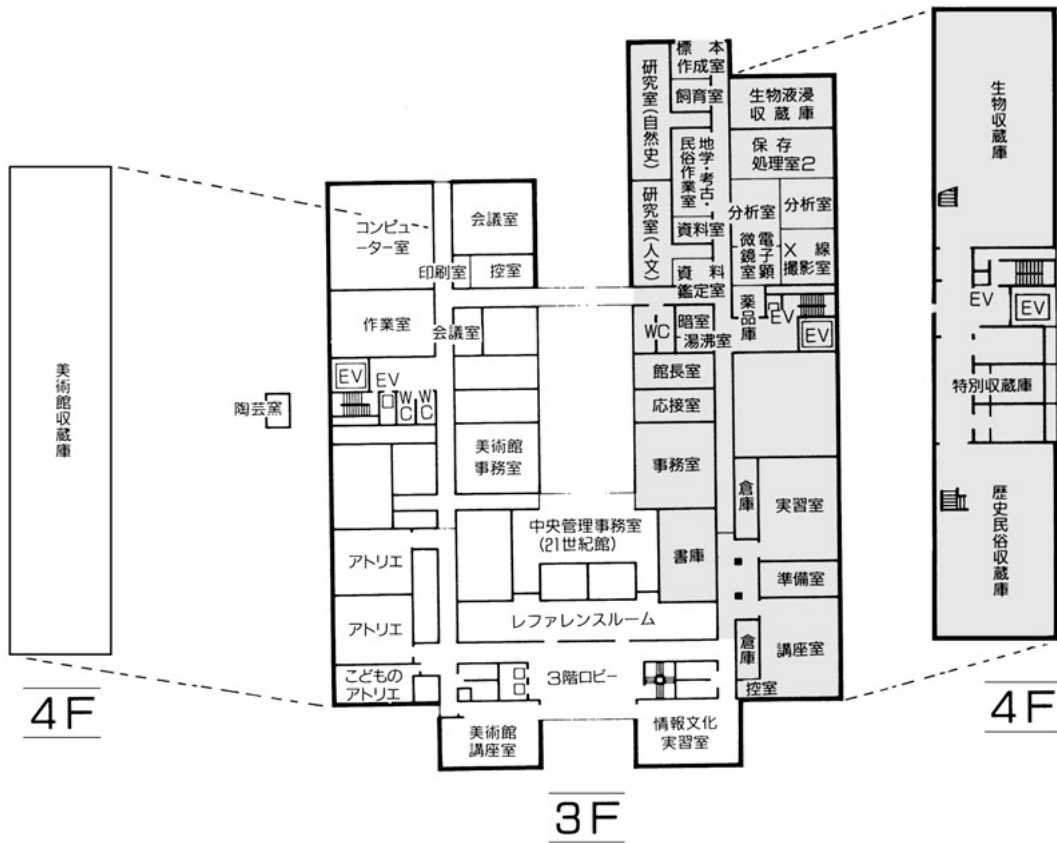
4 階	
室名	面積㎡
エレベーターホール	45
特別収蔵庫1	37
特別収蔵庫2	37
馴化室	35
歴史民俗収蔵庫	357
生物収蔵庫	380
その他共用部分※	151
小計	1,042

屋1階	
室名	面積㎡
その他共用部分※	39
小計	39

合計	
8,063㎡	

※は荷解場、廊下、便所、空調機械室など共用部分の、美術館および21世紀館との案分面積。





XI 例 規

●徳島県文化の森総合公園文化施設条例 [抜粋]

制 定 平成2年3月26日 徳島県条例第11号

最近改正 平成25年3月22日 徳島県条例第24号

(設置)

第1条 個性豊かな県民文化を振興し、魅力のある地域づくりに寄与するため、県民の文化活動の拠点として、徳島県文化の森総合公園文化施設（以下「文化施設」という。）を徳島市八万町に設置する。

(名称及び業務)

第2条 文化施設の名称及び業務は、次のとおりとする。

名 称	業 務
徳島県立博物館 (以下「博物館」という。)	(1) 考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料（鳥居龍蔵に関する資料を除く。以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。 (2) 博物館資料に関する調査研究を行うこと。 (3) 博物館資料に関する観察会、講座等の教育普及事業を行うこと。 (4) 考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する講座等の文化活動のために博物館講座室を利用に供すること。 (5) その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

(徳島県立図書館、徳島県立近代美術館、徳島県立文書館、徳島県立二十一世紀館、徳島県立鳥居龍蔵記念博物館の業務は省略)

(利用の許可)

第3条 次の表に掲げる文化施設の施設又は用具を利用しようとする者は、あらかじめ、徳島県教育委員会（以下「教育委員会」という。）の許可（以下「利用の許可」という。）を受けなければならない。

区 分	施 設 又 は 用 具
博 物 館	博物館講座室

(観覧料等)

第4条 博物館が展示する博物館資料、美術館が展示する美術館資料又は鳥居記念館が展示する鳥居記念館資料を観覧する者に対しては、別表第1に掲げる額の観覧料を徴収する。

2 利用の許可を受けた者に対しては、別表第2に掲げる額の使用料を徴収する。

3 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料又は使用料の全額又は一部を免除することができる。

4 観覧料及び使用料の徴収の時期及び方法その他観覧料及び使用料に関し必要な事項は、規則で定める。

(損害の賠償)

第5条 文化施設を利用する者は、文化施設の施設、資料等をき損し又は亡失したときは、これによって生じた損害を賠償しなければならない。ただし、知事は、当該き損又は亡失がやむを得ない理由によるものと認め

るときは、その賠償責任の全部又は一部を免除することができる。

(職員)

第6条 図書館法（昭和25年法律第118号）及び博物館法（昭和26年法律第285号）に定めるもののほか、文化施設に、館長その他必要な職員を置く。

(協議会)

第7条 教育委員会の附属機関として、次の表の上欄に掲げる協議会を置き、これらの協議会の所掌事務は、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

協議会の名称	所掌事務
徳島県立博物館協議会	博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べること。

(他館の各協議会の所掌事務は省略)

- 2 協議会は、委員10人以内で組織する。
- 3 徳島県立図書館協議会、徳島県立博物館協議会、徳島県立近代美術館協議会及び徳島県立鳥居龍蔵記念博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから任命するものとする。
- 4 (省略)
- 5 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 6 委員は、再任されることができる。
- 7 前各項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(教育委員会規則への委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、文化施設の管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

別表第1 (第4条関係)

区分	単位	金額			
		常設展		企画展	
		個人	団体(20人以上をいう。以下同じ。)	個人	団体
小学校の児童及び中学校の生徒	1人1回	50円	40円	知事はその都度定める額	
高等学校の生徒並びに高等専門学校及び大学の学生並びにこれらに準ずる者	1人1回	100円	80円		
その他の者(学齢に達しない者を除く。)	1人1回	200円	160円		

別表第2 (第4条関係)

区分	単位	金額
博物館講座室	午前	2,100円
	午後	3,400円

(他館の施設等は省略)

備考

- 1 「午前」とは午前9時30分から正午までを、「午後」とは午後1時から午後5時までを、「夜間」とは午後6時から午後9時までをいう。
- 2 午前から午後まで、午後から夜間まで又は午前から夜間まで引き続き利用する場合の使用料の額は、この表の区分に応じたそれぞれの使用料の額を加えて得た額とする。

- 3 営利又は営業のための宣伝その他これらに類する目的で利用する場合の集会室1、集会室2、博物館講座室、ギャラリー、美術館講座室、イベントホール、多目的活動室、ミニシアター、スタジオ、ミーティングルーム又は野外劇場の使用料の額は、この表及び前項の規定にかかわらず、同表の区分に応じた使用料の額又は同項の規定により算出した使用料の額に百分の五百を乗じて得た額とする。

●徳島県立博物館管理規則

制 定 平成2年3月31日 徳島県教育委員会規則第9号
最近改正 平成25年3月29日 徳島県教育委員会規則第3号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島県立博物館（以下「博物館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(休館日)

第2条 博物館の休館日は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 月曜日 ただし、その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その後においてその日に最も近い休日でない日
- (2) 12月29日から翌年の1月4日までの日

2 徳島県立博物館長（以下「館長」という。）は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず臨時に休館し、又は同項に規定する休館日に開館することができる。

(供用時間)

第3条 博物館の供用時間は、午前9時30分から午後5時までとする。

2 館長は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、同項に規定する供用時間を変更することができる。

(利用の許可の申請等)

第4条 徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号。以下「条例」という。）第3条の許可（以下「利用の許可」という。）を受けようとする者は、徳島県立博物館利用許可申請書（別記様式）を館長に提出しなければならない。

2 前項の申請書は、利用しようとする日（その日が引き続き2日以上に及ぶときは、その初日。）の前日から起算して3月前の日以後に提出するものとする。ただし、館長が相当の理由があると認めるときは、この限りでない。

3 館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、利用の許可をしないものとする。

- (1) 公の秩序を乱し、又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。
- (2) その他博物館の管理上支障があると認められるとき。

(利用の許可等の通知)

第5条 館長は、前条第1項の申請書を受理したときは、利用の許可をするかどうかを決定し、その旨を当該申請者に通知するものとする。

(利用の許可の取消し等)

第6条 館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、当該利用の許可を取り消し、又は施設の利用の中止を命ずることができる。

- (1) 第4条第3項各号のいずれかに該当する理由が生じたとき。
- (2) 利用の許可を受けた者（以下「利用者」という。）が利用の許可に付した条件に違反したとき。
- (3) 利用者が偽りその他不正な手段により利用の許可を受けた事実が明らかとなったとき。
- (4) 利用者が条例又はこの規則の規定に違反したとき。

(利用の内容の変更等)

第7条 利用者は、施設を利用できなくなったとき、又は利用の許可の内容を変更して施設を利用しようとするときは、直ちにその旨を文書で館長に届け出なければならない。

(遵守事項)

第8条 博物館を利用する者は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号）及びこの規則並びに館長が別に定める利用者心得その他の規律を守らなければならない。

(入館の禁止等)

第9条 館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、入館を禁止し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 泥酔者及び伝染性の疾病にかかっていると認められる者
- (2) 前条の規定に違反し、又はそのおそれがある者

(資料の特別利用)

第10条 学術その他の目的のために博物館資料の撮影、模写等をしようとする者は、あらかじめ、館長の承認を受けなければならない。

(補則)

第11条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理に関し必要な事項は、館長が定める。

別記様式 省略

●徳島県立博物館協議会規則

制 定 平成2年3月31日 徳島県教育委員会規則第4号

最近改正 平成24年3月30日 徳島県教育委員会規則第6号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号）第7条第7項の規定に基づき、徳島県立博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第2条 協議会に、会長及び副会長1人を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選によって定める。
- 3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第3条 協議会の会議は、会長が招集する。

- 2 協議会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ、開くことができない。
- 3 協議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(雑則)

第4条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

●徳島県教育委員会行政組織規則 [抜粋]

制 定 昭和45年3月31日 徳島県教育委員会規則第4号
最近改正 平成25年3月29日 徳島県教育委員会規則第2号

第1章 総 則 (省略)

第2章 事務局 (省略)

第3章 教育機関 [博物館に該当する条項のみの抜粋]

第3節 徳島県立博物館

(名称及び位置)

第24条 徳島県文化の森総合公園文化施設条例により設置された徳島県立博物館（以下「博物館」という。）の名称及び位置は、次の表に掲げるとおりとする。

名 称	位 置
徳 島 県 立 博 物 館	徳島市八万町向寺山

(内部組織等)

第25条 博物館に自然課及び人文課を置く。

2 前項の課の分担事務は、館長が定める。

(業務)

第26条 博物館の業務は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料（鳥居龍蔵に関する資料を除く。以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 博物館資料に関する調査研究を行うこと。
- (3) 博物館資料に関する観察会、講座等の教育普及事業を行うこと。
- (4) 考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する講座等の文化活動のために博物館講座室を利用に供すること。
- (5) その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

(所長等の職務)

第32条 総合教育センター及び埋蔵文化財総合センターの所長、文書館及び二十一世紀館の館長は、上司の命を受け当該教育機関の事務をつかさどり、所属職員を指揮監督する。

(副所長等)

第33条 上司の命を受け、教育機関の長を補佐させるため、次の表の上欄に掲げる職を同表の相当下欄に掲げる教育機関に置く。

職	教 育 機 関
副 館 長	図書館、博物館、美術館、文書館、二十一世紀館、鳥居記念館

(総合教育センターその他の職は省略)

- 2 教育機関の長に事故があるとき、又は教育機関の長が欠けたときは、教育委員会が指定する職員が、その職務を代行する。ただし、やむを得ない事由により教育委員会が教育機関の長の職務を代行する職員を指定することができないときは、当該機関に属する副所長、次長又は副館長（2人以上置かれているときは、当該教育機関の長が指定する次長又は副館長）が、その職務を代行する。

(主幹等)

第34条 前条に規定する職のほか、教育機関に、次の表の上欄に掲げる職のうち必要な職を置き、その職務は、それぞれ同表の相当下欄に掲げるとおりとする。

職	職 務
課 長	上司の命を受け、課の事務を処理する。
課 長 補 佐	上司の命を受け、特に高度の知識又は経験を必要とする事務、技術又は専門的事務に従事する。
上 席 学 芸 員	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の重要施策又は重要事業の推進に関する専門的事務に従事する。
専 門 学 芸 員	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の重要施策又は重要事業の推進に関する専門的事務に従事する。
学 芸 係 長	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする博物館、美術館又は鳥居記念館の専門的事務に従事する。
主 任	上司の命を受け、相当の知識又は経験を必要とする事務又は技術若しくは専門的事務に従事する。
主 任 学 芸 員	上司の命を受け、相当の経験を必要とする博物館、美術館又は鳥居記念館の専門的事務に従事する。
学 芸 員	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の専門的事務に従事する。

(司書、技師その他の博物館に置いていない職は省略)

第4章 附属機関

(附属機関)

第37条 附属機関の名称、庶務を担当する課又は教育機関は、次の表に掲げるとおりとする。

名 称	庶務を担当する課等又は教育機関
徳 島 県 立 博 物 館 協 議 会	博物館

(事務局の各審議会、他館の協議会等は省略)

徳島県立博物館年報 第22号（平成24年度）

平成25（2013）年7月31日 発行

編集・発行：徳島県立博物館

〒770-8070 徳島市八万町向寺山

（文化の森総合公園内）

TEL (088) 668-3636 FAX (088) 668-7197

Eメール museum@mt.tokushima-ec.ed.jp

ホームページ <http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp/>

印 刷：原田印刷出版株式会社
